資料１

防府市子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査報告書

平成２６年３月

目　　次

Ⅰ　調査概要 1

Ⅱ　就学前児童調査結果
１　対象者及び保護者の特性 4
２　祖父母などに預かってもらっている状況 7
３　保護者の就労状況について 8
４　平日の定期的な教育・保育事業の利用状況 14
５　平日の定期的な教育・保育事業の利用希望 21
６　子育て支援サービスの認知状況、利用状況 22
７　休日の定期的な教育・保育事業の利用希望 26
８　病児・病後児保育について 30
９　一時預かりについて 34
10　留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブについて 37
11　育児休業制度等の利用状況 42
12　「ファミリーサポートセンター」の利用状況 49
13　子ども家庭支援センター「海北」の利用状況 51
14　児童虐待について 52
15　子育て全般について 53
16　本市の子育て支援策についての満足度と重要度 57

Ⅲ　小学生調査結果
１　対象者及び保護者の特性 61
２　祖父母などに預かってもらっている状況 63
３　保護者の就労状況について 64
４　留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブについて 69
５　病児・病後児保育について 83
６　一時預かりについて 87
７　「ファミリーサポートセンター」の利用状況 90
８　子ども家庭支援センター「海北」の利用状況 92
９　児童虐待について 93
10　子どもの居場所について 94
11　子どもの地域活動への参加状況について 96
12　子育て支援サービスの認知状況、利用状況 97
13　子育て全般について 99
14　本市の子育て支援策についての満足度と重要度 103

Ⅰ　調査概要

１　調査の目的

国において平成 24 年 8 月に「子ども・子育て関連３法」が制定され、新制度の基礎自治体となる市町村に「子ども・子育て支援事業計画」の策定が義務づけされました。

これを受けて、本調査は、平成 27 年度を初年度とする『防府市子ども・子育て支援事業計画』の策定に向けて、市民の子育て支援に関する生活実態やご要望・ご意見などを把握するために、「防府市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」を実施しました。

２　調査実施方法

調査は、以下の方法により実施しました。

区　分	就学前児童調査	小学生調査
1.調査対象者と抽出方法	防府市に居住する就学前児童の保護者	防府市に居住する小学生の保護者
2.調査方法	郵送により配布・回収	郵送により配布・回収
3.調査期間	平成 25 年 10 月８日～31 日	平成 25 年 10 月８日～31 日
4.回収状況	対象児童数　6,346 人 配布数　2,000 人 回収数　1,213 人 回収率　60.65%	対象児童数　6,304 人 配布数　2,000 人 回収数　1,200 人 回収率　60.00%

３　集計にあたっての注意点

グラフは、パーセントで示しています。

グラフ中に表示している「N=」は、パーセントを計算するときの母数となるサンプル数（回答者数）を示しています。

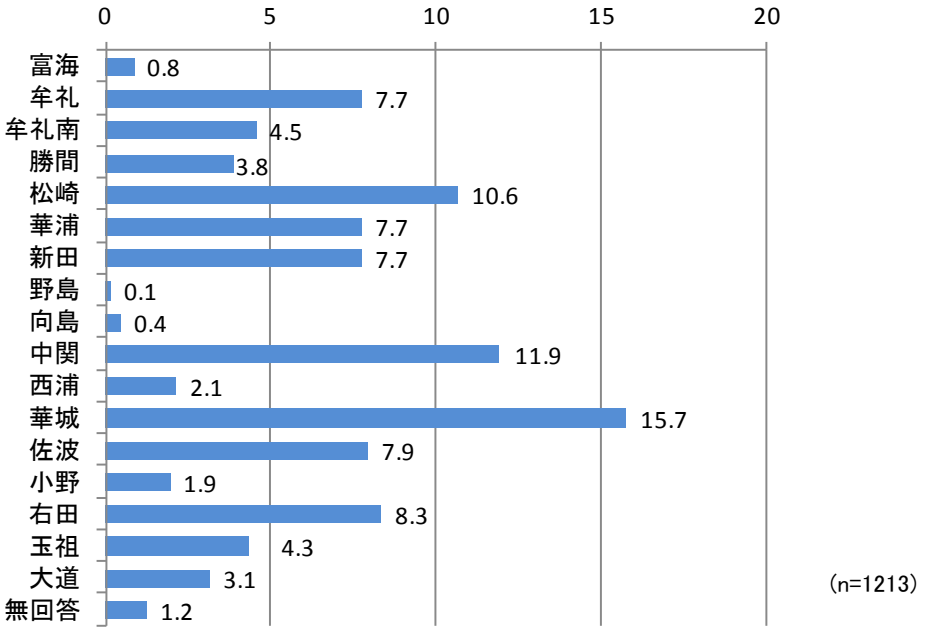
算出されたパーセントは、小数第二位を四捨五入して、小数第一位までの表示としているため、その合計が必ずしも 100.0%にならない場合もあります。

また、複数回答で質問している調査項目においては、その合計は 100.0%を超えます。

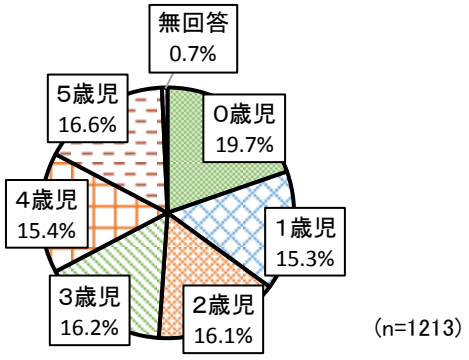
Ⅱ　就学前児童調査結果

1. 対象者及び保護者の特性

問 1. 小学校区

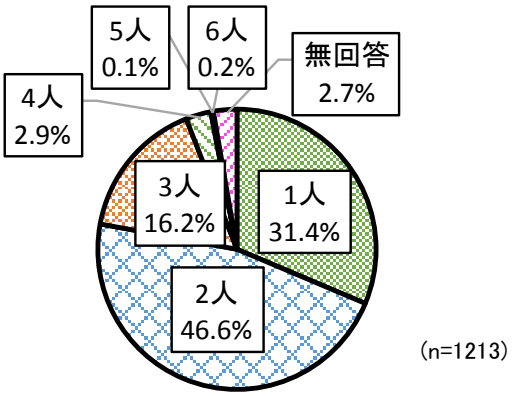


問 2. 子どもの年齢

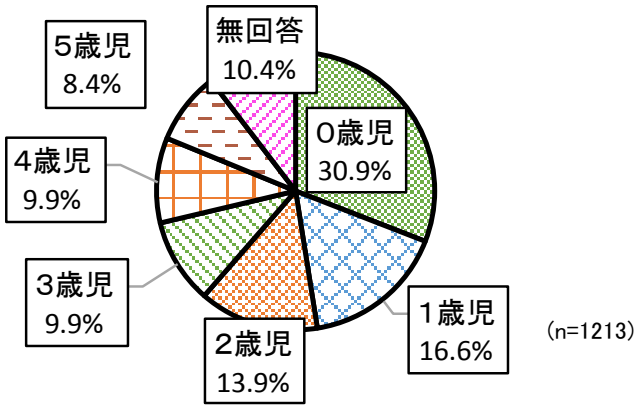


問 3. 子どもの数と末子の年齢

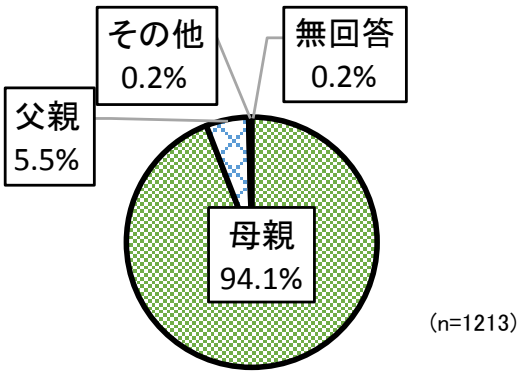
【子どもの数】



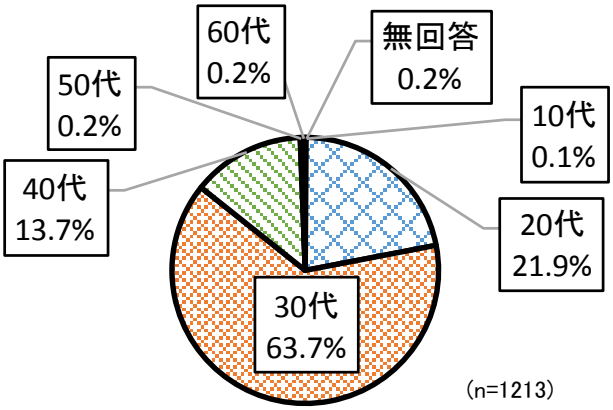
【末子の年齢】



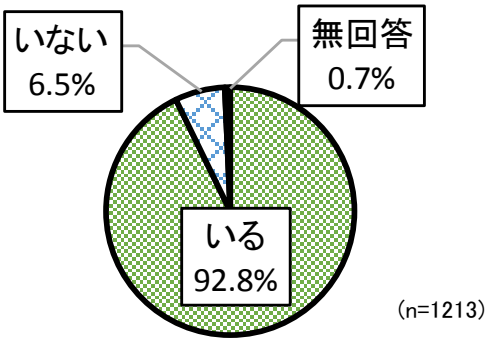
問 4. 子どもとの続柄



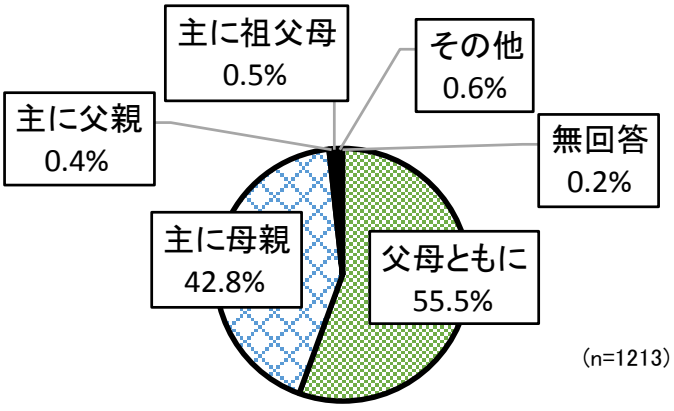
問 5. 保護者の年齢



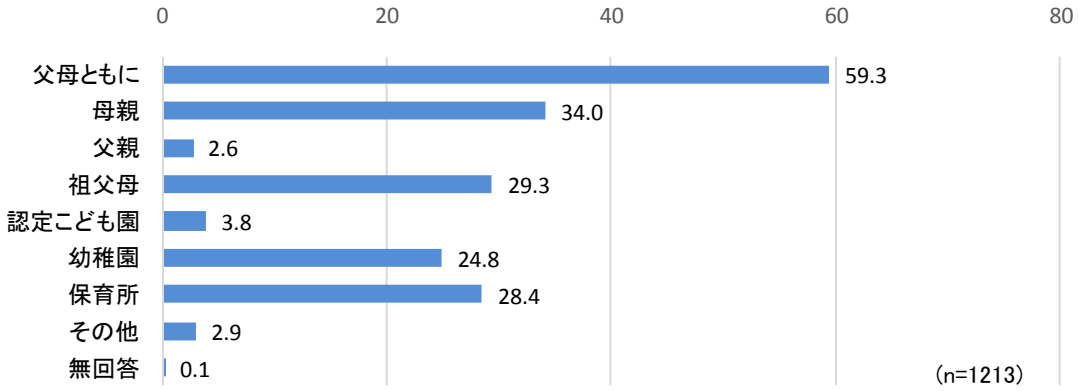
問 6. 配偶者の有無



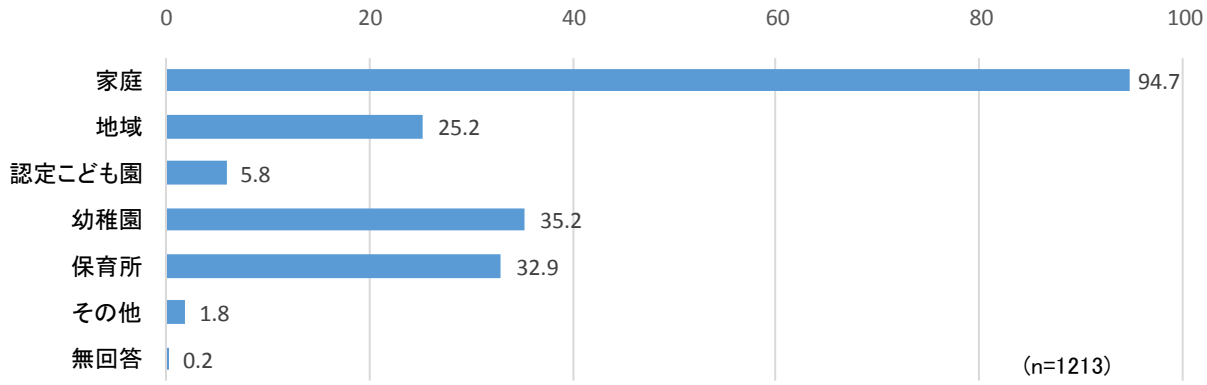
問 7. 子育て(教育を含む)を主にしている方



問 8. 子育て（教育を含む）に、日常的に関わっている方（施設）



問 9. 子育て（教育を含む）で大きく影響すると思われる環境

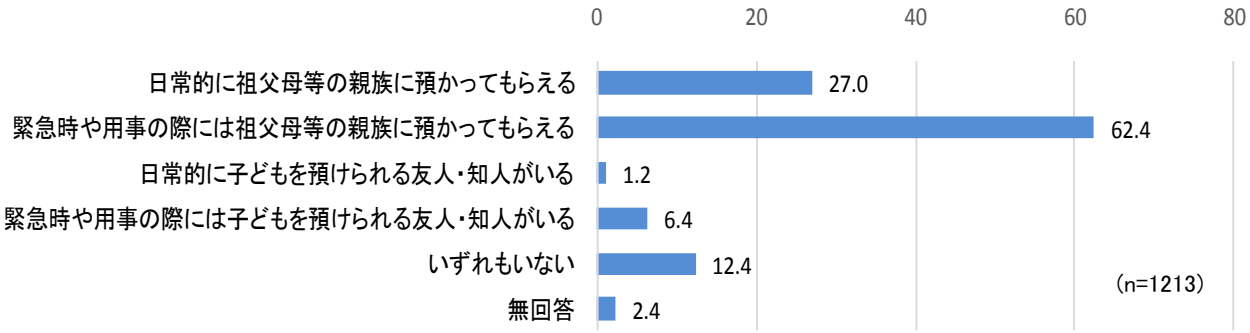


2. 祖父母などに預かってもらっている状況

祖父母に預かってもらうことのできる人について、その状況をみると、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 27.0%、「緊急時や用事の際には祖父母等の親族に見てもらえる」が 62.4%と全体の約 9 割を占めています。一方、「いずれもない」が 8.3%となっており、このような家庭は緊急時の対応が困難となっています。

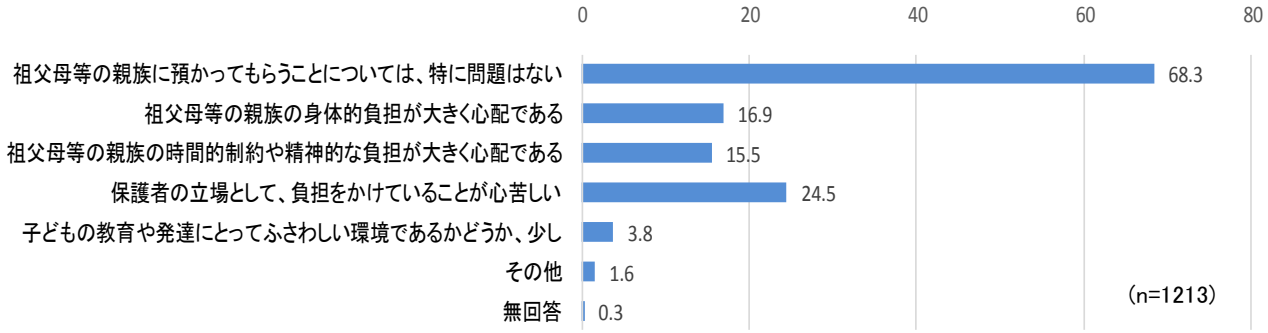
また、祖父母等の親族に預かってもらっている状況では「特に問題はない」が 68.3%と 7 割近くを占めるものの、友人・知人の場合は「保護者の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 4 割近くを占めており、親族以外に預けることは精神的にも負担になっています。

問 10. 日頃、あて名のお子さんを預かってもらえる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)



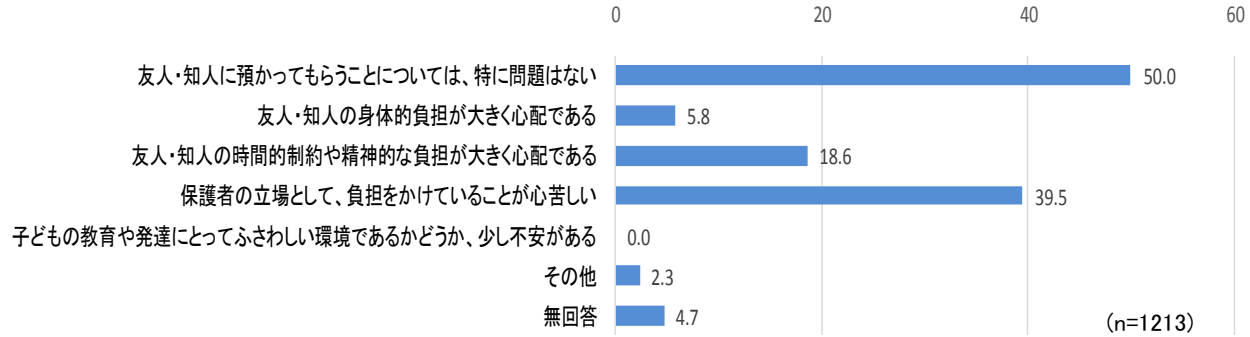
問 10 で「1」または「2」の「祖父母」に○をした方にお伺いします。

問 10-1. 祖父母等の親族に預かってもらっている状況をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



問 10 で「3」または「4」の「友人・知人」に○をした方にお伺いします。

問 10-2. 友人・知人に預かってもらっている状況をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



3. 保護者の就労状況について

3－1．母親（父親）の就労形態

母親の就労状況をみると、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 38.9%、でもっとも高く、ついで、「フルタイム以外で就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」で 22.1%、「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」で 20.6%となっています。父親の就労状況をみてみると、「「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」が 84.8%でほとんどとなっています。

母親の 1 週間あたりの就労日数は、「5 日」が 59.3%でもっとも高く、平均 4.8 日、1 日あたりの就労時間は、「8～9 時間未満」がもっとも高く、平均 7.0 時間となっています。

父親の 1 週間あたりの就労日数も、「5 日」「6 日」が高く、平均 5.4 日、1 日あたりの就労時間も、「8～9 時間未満」がもっとも高く、平均 9.5 時間となっています

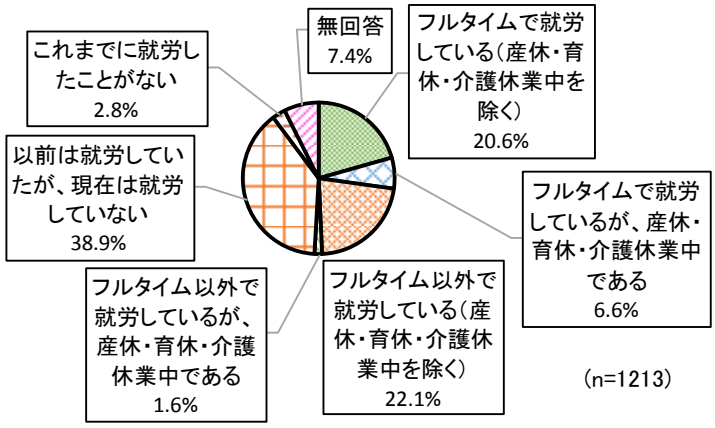
母親の出勤時間は「7 時台」「8 時台」が 36%前後で高く、帰宅時間は「18 時台」が 27.1%でもっとも高くなっています。父親の出勤時間は「7 時台」が 57.2%でもっとも高く、帰宅時間は「19 時台」を中心に「18 時台」から「20 時台」に分散しています。

「その他」は、11 人が答えており、「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」が 7 人、「フルタイム以外で就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」が 4 人となっています。

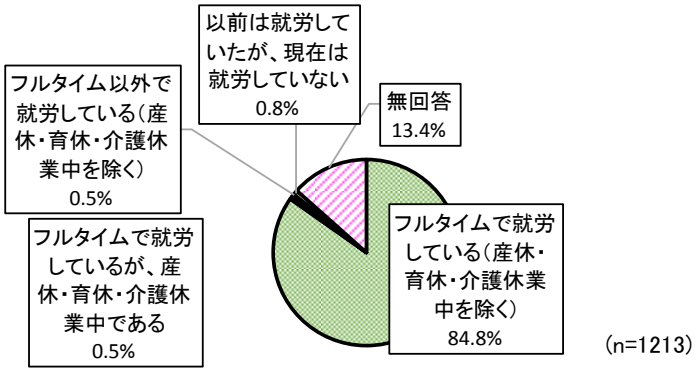
すべての方にお伺いします。

問 11. 現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお答えください。

【母親】



【父親】

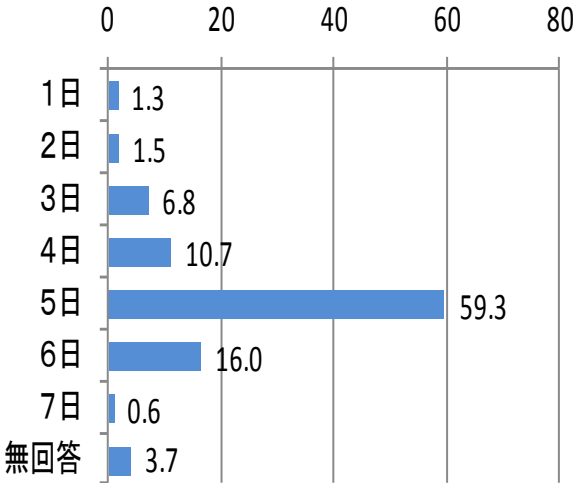


問 11 で「1」から「4」のいずれかを選択した方にお伺いします。

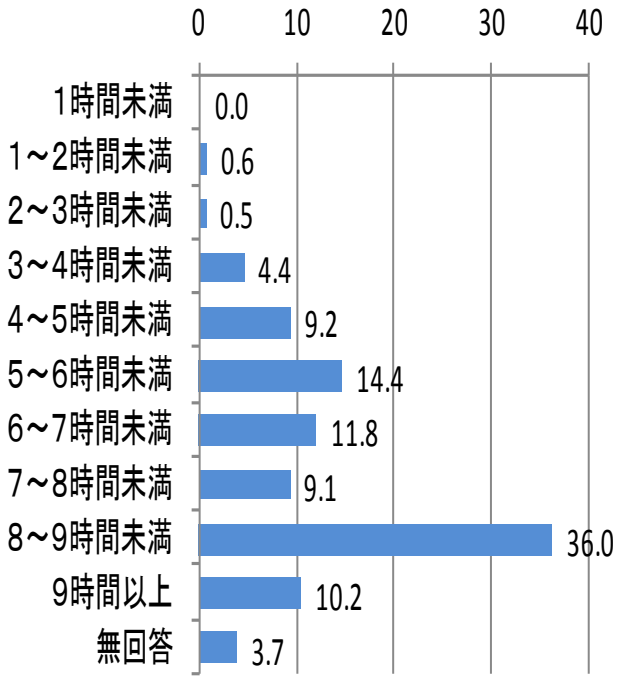
問 11-1. 現在の就労日数、就労時間などの就労条件をお答えください。

母親 (n=617)

【1 週間あたり就労日数】

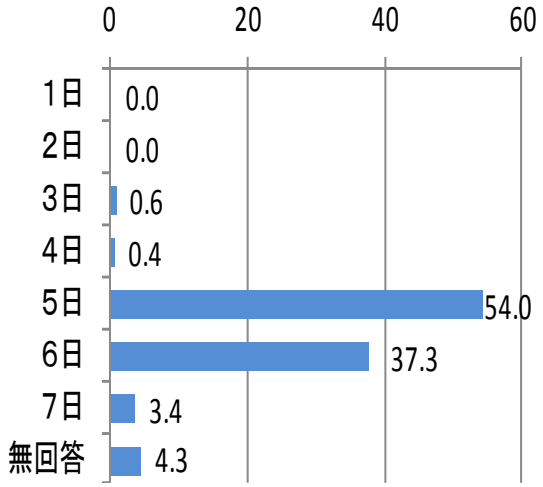


【1 日あたり就労時間数】

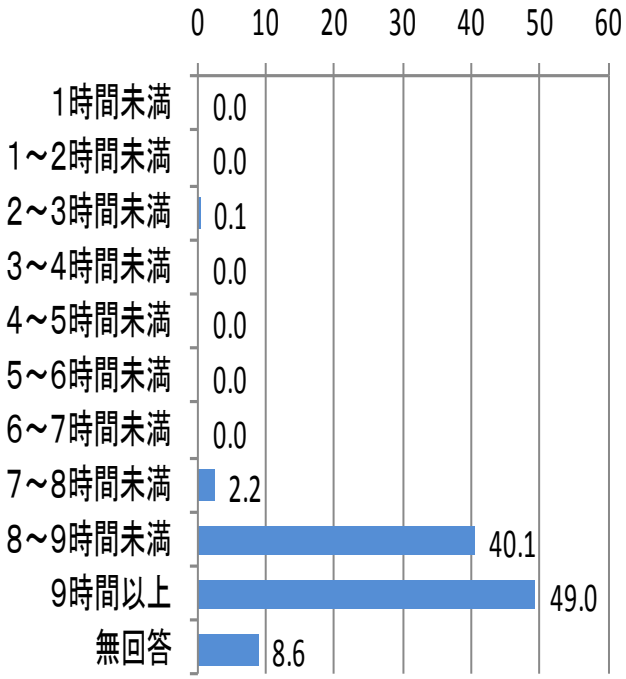


父親 (n=1040)

【1 週間あたり就労日数】

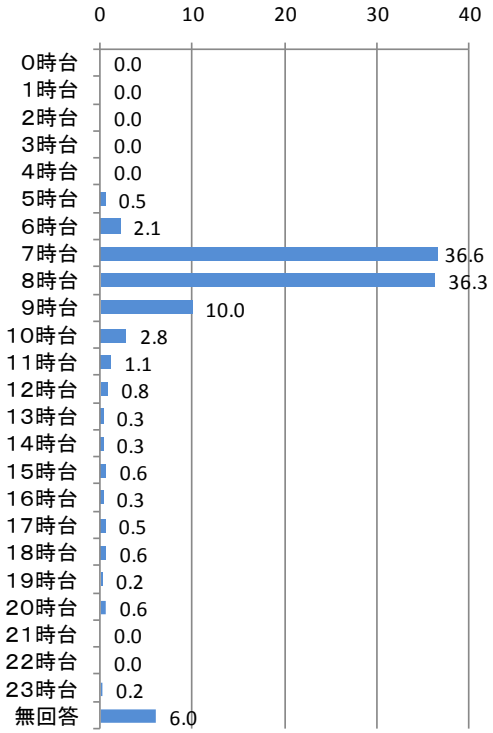


【1 日あたり就労時間数】

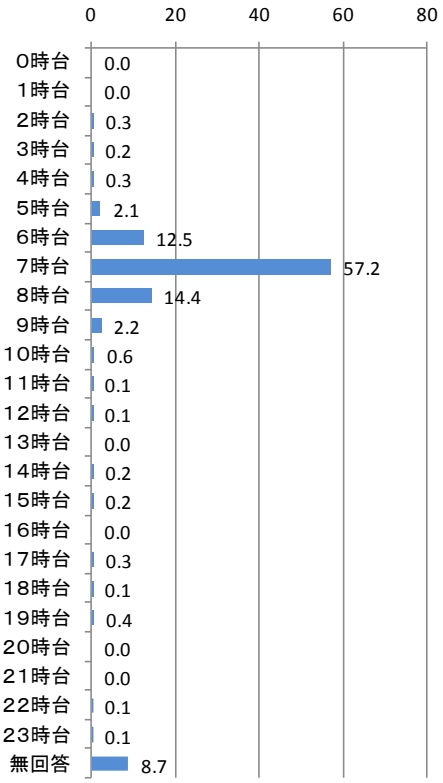


母親　(n=617)

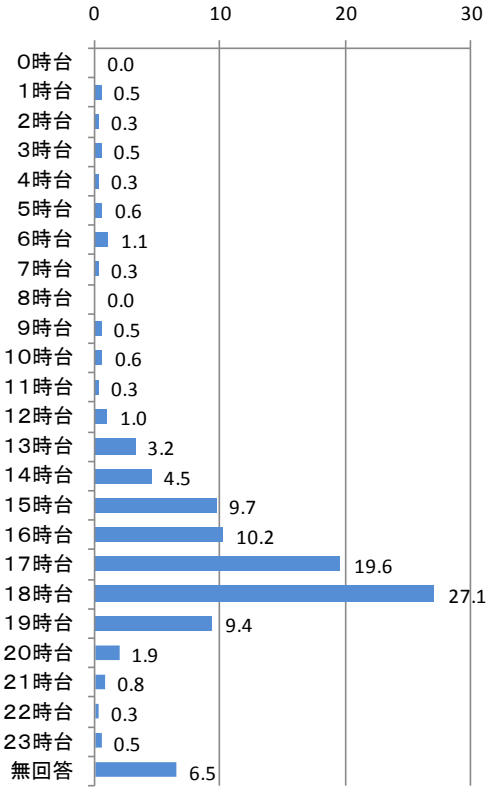
【出勤時間】

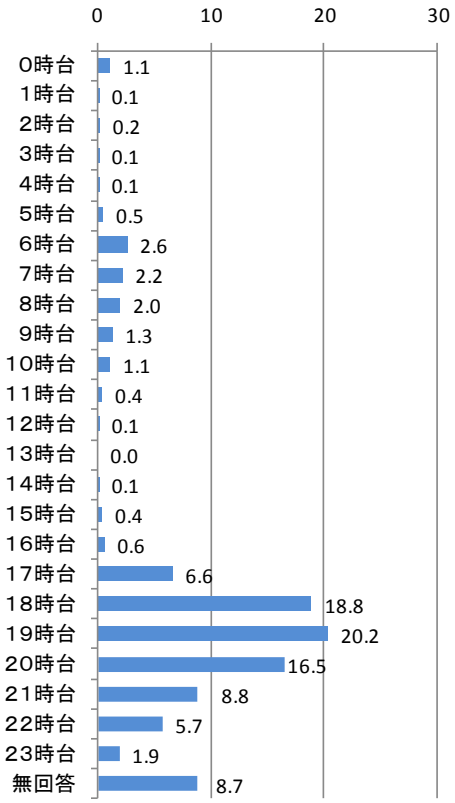


父親　(n=1040)



【帰宅時間】





3－2．フルタイムへの転換希望

母親のフルタイムへの転換希望についてみてみると、「フルタイム以外への就労を続けることを希望」が 53.8%でもっとも高く過半数を占めています。ついで、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が 24.0%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が 6.6%となっています。

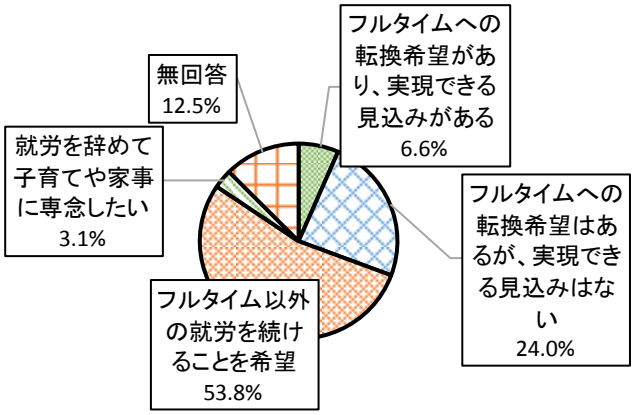
全体でみるとフルタイムへの転換希望は 30.6%ですが、その中で実現できる見込みがあるのはそのうちの３割弱とフルタイムへの転換は厳しい状況がうかがえます。

※以下の分析は、対象者数が 10 人以下の「父親」「その他」を除く。

問 11 で「3」または「4」に○をした方にお伺いします。

問 11-2. フルタイムへの転換希望はありますか。

母親



(n=287)

3－3．現在就労していない母親の就労意向

（１）就労意向（母親）

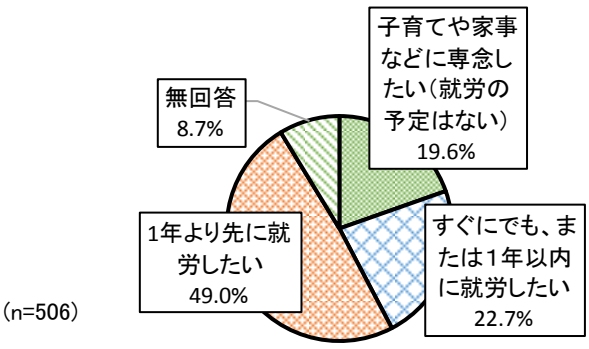
現在就労していない母親の就労意向をみると、「すぐにでも、または１年以内に就労したい」が 22.7%、「１年より先に就労したい」が 49.0%と、全体の就労意向は 7 割を超えており、就労意欲は非常に高くなっています。

また、「１年より先に就労したい」と答えた人の、子どもが何歳になったら就労したいかをみると、３歳が 32.7%ともっとも高く、平均 4.3 歳となっています。

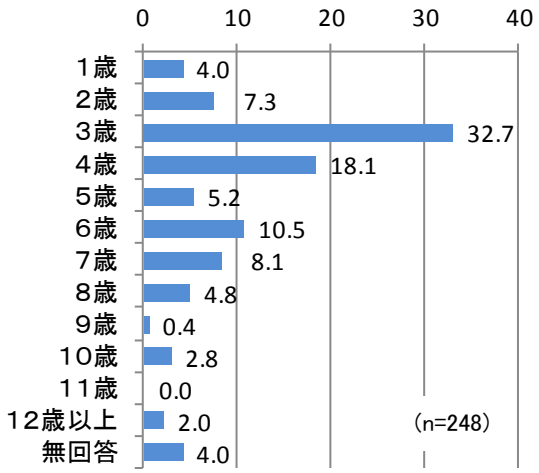
問 11 で「5」または「6」に○をした方にお伺いします。該当しない方は問 12 にお進みください。

問 11-3. 今後の就労希望はありますか。(①母親、②父親ごと1つに○)

母親



(n=506)



(n=248)

（２）就労希望の形態（母親）

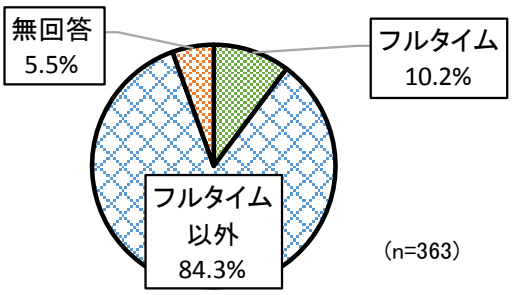
母親の希望する就労形態としては、「フルタイムによる就労」は 10.2%にとどまり、「フルタイム以外」が 84.3%と圧倒的に高くなっています。

これら全体の就労要件としては、就労日数は週あたり 5 日がもっとも高く、平均 4.3 日、就労時間は 1 日あたり 5～6 時間未満がもっとも多く、平均で 5.0 時間となっています。

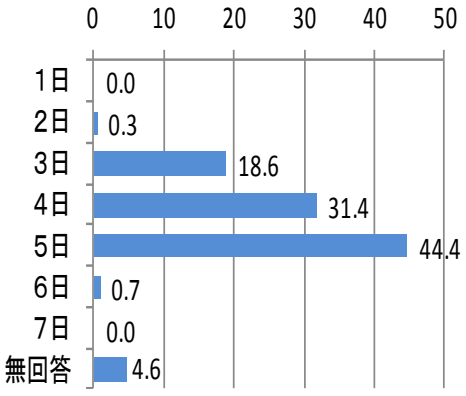
また、就労希望がありながら、現在働いていない理由としては、「自分の子育てや家事に専念したい」が 39.4%でもっとも多く、ついで「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が 22.9%となっており、ワークライフバランスが難しいと感じている保護者が 2 割程度いることになります。

問 11-3 で「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

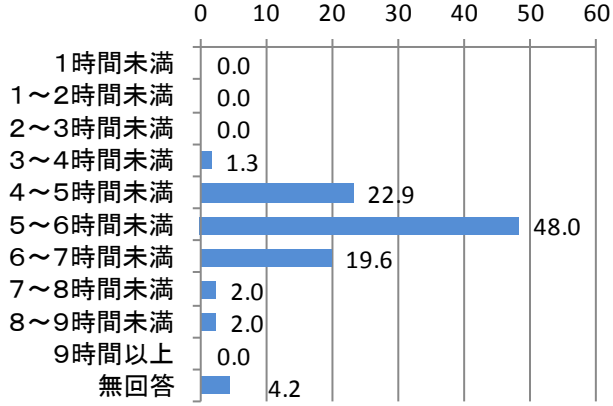
問 11-4. 就労希望の形態はどのようなものですか。



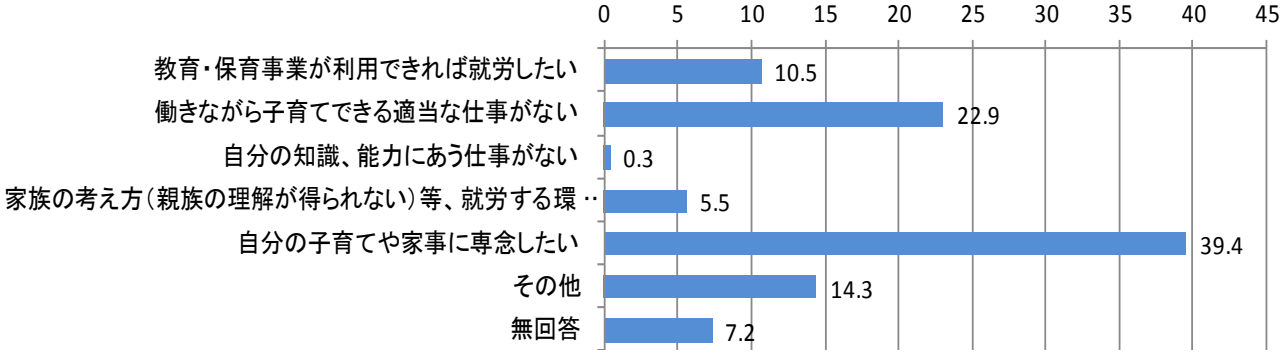
【１週あたり就労日数】 (n=306)



【１日あたり就労時間】 (n=306)



問 11-5. 就労希望がありながら、現在働いてない理由をお答えください。 (n=363)

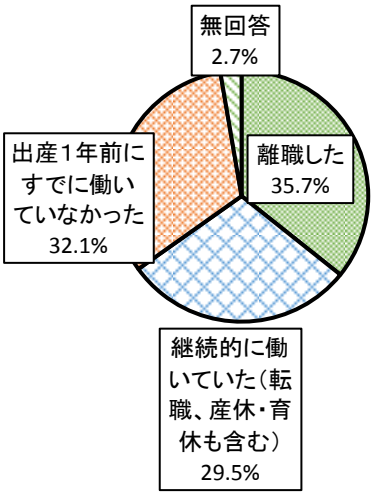


母親が出産前後に離職したかについては、「離職した」が 35.7%でもっとも高いものの、「出産 1 年前にすでには働いていなかった」32.1%、「継続して働いていた」29.5%とそれぞれ３割前後で拮抗しています。

このうち、「離職した」人以外の就労継続の環境としては、「いずれにしても辞めていた」が 42.5%でもっとも高く、４ 割以上が、やむなく離職しなければ状況であることを示しています。

すべての方にお伺いします。

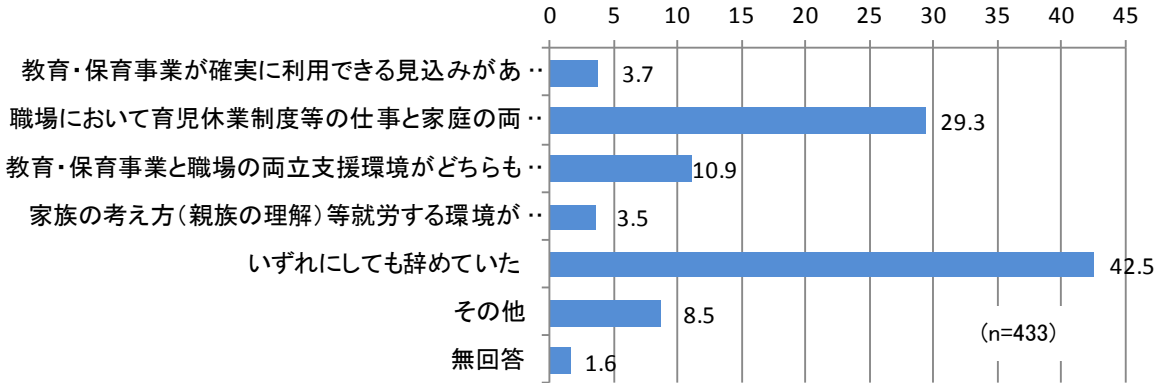
問 12. あて名のお子さんの母親は、出産前後（前後それぞれ 1 年以内）に離職しましたか。（1 つに○）



(n=1213)

問 12 で「1」に○をした方にお伺いします。

問 12-1. どのような環境が整っていたら、就労を継続しましたか。（1 つに○）



4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

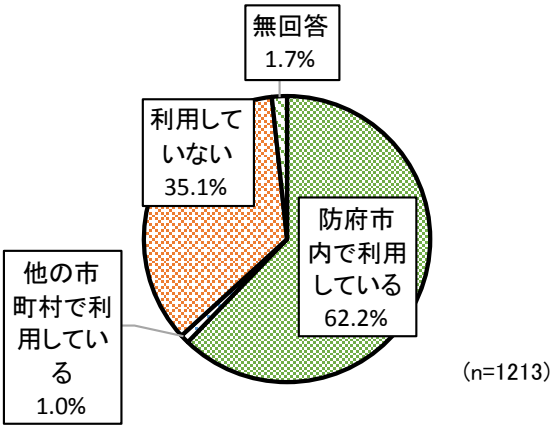
4－1．利用しているサービス

何らかの教育・保育サービスを受けている子どもは、防府市内 62.2%、市外 1.0%を含め 63.2%となっています。

サービスの内訳をみると、「幼稚園」(41.1%)と「認可保育所」(40.9%)とそれぞれ 4 割前後で並んでいます。以下、「認定こども園」が 11.5%、「幼稚園の預かり保育」が 7.4%となっています。その他は 2%以下となっています。

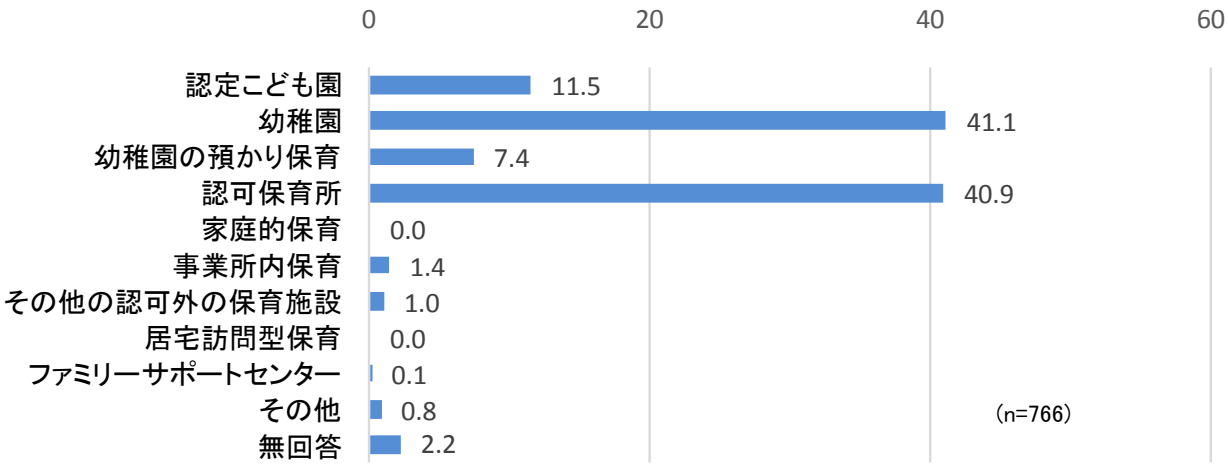
すべての方にお伺いします。

問 13. あて名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの平日の「定期的な教育・保育の事業」を利用していますか。(1つに○)



問 13 で「1」または「2」に○をした方にお伺いします。

問 13-1. あて名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて定期的に利用している事業をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



4－2．保育サービスの利用日数と利用時間

主要サービスである「幼稚園」「認定保育所」「認定こども園」「幼稚園の預かり保育」について、それぞれの「現在」「希望」についての平均の 1 週あたり日数、1 日あたりの保育時間、開始時刻と終了時刻は、以下の通りです。

幼稚園

現在

・1 週 5 日　　・1 日 6.2 時間(8 時 40 分～15 時)

希望

・1 週 5.2 日　　・1 日 7 時間(8 時 40 分～15 時 50 分)

認可保育所

現在

・1 週 5.3 日　　・1 日 8.9 時間(8 時 15 分～17 時 20 分)

希望

・1 週 5.6 日　　・1 日 9.5 時間(8 時～17 時 40 分)

認定こども園

現在

・1 週 5.1 日　　・1 日 7.1 時間(8 時 30 分～15 時 40 分)

希望

・1 週 5.3 日　　・1 日 8 時間(8 時 20 分～16 時 15 分)

幼稚園の預かり保育

現在

・1 週 3.8 日　　・1 日 4.1 時間(12 時 40 分～17 時)

希望

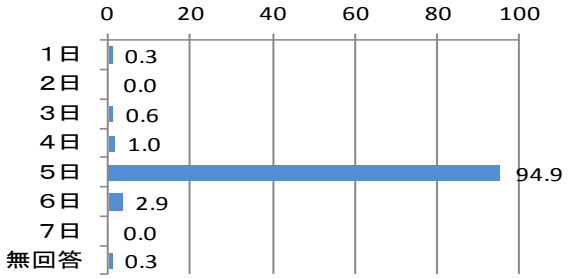
・1 週 4.4 日　　・1 日 3.6 時間(14 時～17 時 40 分)

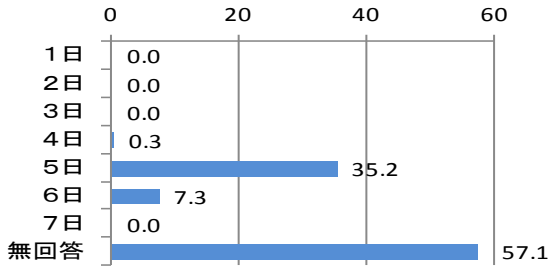
現在

希望

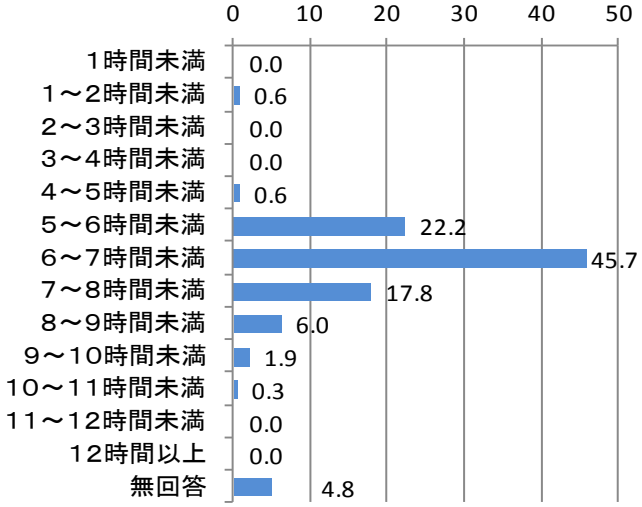
■幼稚園　(n=315)

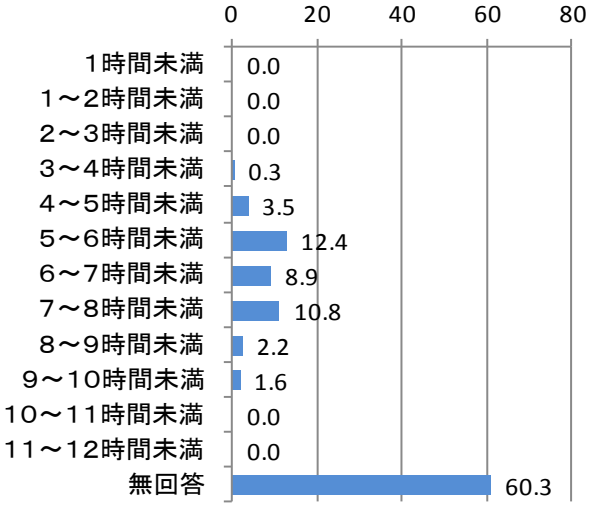
【1 週あたりの日数】



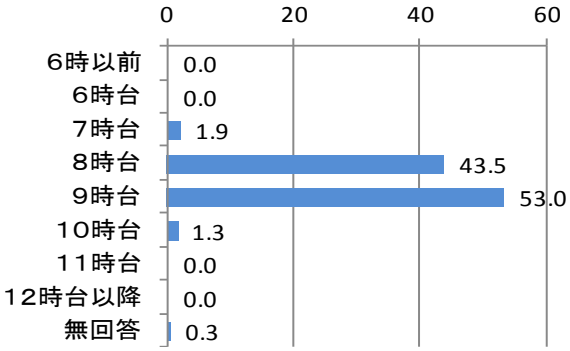


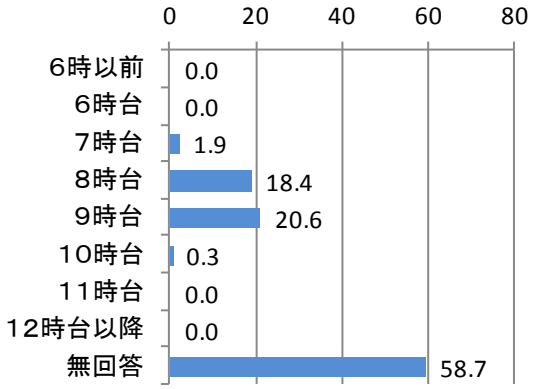
【1 日あたり保育時間】



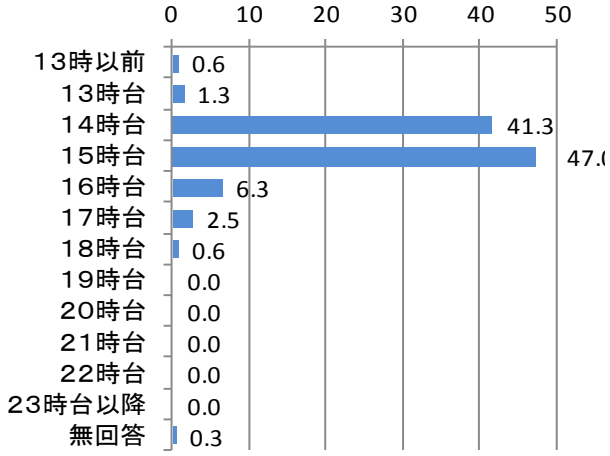


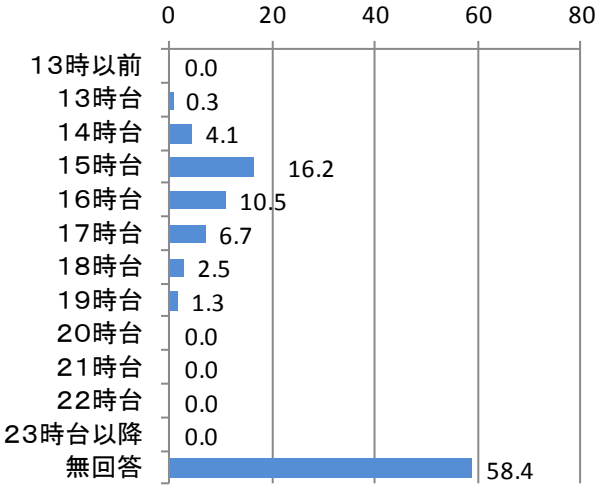
【開始時刻】





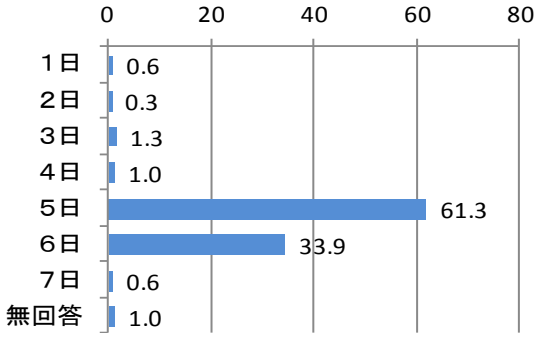
【終了時刻】

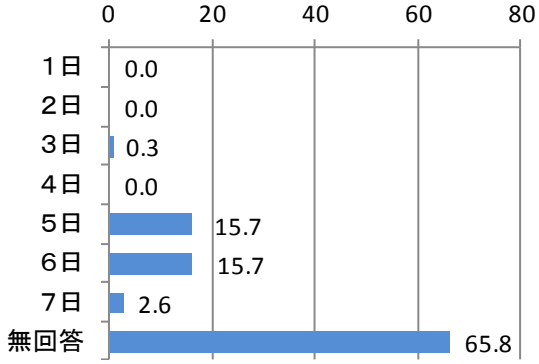




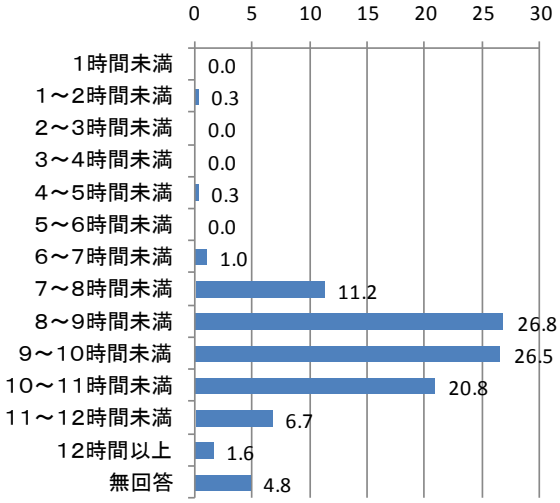
■認可保育所　(n=313)

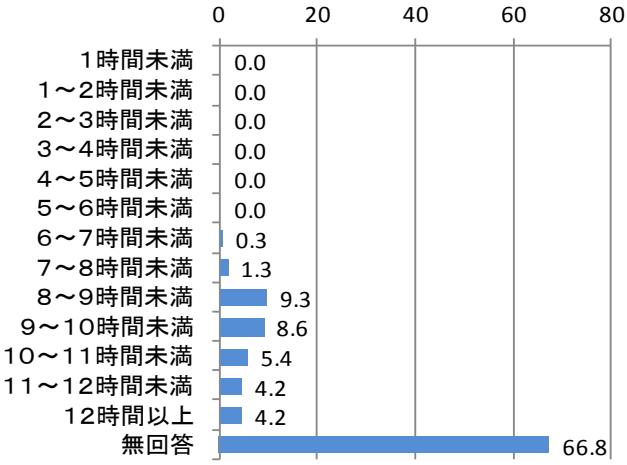
【1 週あたりの日数】



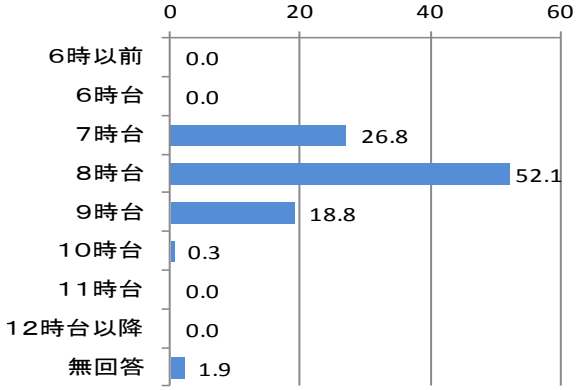


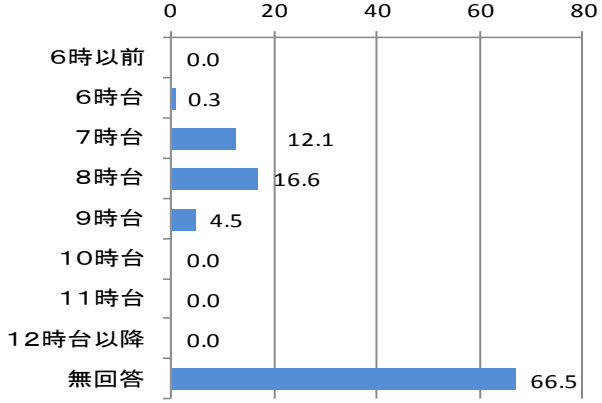
【1 日あたり保育時間】



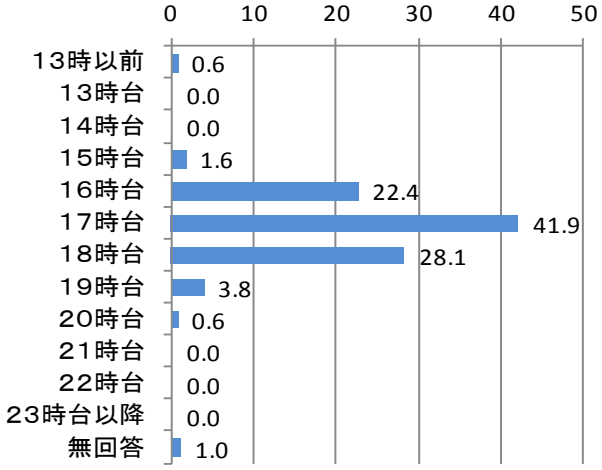


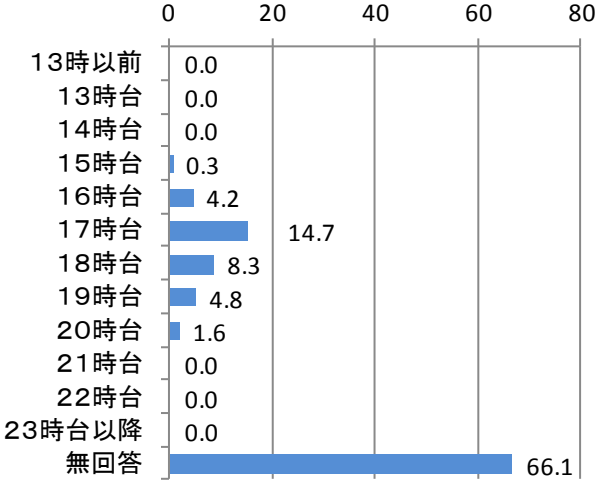
【開始時刻】





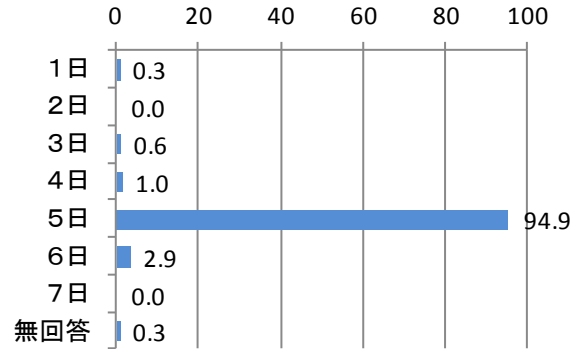
【終了時刻】

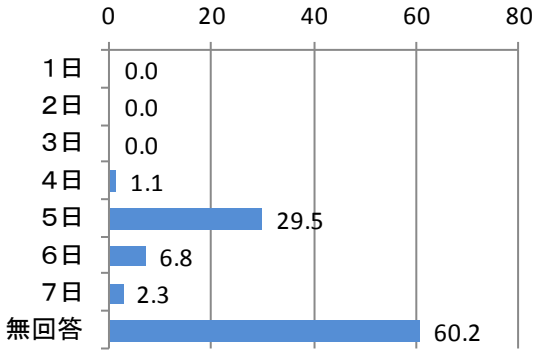




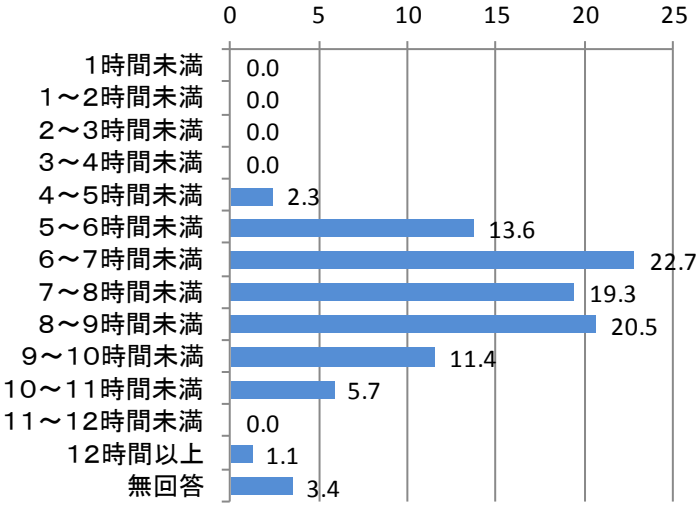
■認定こども園　（n=88）

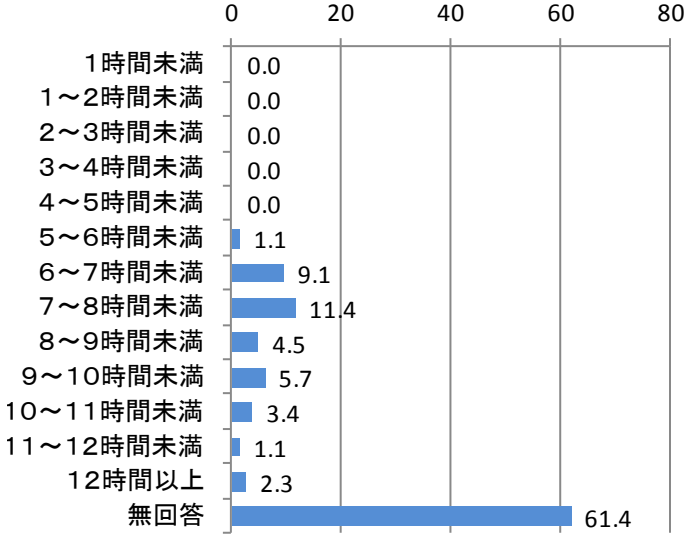
【1 週あたりの日数】



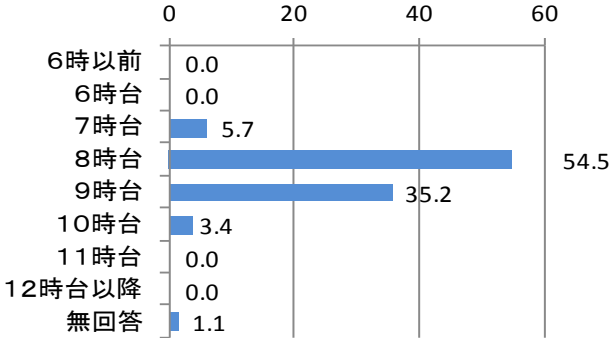


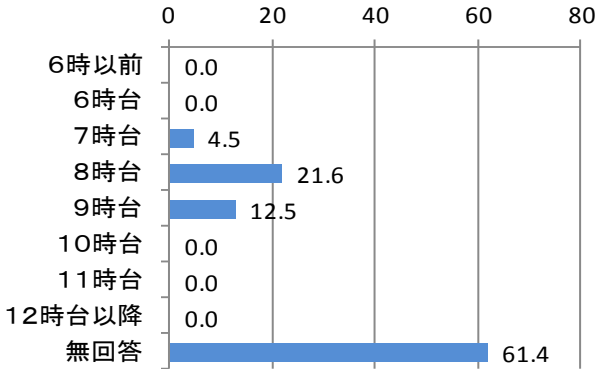
【1 日あたり保育時間】



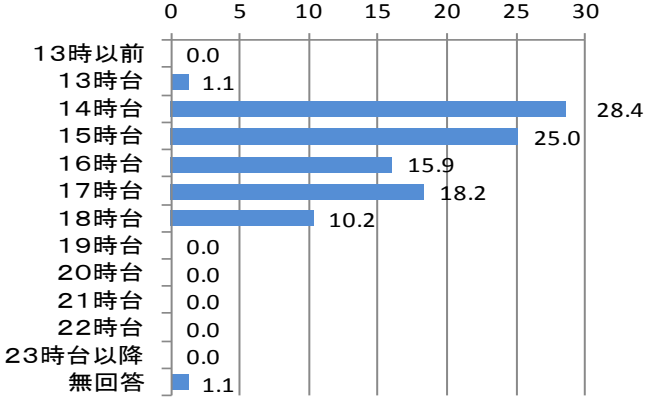


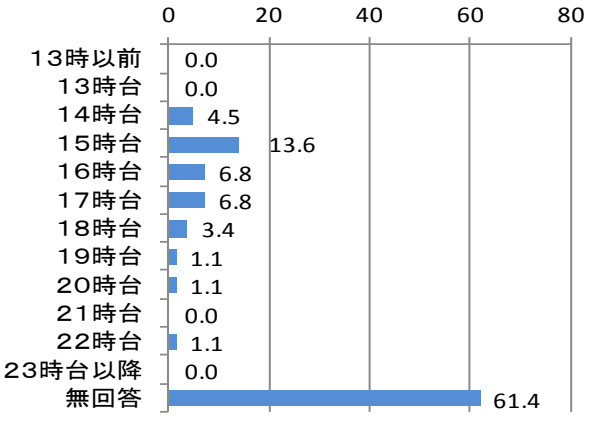
【開始時刻】





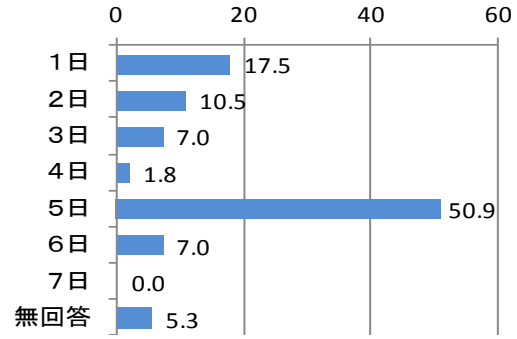
【終了時刻】

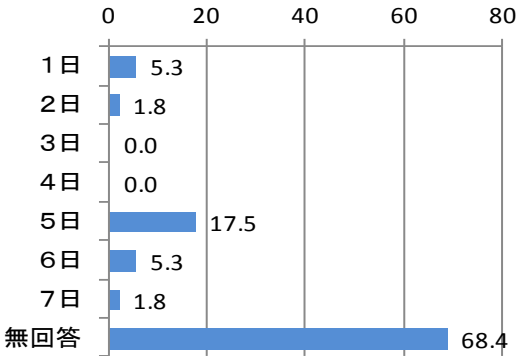




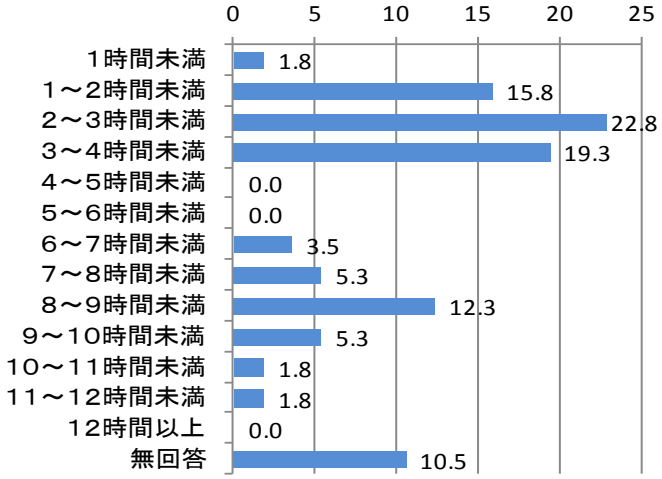
■幼稚園の預かり保育　(n=57)

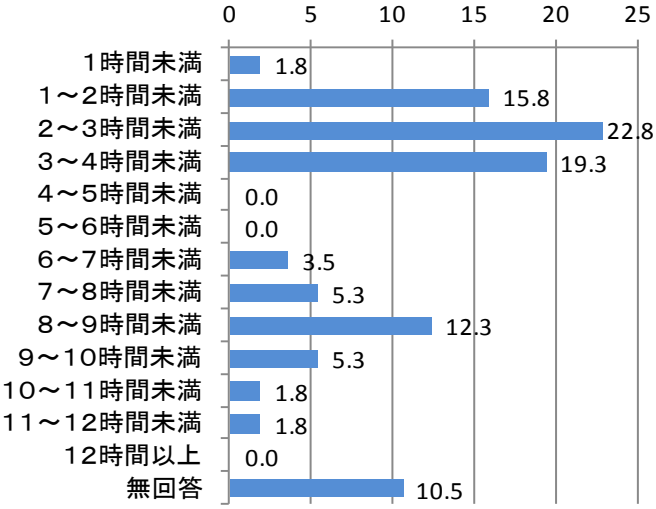
【1 週あたりの日数】



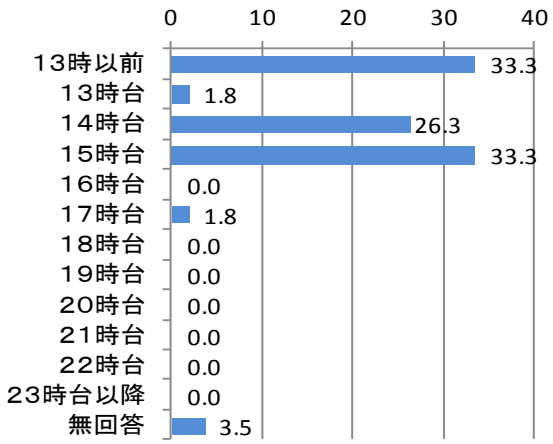


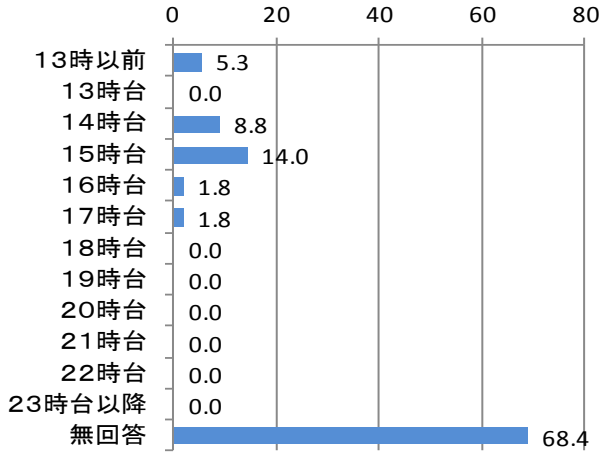
【1 日あたり保育時間】



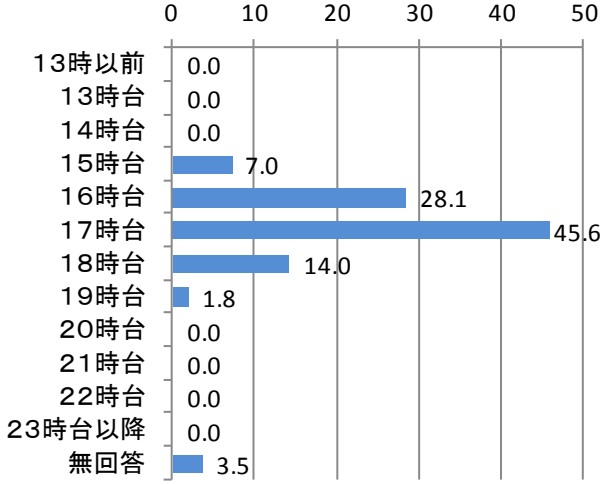


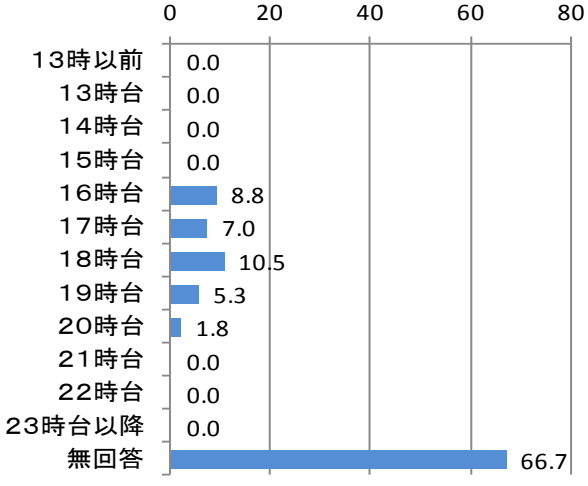
【開始時刻】





【終了時刻】



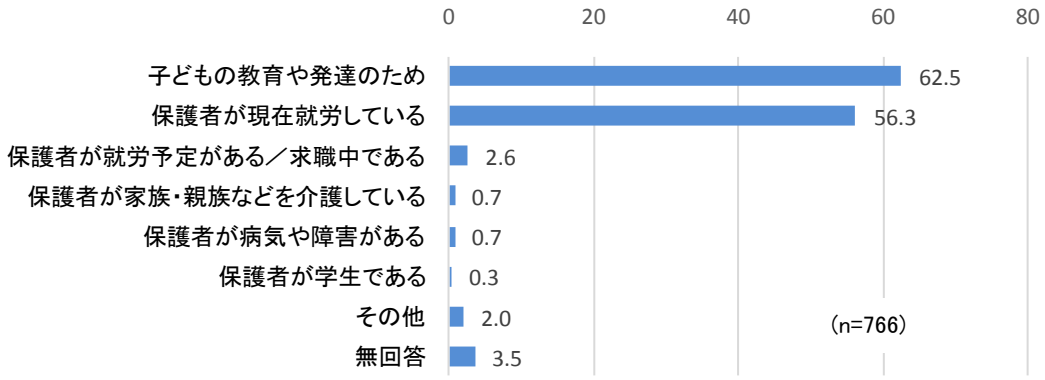


４－３．利用している理由等

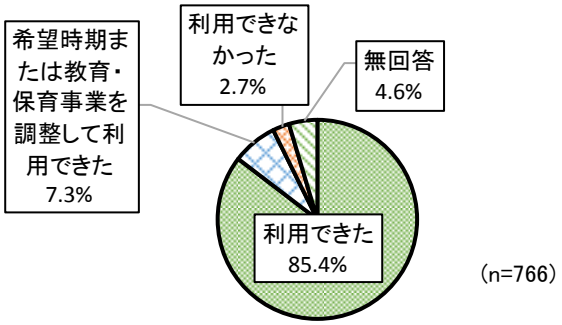
保育サービスを定期的に利用している理由としては、「子どもの教育や発達のため」が62.5%でもっとも高く、ついで、「保護者が現在就労している」56.3%となっており、幼稚園と認定保育所の利用が拮抗していることから、この２項目が目立って高くなっています。

また、希望した時期での利用の有無については、「調整した」を含め「利用できた」が９割以上を占めています。

問 13-2. 現在、定期的に利用している理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



問 13-3. 希望した時期に、希望した教育・保育事業を利用できましたか。(1 つに○)

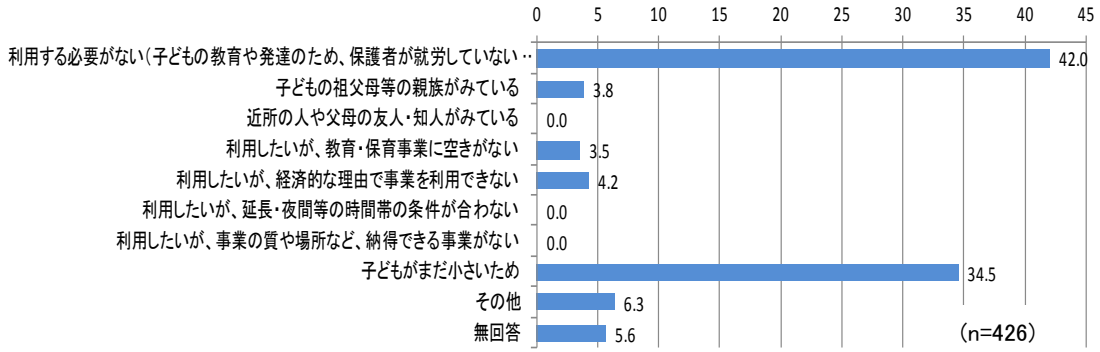


４－４．利用していない理由

利用していない理由としては、「利用する必要がない」42.0%と「子どもがまだ小さいため」34.5%が目立って高くなっています。

問 13 で「３」に○をした方にお伺いします。

問 13-4. 利用してない理由をお答えください。(1 つに○)



5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用希望

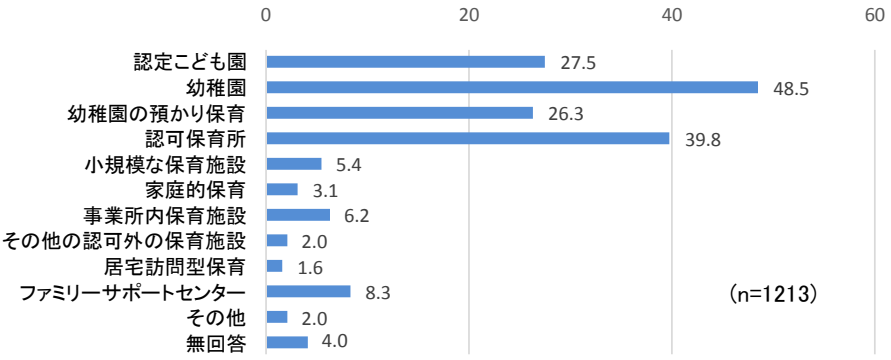
5－1．今後利用したいサービスと場所

今後利用したい保育サービスをみると、「幼稚園」が 48.5%(現在 41.1%)でもっとも高く、ついで「認可保育所」の 39.8%(現在 40.9%)、以下「認定こども園」の 27.5%(現在 11.5%)、「幼稚園の預かり保育」の 26.3%(現在 7.4%)となっており、相対的に「認定こども園」「幼稚園の預かり保育」の利用希望が増えています。

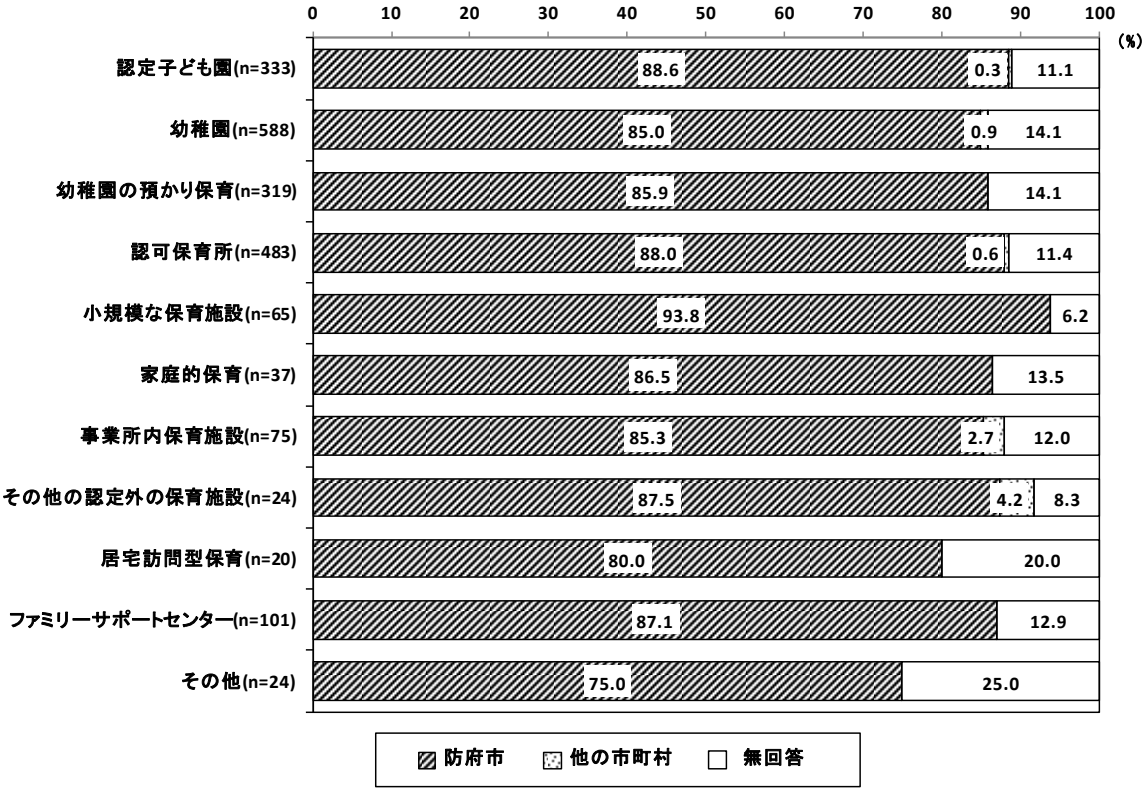
利用したい場所は、これら主要サービスは、いずれも 85%以上が「防府市内」を希望しています。

すべての方にお伺いします。

問 14. 現在、利用している、利用していないにかかわらず、あて名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、今後「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。(あてはまるものすべてに○)。 また、選択した事業について、利用したい場所もそれぞれお答えください。



【 利用したい場所 】



6. 子育て支援サービスの認知状況、利用状況

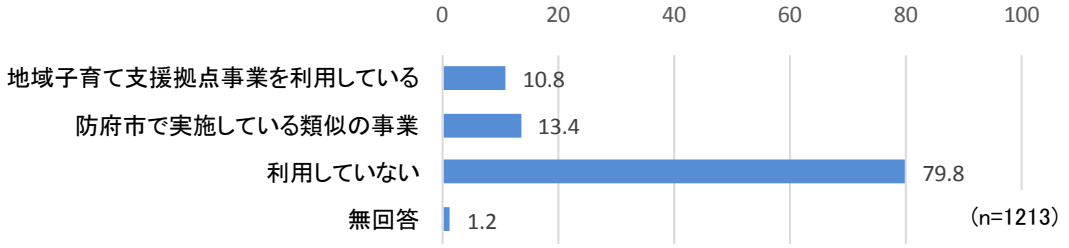
6－1．地域子育て支援事業ついて

何らかの拠点事業を利用したことがある人は、全体の 2 割程度であり、「地域子育て支援拠点事業」「防府市で実施している類似の事業(子育てサロン・あつまれ!わくわく広場など)」ともに 10%程度の利用となっています。

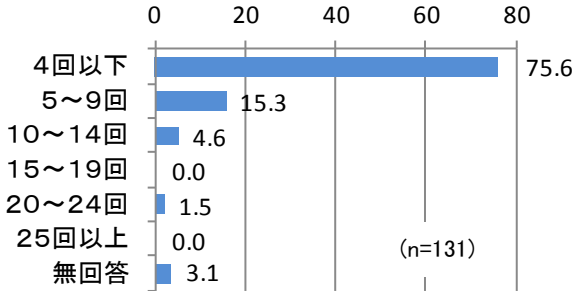
月あたりの利用回数はともに、４回以下が 75%以上となっており、平均３回前後となっています。

今後の利用意向では、新たに利用したり、増やしたりは考えていない人は６割近くを占めています。

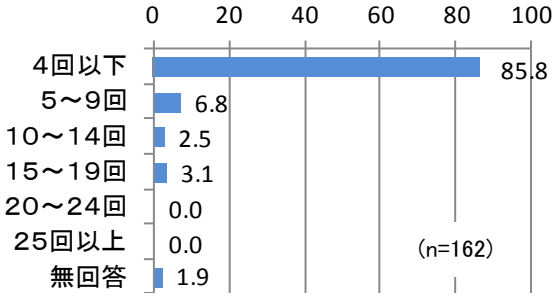
問 15. あて名のお子さんは現在、地域子育て支援拠点事業を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)また、おおよその利用回数(頻度)をお答えください



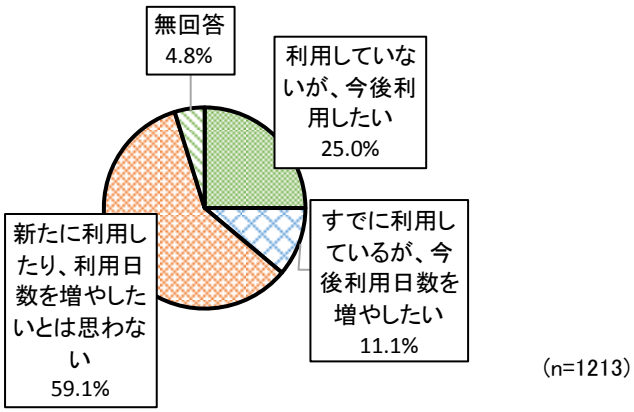
【地域子育て支援事業】



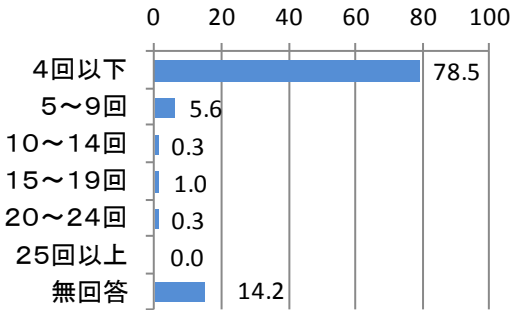
【類似事業】



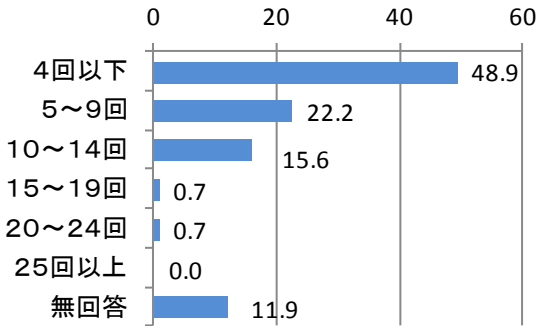
問 16. 問 15 のような地域子育て支援事業について、現在は利用してないができれば今後利用したい、あるいは利用頻度を増やしたいと思いますか。(1 つに○)



【今後利用したい回数】（n=303）



【今後利用日数を増やしたい回数】（n=135）



6－2．子育て支援サービスの認知状況等

【認知度】

各種の子育て支援事業の認知状況としては、「⑤幼稚園や保育園の園庭の開放」(87.0%)、「②保健センターの情報・相談サービス」(80.5%)が認知率 8 割を超えてもっとも高く、続いて「⑧防府市発行子育て情報誌」(75.5%) が 7 割以上の認知率となっています。

一方、「③家庭教育に関する学級・講座」(33.9%)と 30%台に留まっています。

【利用経験】

利用経験では、認知率の高い上位の中では、「⑤幼稚園や保育園の園庭の開放」が 61.0%、「⑧防府市発行子育て情報誌」が 46.7%、「②保健センターの情報・相談サービス」が 39.4%となっており、利用率は相対的に低くなっています。

とくに、「③家庭教育に関する学級・講座」、「④教育相談電話・教育相談」、「⑦こども相談室」といった教育や相談に関するサービスに対する利用率は数%に留まっており、啓発等の取組が必要となっています。

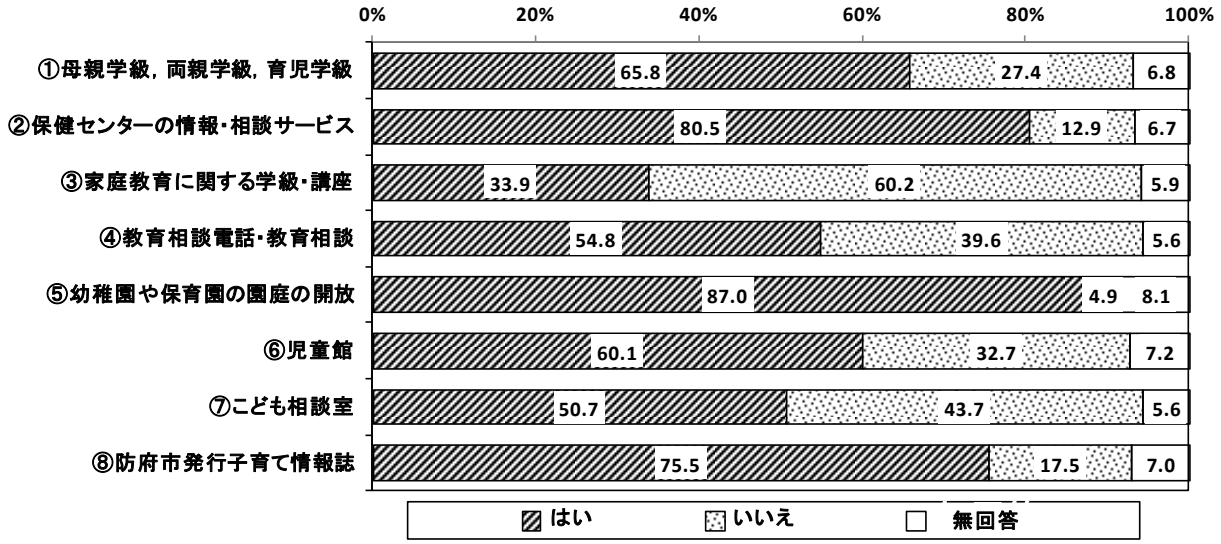
【利用意向】

今後の利用意向としては、「⑧防府市発行子育て情報誌」(54.5%)、「⑤幼稚園や保育園の園庭の開放」(50.0%)の２項目が半数を超えており、以下、「⑥児童館」の 41.8%、「②保健センターの情報・相談サービス」の 37.3%と続いています。

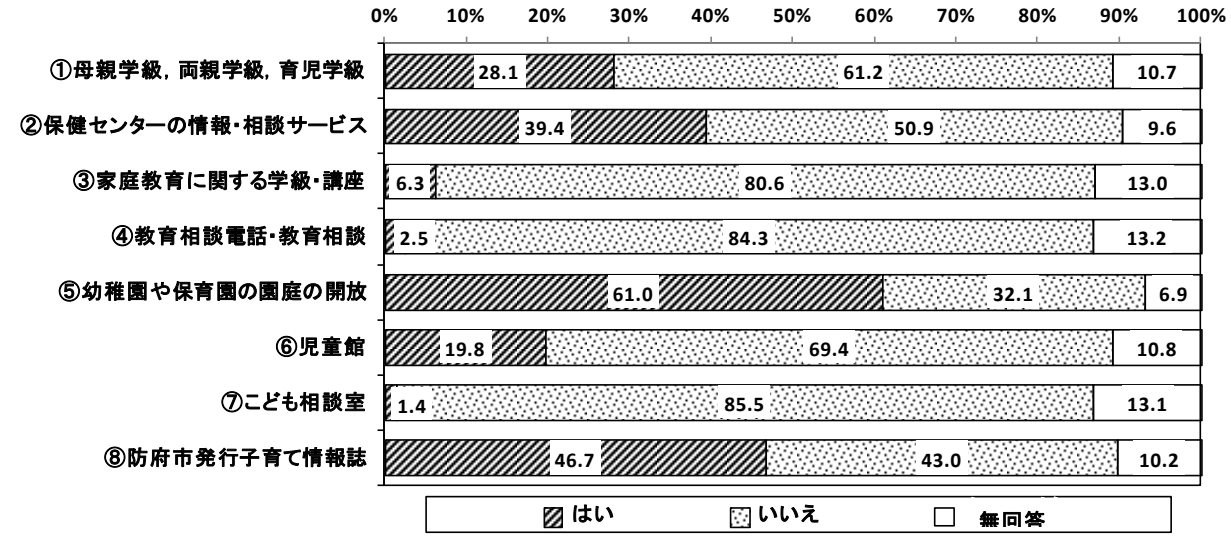
利用率が数%であった「③家庭教育に関する学級・講座」、「④教育相談電話・教育相談」、「⑦こども相談室」といった教育や相談に関するサービスに対する利用意向率は、おおむね２割前後となっています。

問 17. 下記の①～⑧のサービスをしっていたり、これまでに利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いますか。（サービスごとに、A～C のそれぞれ 1 つに○）

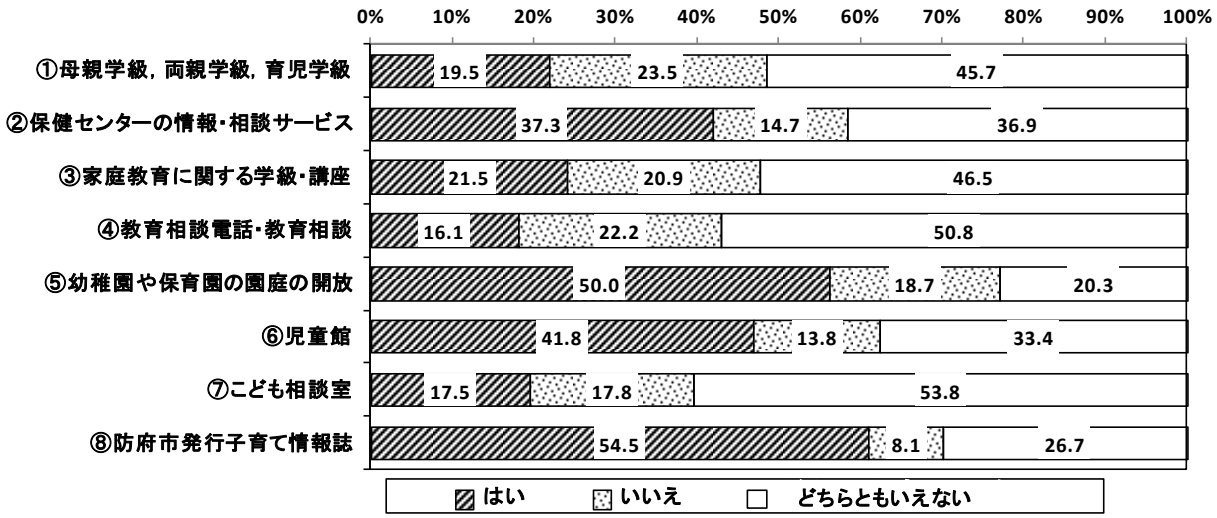
【知っている】 (n=1213)



【利用したことがある】 (n=1213)



【今後利用したい】（n=1213）



7. 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望

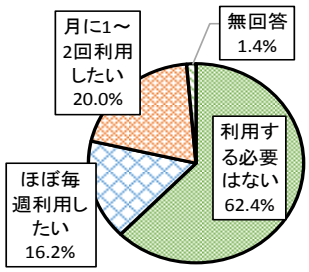
土曜日、日曜日・祝日の定期的な保育サービス利用意向についてみると、土曜日では「ほぼ毎週利用したい」と「月に１～２回は利用したい」を合わせ 36.2%と約 ４ 割となっていますが、日曜日・祝日では 15.7%とかなり低くなっています。

利用時間帯としては、開始時刻は土曜日、日曜日・祝日とも「8 時台」がもっとも高く、「7 時台」「9 時台」と合わせ 9 割以上となり、終了時刻では、土曜日は「17 時台」、日曜日・祝日は「18 時台」が最も高くなっています。平均で土曜日の開始時刻８時 25 分、終了時刻 16 時 20 分、日曜日・祝日の開始時刻８時 12 分、終了時刻 17 時５分となっています。

すべての方にお伺いします。

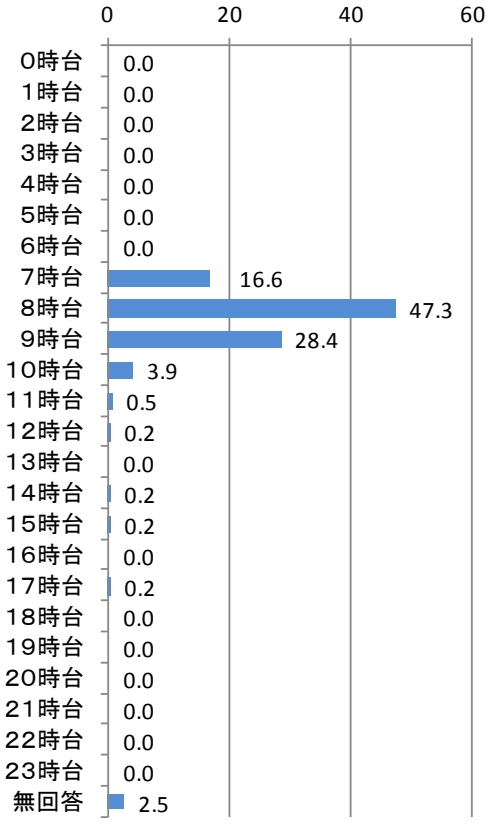
問 18. 現在、利用している、利用していないにかかわらず、あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。

（1）土曜日

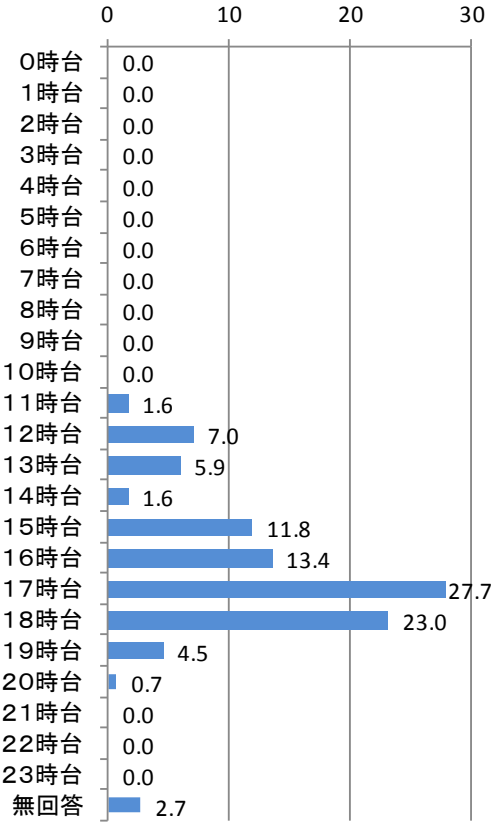


(n=1213)

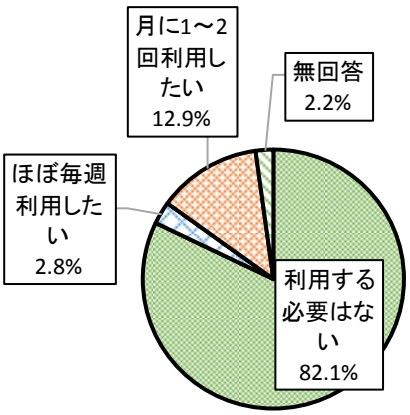
【開始時刻】 (n=440)



【終了時刻】 (n=440)

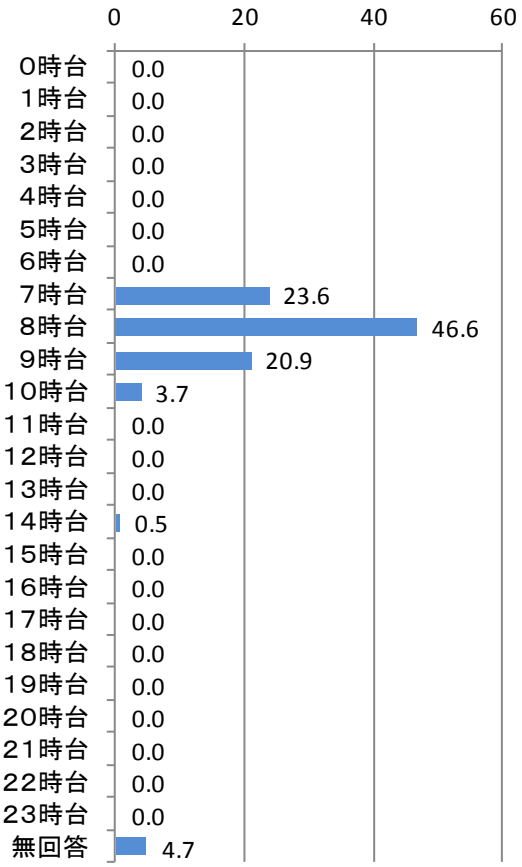


（2）日曜日・祝日

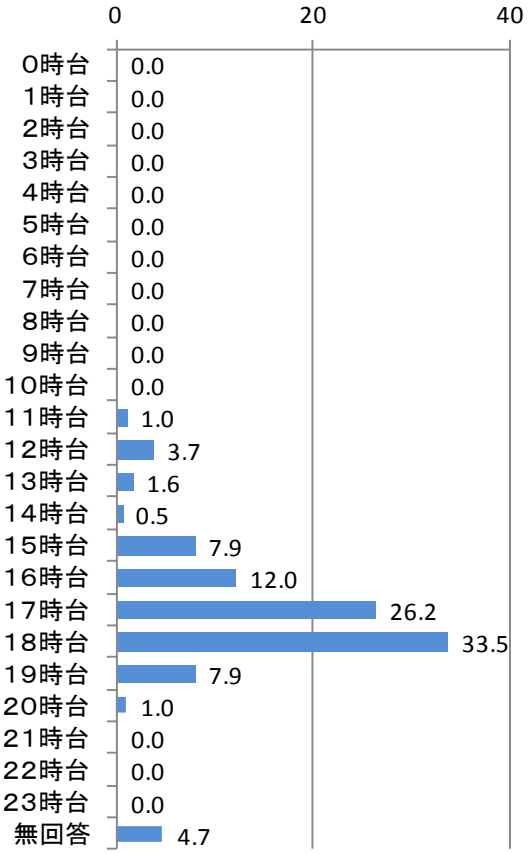


(n=1213)

【開始時刻】 (n=191)



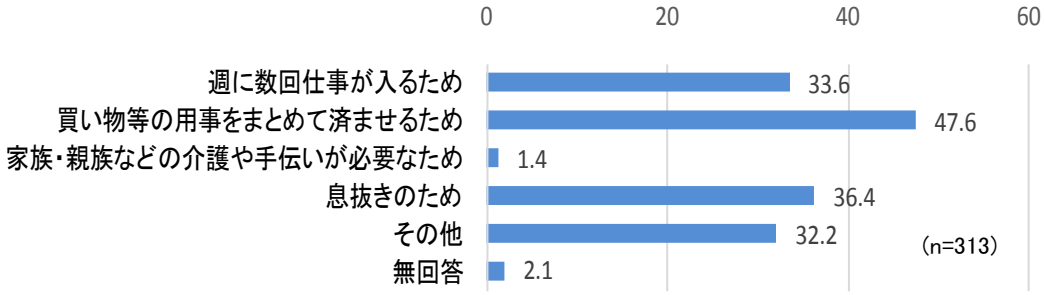
【終了時刻】 (n=191)



毎週ではなく、月に 1～2 回利用したい理由としては、「月に数回仕事が入るため」の 64.5%、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」の 30.7%を含め、大半は仕事の都合に合わせた利用となっています。

問 18 の(1)または(2)で「3」に○をした方にお伺いします。

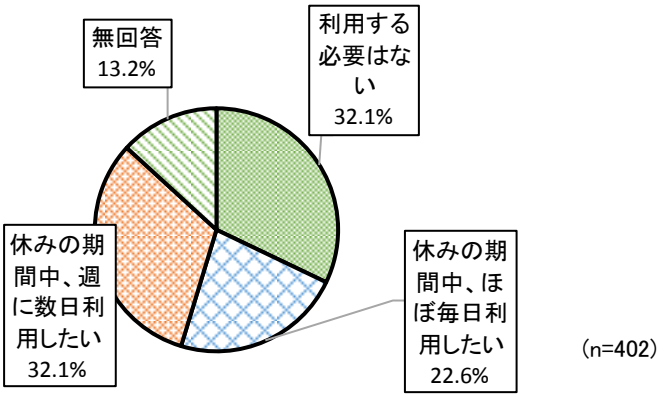
問 18-1. 毎週ではなく、月に 1～2 回利用したい理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



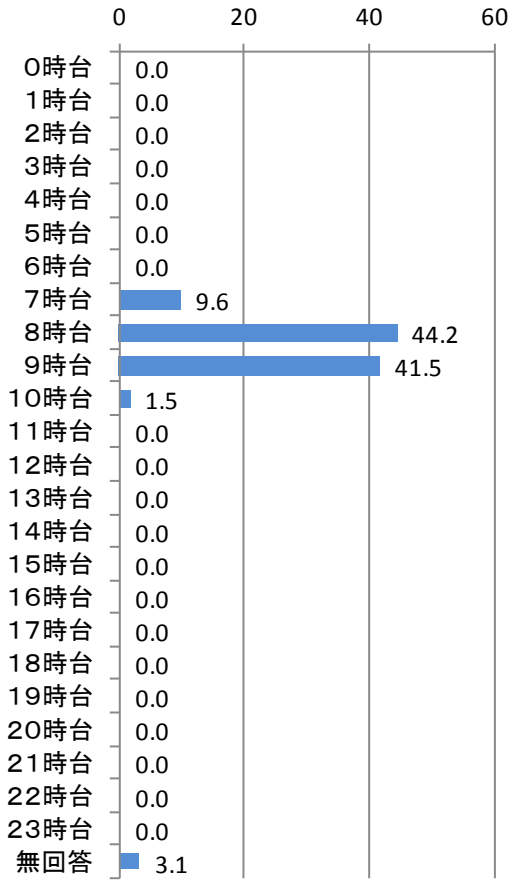
夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の利用希望率は、回数に関係なく 54.7%であり、開始時刻は、「8 時台」「9 時台」で 85%以上を占め、平均 8 時 30 分となっています。終了時刻は、「15 時台」を中心に「17 時台」までで 70%以上を占め、平均は 15 時 45 分となっています。また、毎日ではなく、週に数日利用したい理由としては、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が 47.6%でもっとも高くなっています。

現在、幼稚園を利用している方にお伺いします。利用していない方は、問 20 にお進みください。

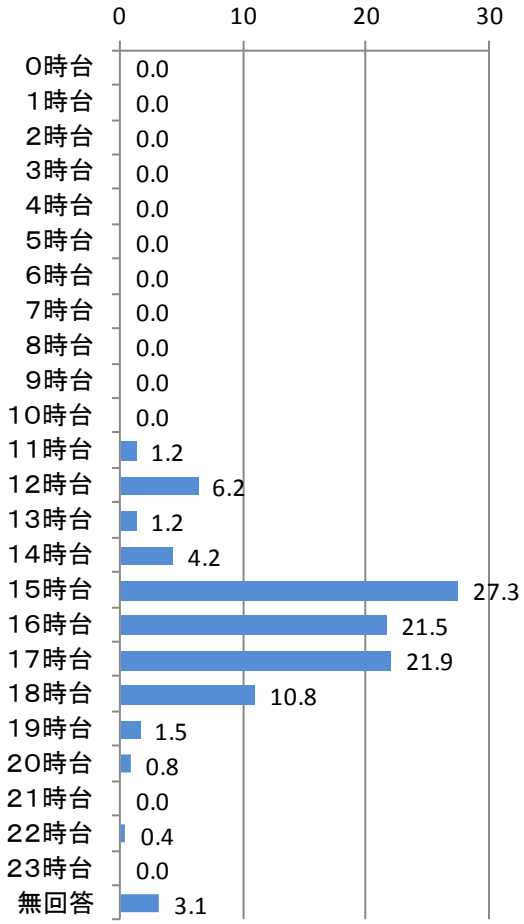
問 19. あて名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望はありますか。



【開始時刻】 (n=220)

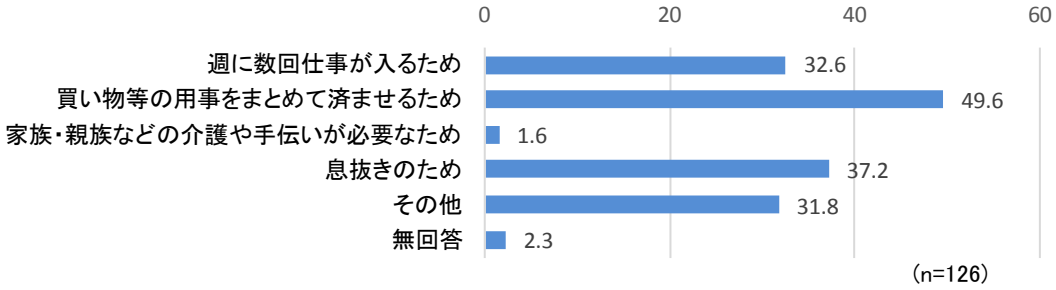


【終了時刻】 (n=220)



問 19 で「3」に○をした方にお伺いします。

問 19-1. 毎日ではなく、週に数日利用したい理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



8. 病児・病後児保育について

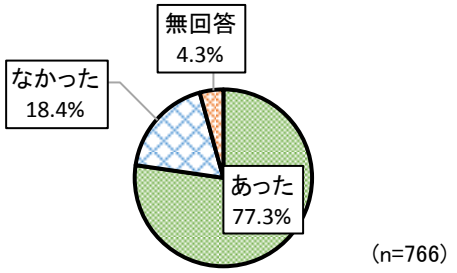
8－1． 過去１年間に保育サービスを利用できなかったことの有無

この１年間に，あて名のお子さんが病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかった経験についてみると、「あった」が 77.3%で８割近くを占めています。

その対処方法としては、「母親が休んだ」が 60.3%でもっとも高く、平均日数は 6.6 日です。ついで、「（同居者を含む）親族・知人に預けた」が 36.3%で、平均日数 6.4 日、「就労していない保護者が看た」が 25.2%で平均日数 8.8 日となっています。

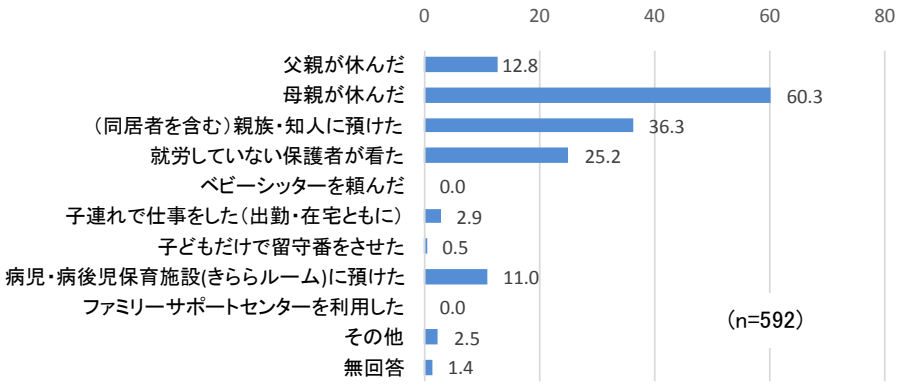
平日の定期的な教育・保育の事業を利用している方（問 13 で「１」または「２」に○をつけた方）にお伺いします。利用してない方は、問 21 へお進みください。

問 20. この１年間に、あて名のお子さんが病気やけがで平日の定期的な教育・保育事業が利用できないことはありましたか。（１つに○）

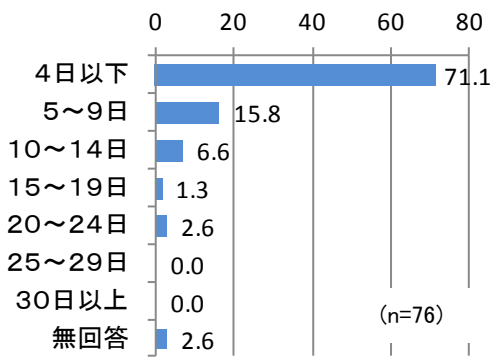


問 20 で「１」に○をした方にお伺いします。

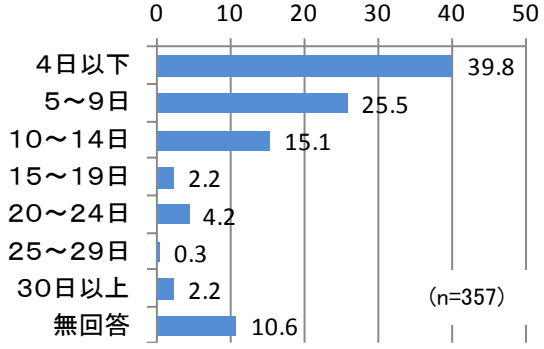
問 20-1. この 1 年間の対処方法とそれぞれの日数は何日でしたか。あてはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数をお答えください。



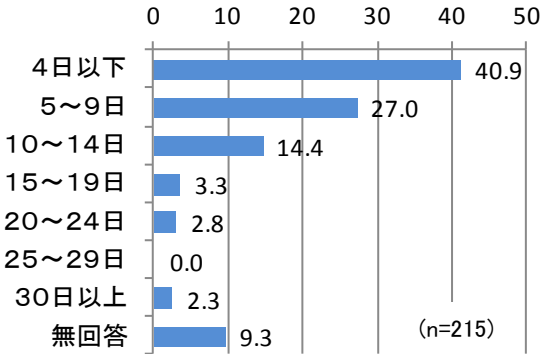
【父親が休んだ】



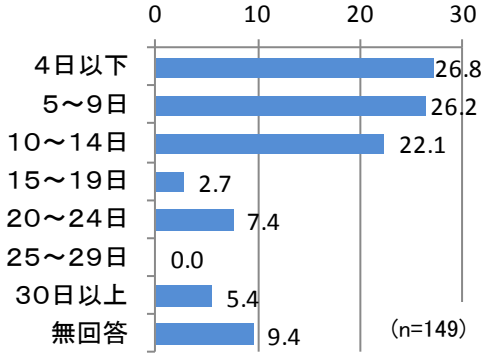
【母親が休んだ】



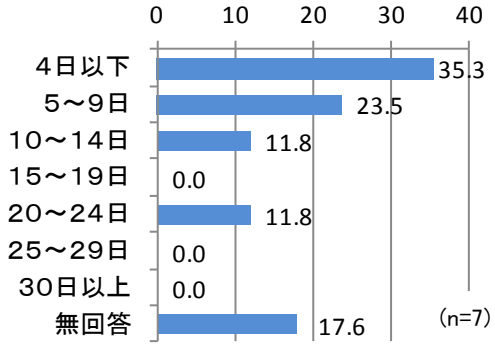
【（同居人含む）親族・知人に預けた】



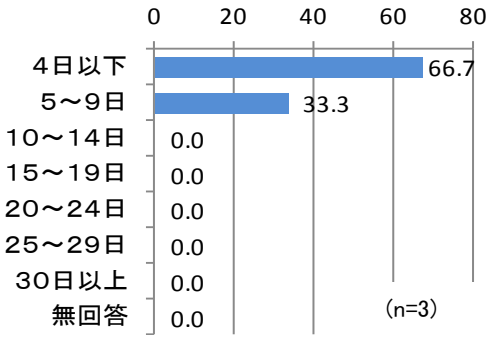
【就労してない保護者が看た】



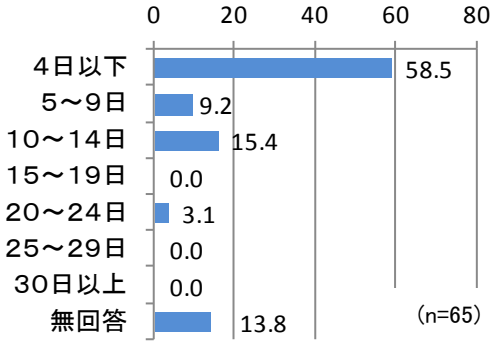
【子連れで仕事をした（出勤・在宅ともに】



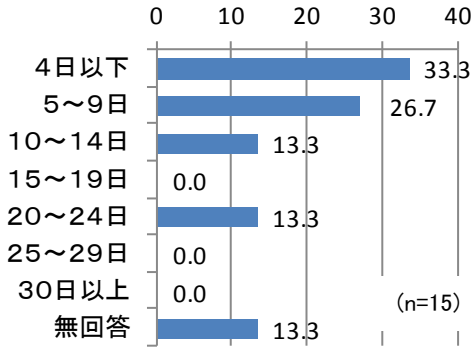
【子どもだけで留守番をさせた】



【病児・病後児保育施設（きららルーム）に預けた】



【その他】



８－２．病児・病後児保育の利用希望

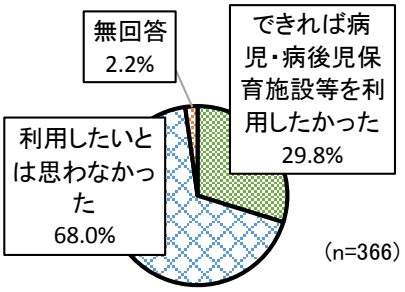
また、「父親」「母親」が休んで対応した人の「病児・病後児のための保育施設等」を利用したかった人は、29.8%であり、年間の利用回数では「4 日以下」が 39.4%でもっとも高く、ついで「5～9 日」の 23.9%となっており、平均で 6.2 日となっています。

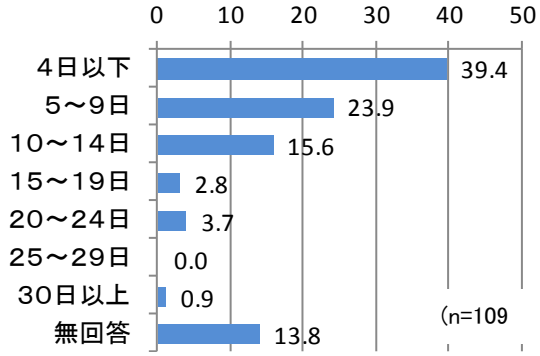
具体的な事業形態としては、「幼稚園・保育所等」「小児科」のいずれかに併設した施設がともに、６割以上を占めています。

一方、「病児・病後児のための保育施設等」を利用したいと思わなかった理由は、「保護者が仕事を休んで対応する」が 52.2%で過半数を占め、ついで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」の 44.6%となっており、何とか保護者で看たいという意識がうかがえます。

問 20-1 で「１」または「２」に○をした方にお伺いします。

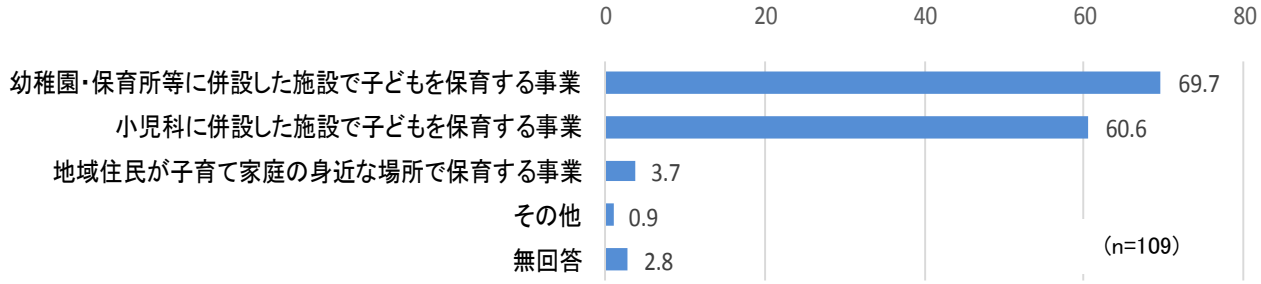
問 20-2. その際、できれば病児・病後児のための保育室等を利用したいと思いましたか。（1つに○） また、施設を利用したいと思った日数をお答えください。





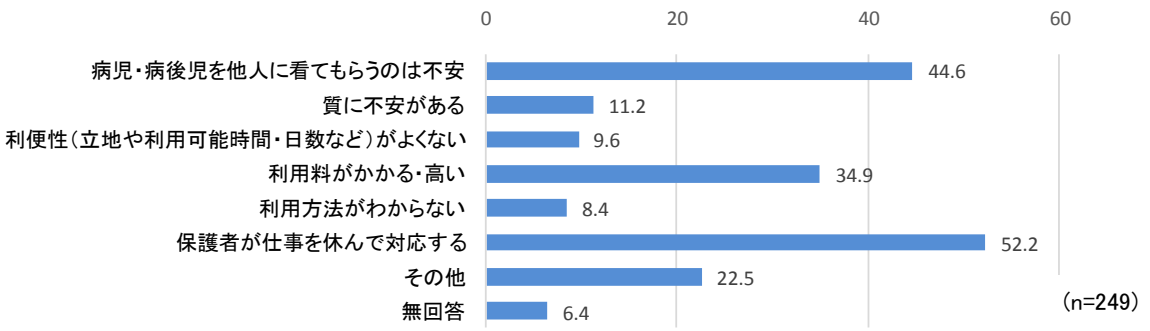
問 20-2 で「１」に○をした方にお伺いします。

問 20-3. 病気やけがであて名のお子さんを預ける場合、どのような事業形態が望ましいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



問 20-2 で「２」に○をした方にお伺いします。

問 20-4. そう思う理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）



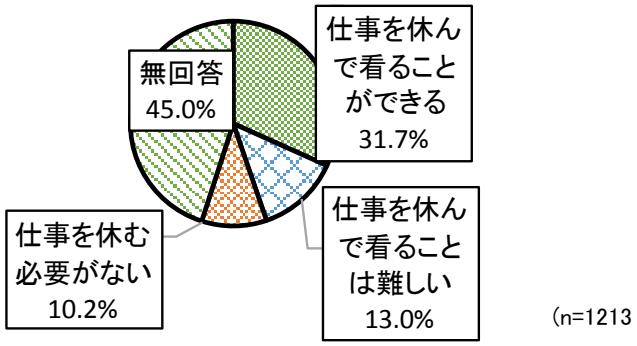
子どもが病気やけがの場合、仕事を休めるかについては、「仕事を休んで看ることができる」が 31.7%と全体の 3 分の 1 を占め、「休んで看るのは難しい」と答えた人は 13.0%となっています。

また、難しい理由としては、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が 51.9%と過半数を占めています。

なお、「その他」としては「仕事の関係で急な対応ができない」「給料が減る」などが主な理由としてあげられています。

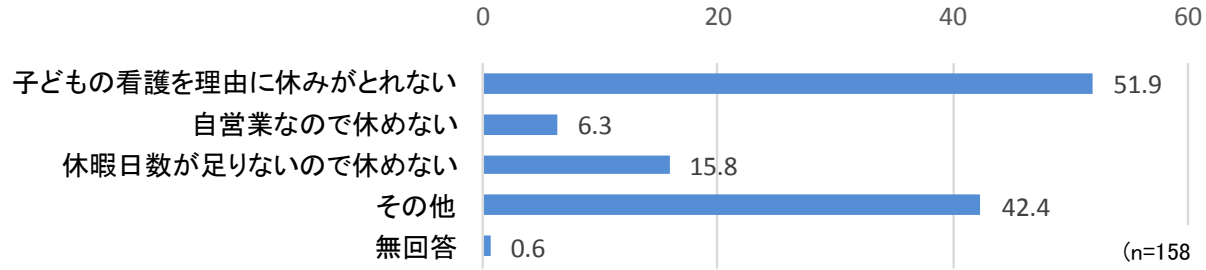
すべての方にお伺いします。

問 20-5. お子さんが病気やけがの場合に仕事を休んで看ることができますか。(1 つに○)



問 20-5 で「2」に○をした方にお伺いします。

問 20-6. 仕事を休んで看ることが難しい理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



9. 一時預かりについて

9－1．過去１年間に家族以外に一時的に預けたこと

この１年間で、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に子どもを家族以外の誰かに一時的に預けるために利用した施設についてみると、「利用していない」が 79.6%となり、大半を占めています。利用している中では、「幼稚園の預かり保育」が 12.2%、年間平均日数 17.6 日もっとも高く、ついで「一時預かり」の 5.9%、「ファミリーサポートセンター」の 1.2%となっています。

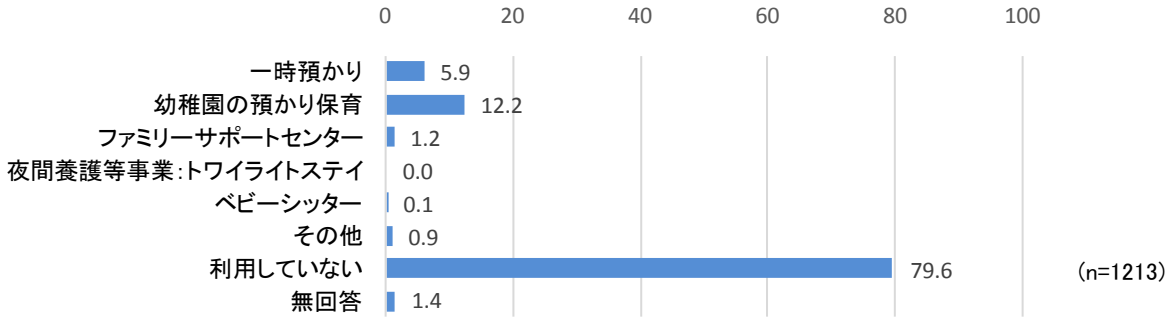
また、現在利用していない理由としては、「特に利用する必要がない」が８割を超えています。

今後の利用意向をみると、「利用したい」は 33.6%であり、内訳は、「私用（買い物・子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的）」が年間平均 11.6 日、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など」が年間平均 7.6 日、「不定期の就労」が同年間平均日数 14.9 日となっています。

また、「利用したい」事業形態としては、「大規模施設で子どもを保育する事業」が７割を超え、目立って高くなっています。

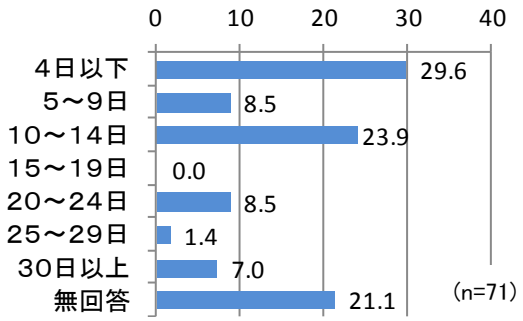
すべての方にお伺いします。

問 21. あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけ、１年間の利用日数（おおよそ）もお答えください。

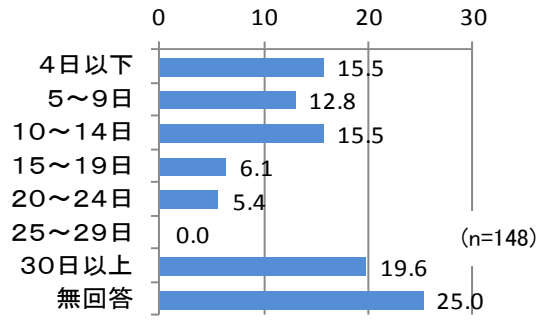


■主要３事業

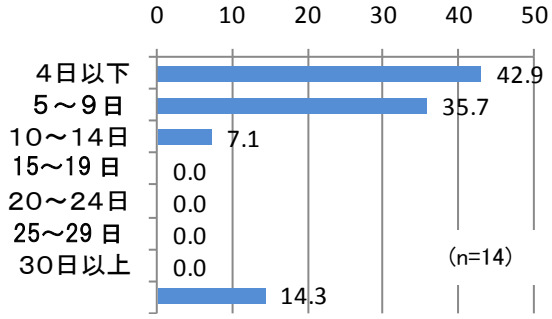
（１）一時預かり



（２）幼稚園の預かり保育

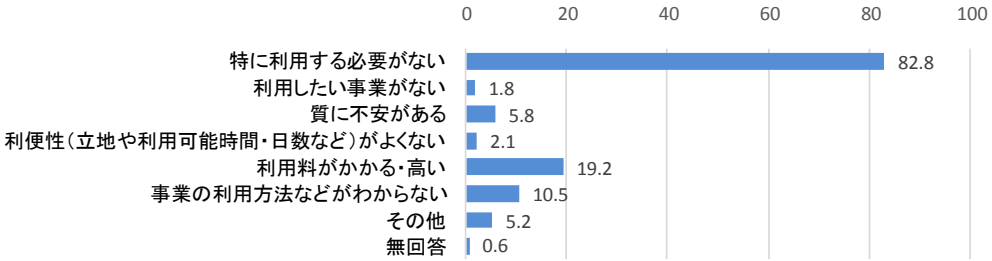


（3）ファミリーサポートセンター



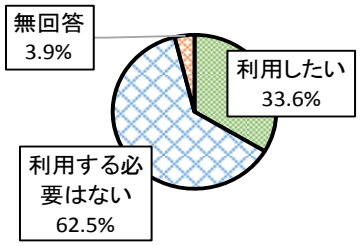
問 21 で「7.利用してない」に○をした方にお伺いします。

問 21-1・現在利用していない理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

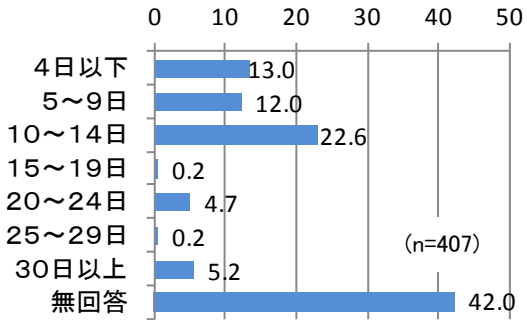


すべての方にお伺いします。

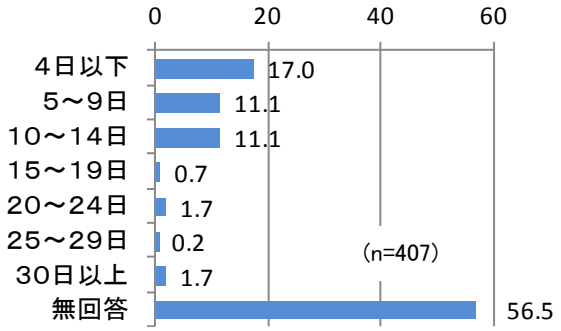
問 22. あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要がありますか。ある場合は、必要な日数もお答えください。



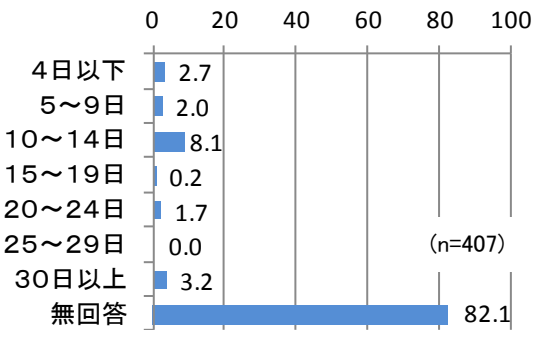
【私用】



【冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など】

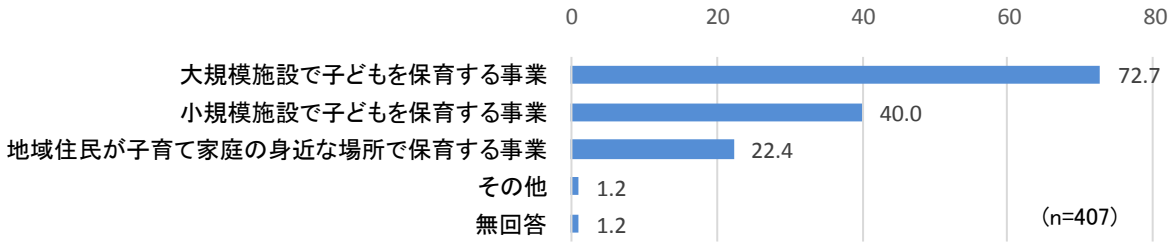


【不定期の就労】



問 22 で「1」に○をした方にお伺いします。

問 22-1. 問 22 の目的でお子さんを預ける場合、どのような業態が望ましいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



9-2. 宿泊を伴う一時預かりについて

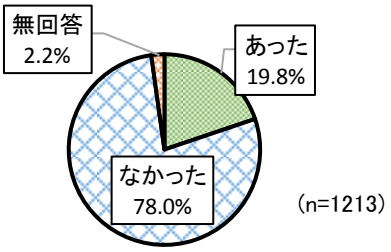
この１年間に、保護者の用事などにより、宛名のお子さんを泊まりがけで家族以外に預けなければならない経験についてみると、「あった」は 19.8%と約２割です。

その対処方法としては、そのほとんどは「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」と回答しており、その年間平均日数は 5.3 泊となっています。

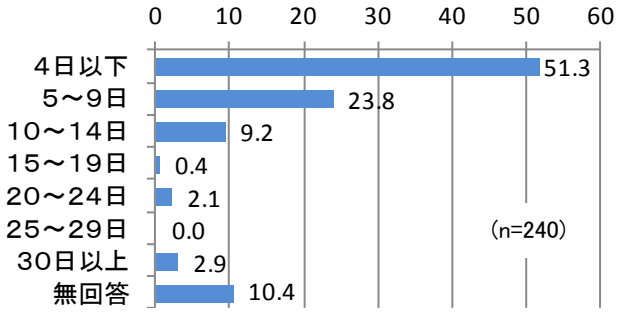
また、親族・知人にみてもらう場合の困難度としては、「非常」「どちらか」を含め困難が 32.7%に対し、「特に困難ではない」が 66.9%となり、困難を感じていない保護者が全体の３分の２を占めています。

すべての方にお伺いします。

問 23. この１年間に、冠婚葬祭、保護者・家族の病気などにより、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか(預け先が見つからなかった場合も含みます)。あった場合は、この１年間の対処方法の日数もお答えください。

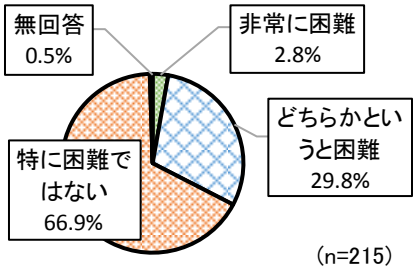


【親戚・知人にみてみらった】



問 23 で「1」の「親族・知人にみてもらった」に回答した方にお伺いします。

問 23-1. その場合の困難度はどの程度でしたか。(1 つに○)



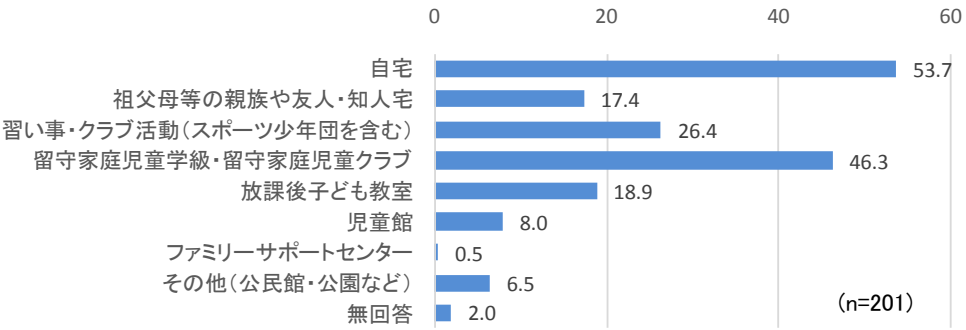
10. 留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブについて

１０−１．平日の放課後の過ごし方（低学年の時）

放課後の過ごさせたい場所については、自宅以外では、「留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」が 46.3%でもっとも高くなっており、1 週あたりの平均利用日数は、4.6 日、希望終了時刻の平均は、17 時 45 分となっています。

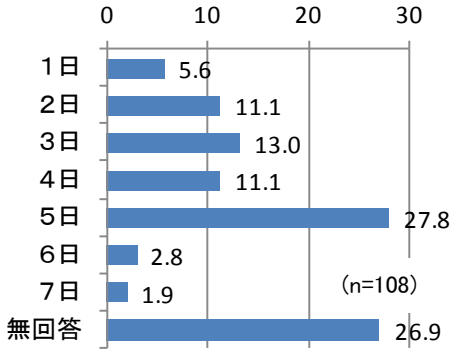
あて名のお子さんが来年度小学校入学予定の方にお伺いします。該当しない方は、問 27 へお進みください。

問 24. あて名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

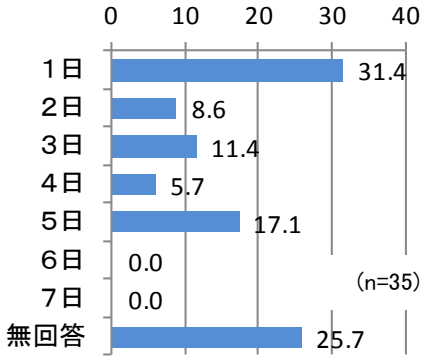


【週あたり利用希望日数】

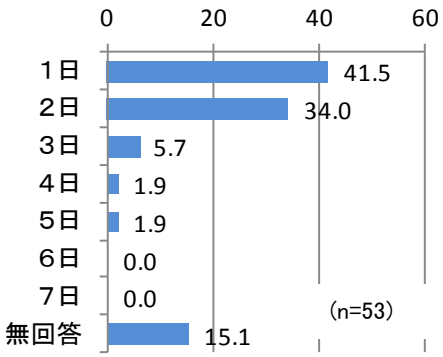
【自宅】



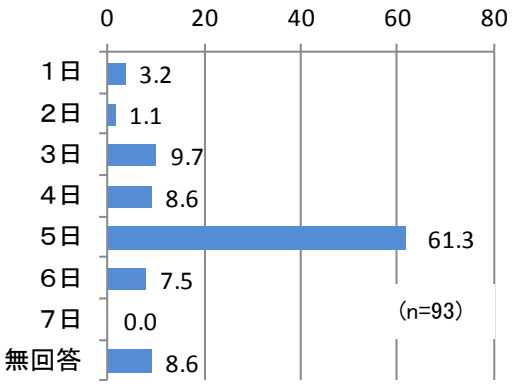
【祖父母等の親族や友人・知人宅】



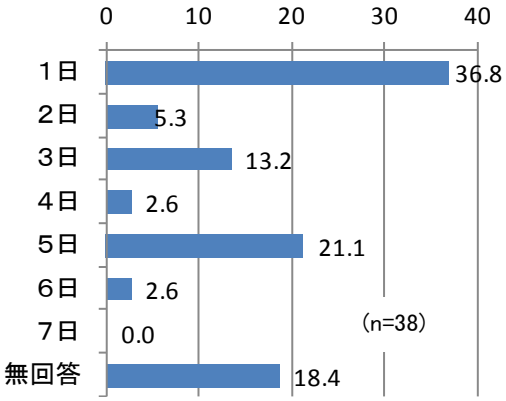
【習い事・クラブ活動】



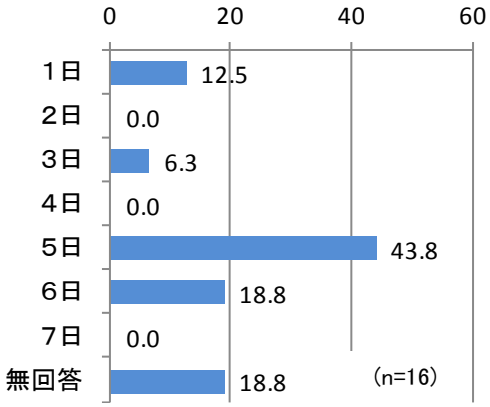
【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ】



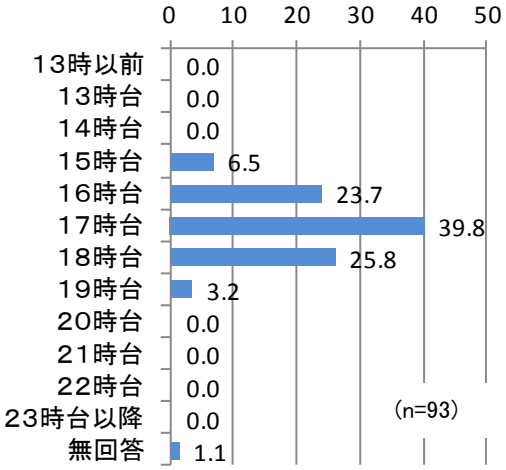
【放課後子ども教室】



【児童館】



【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブの希望終了時刻】

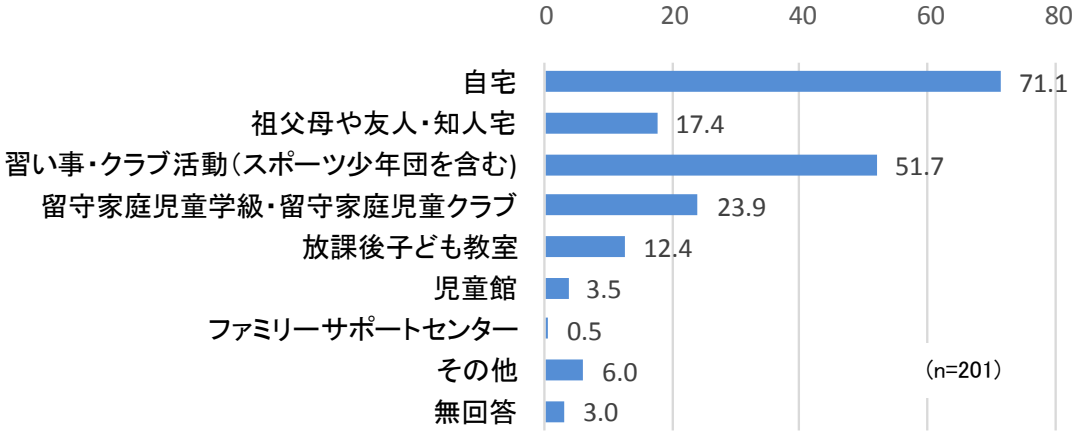


１０−２．平日の放課後の過ごし方（高学年の時）

放課後の過ごさせたい場所については、「自宅」がもっとも高く 71.1%となっており、ついで「習い事・クラブ活動」の 51.7%続いています。

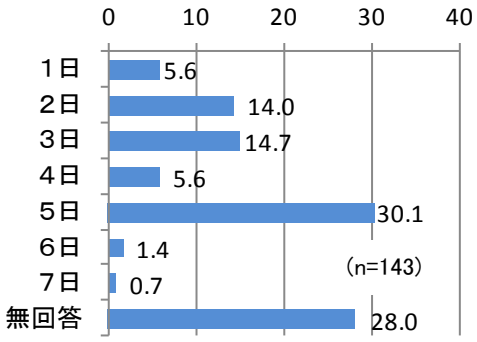
「留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」は 23.9%であり、週あたりの平均利用日数は、4.2 日、希望学年は６年生が 54.1%を占め、さらに希望終了時刻の平均は、18 時となっています。

問 25. あて名のお子さんについて、小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）また、留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブを利用したい方は、何年生まで利用したいかお答えください。

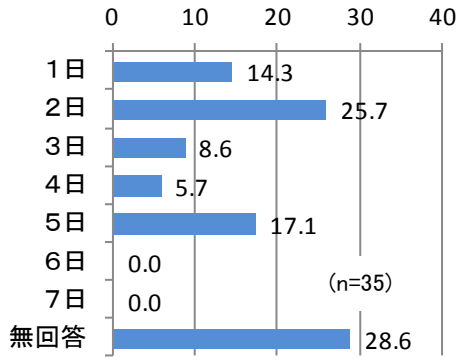


【週あたり利用希望日数】

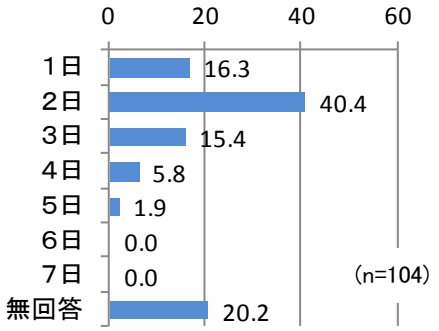
【自宅】



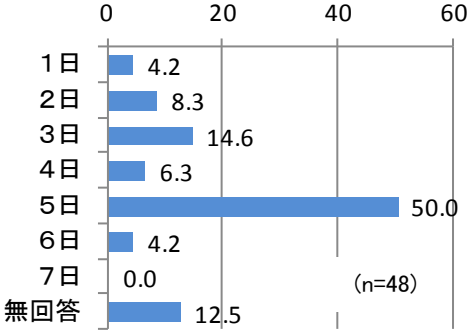
【祖父母や友人・知人宅】



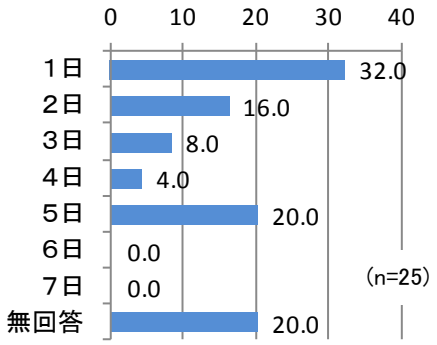
【習い事・クラブ活動】



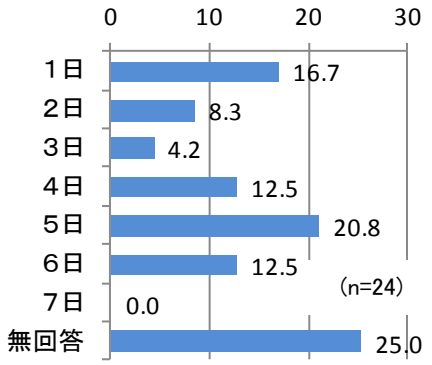
【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ】



【放課後子ども教室】

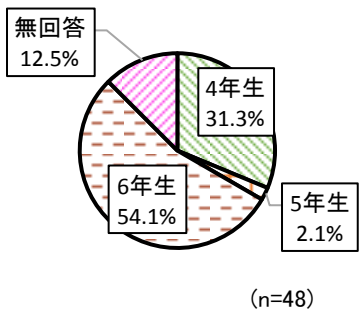


【児童館】

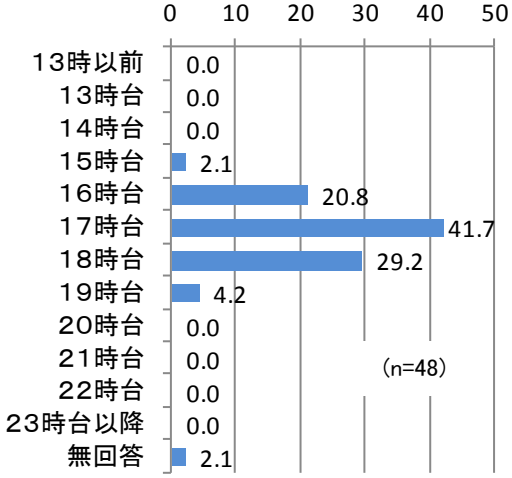


【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブの希望学年と希望終了時刻】

【利用希望年生】



【希望終了時刻】



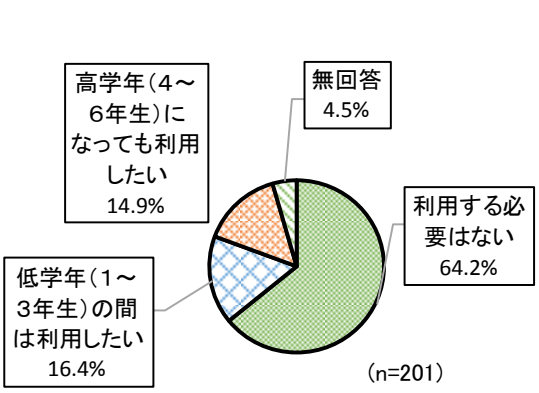
１０−３．留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブの利用意向

留守家庭児童教室・留守家庭児童クラブの利用意向をみると、土曜日は「低学年（1～3 年生）の間は利用したい」は 16.4%、「高学年（4～6 年生）になっても利用したい」は 14.9%で、合わせて 31.3%となっています。日曜日・祝日は「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」合わせて 8.5%となり希望者は少なくなります。夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中は、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」合わせると 59.2%となり、過半数が希望しています。利用希望学年としては、いずれも 6 年生が中心です。

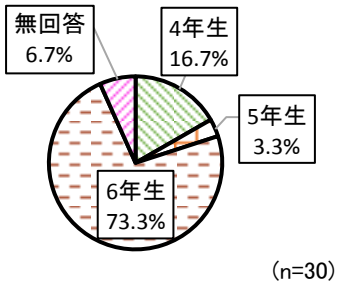
平均の開始・終了時間についてみると、開始時間は、いずれも 8 時 10 分前後、終了時間は土曜日が 16 時 55 分、日曜日・祝日は 17 時 35 分、夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中は 17 時 15 分となっています。

問 26. あて名のお子さんについて、土曜日、日曜日・祝日、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中、留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブの利用希望はありますか。（1つに○）また、高学年になっても利用したい方は、何年生まで利用したかお答えください。

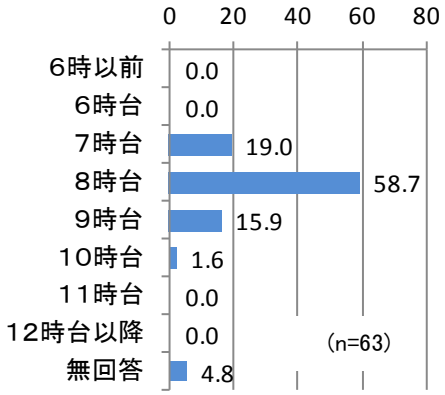
（1）土曜日



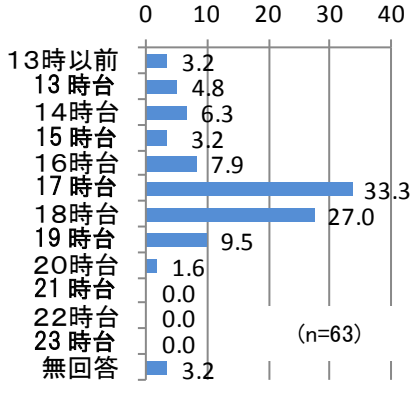
【利用希望学年】



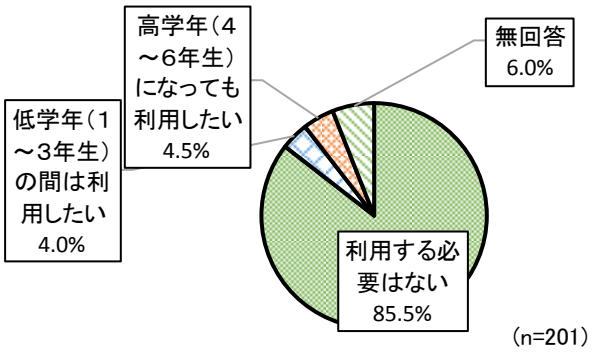
【開始時刻】



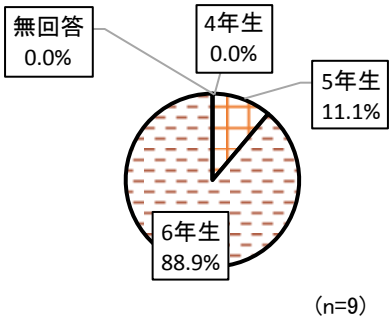
【終了時刻】



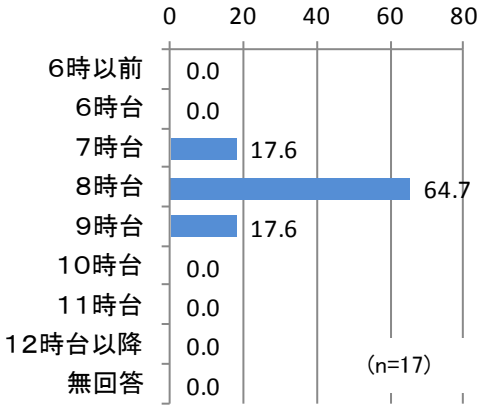
（2）日曜日・祝日



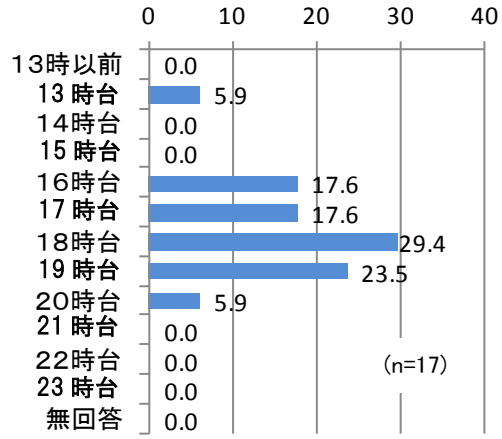
【利用希望学年】



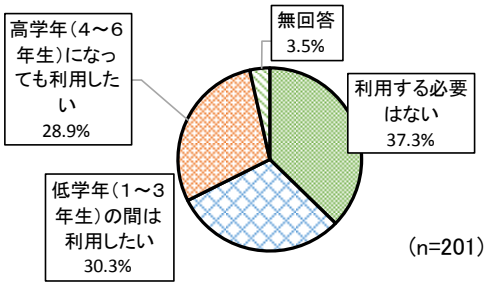
【開始時刻】



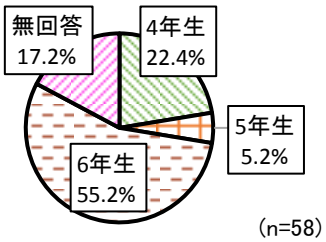
【終了時刻】



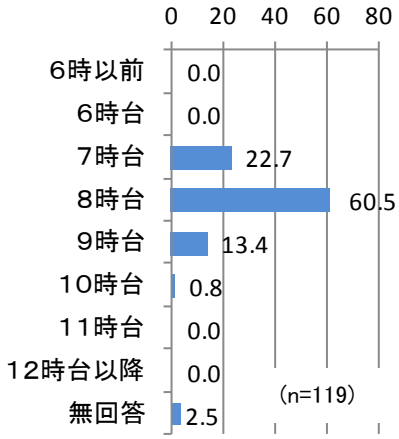
（3）夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中



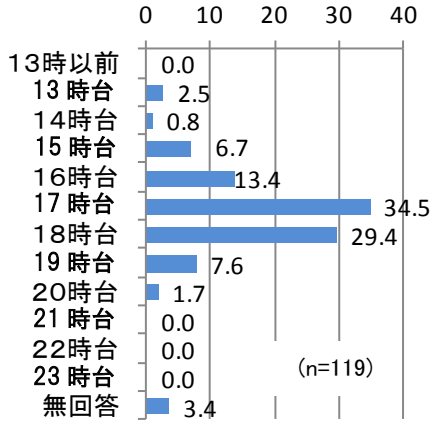
【利用希望学年】



【開始時刻】



【終了時刻】



11. 育児休業制度等の利用状況

１１−１．育児休業制度の利用の有無

アンケート対象となった子どもが生まれた時に、母親又は父親の育児休業制度の利用経験をみると、母親が「取得した」が 19.5%であるのに対し、父親の「取得した」が 2.0%となっています。

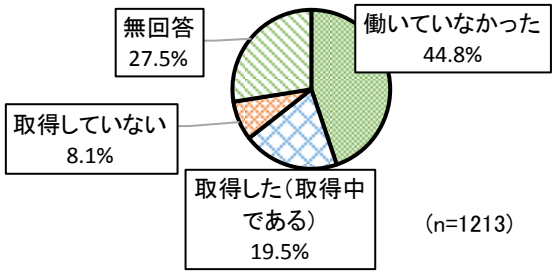
取得していない理由としては、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」が 31.6%でもっとも高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった」が 27.6%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 21.4%と続いています。父親は、子どもをみてもらえる人がいたので「制度を利用する必要がなかった」が 42.6%でもっとも高く、ついで「仕事が忙しかった」が 34.3%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 26.2%、「収入源となり、経済的に苦しくなる」が 25.5%となっています。

また、「子どもが原則 1 歳になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満 3 歳になるまでの育児休業等の期間について、健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組み」の認知については、両方とも知っていた人は 23.3%、育児休業給付のみ知っていた人が 19.5%、保険料免除のみ知っていた人が 1.9%となっており、何らかについて知っていた人は、44.7%となっています。

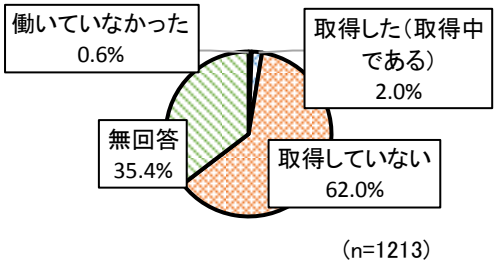
すべての方にお伺いします。

問 27. あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれか、もしくは双方が育児休業を取得しましたか。
（①母親、②父親ごと1つに○）

母　親

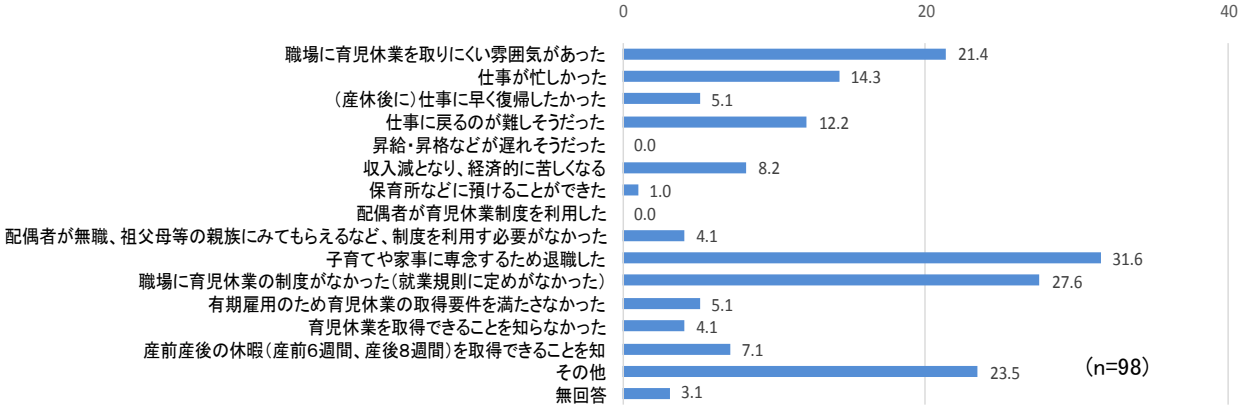


父　親

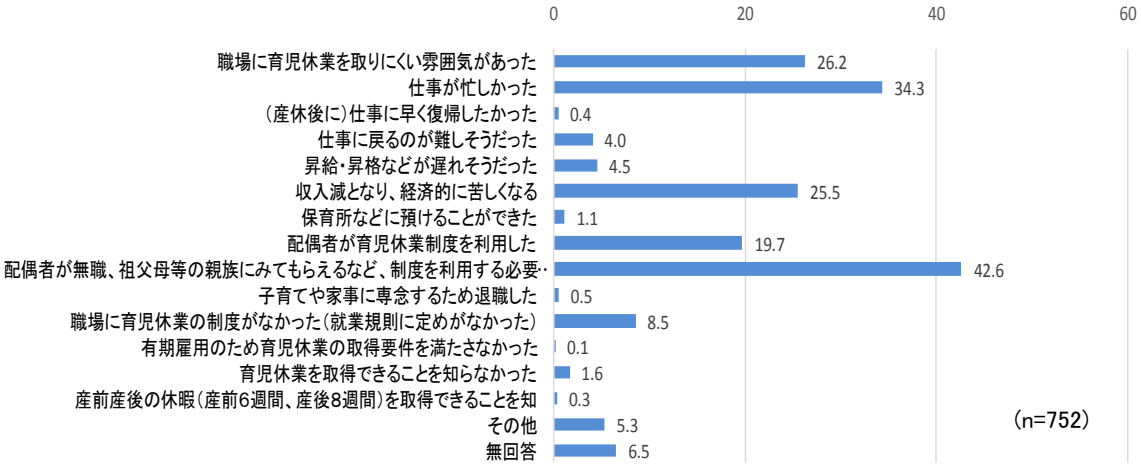


【取得していない理由】

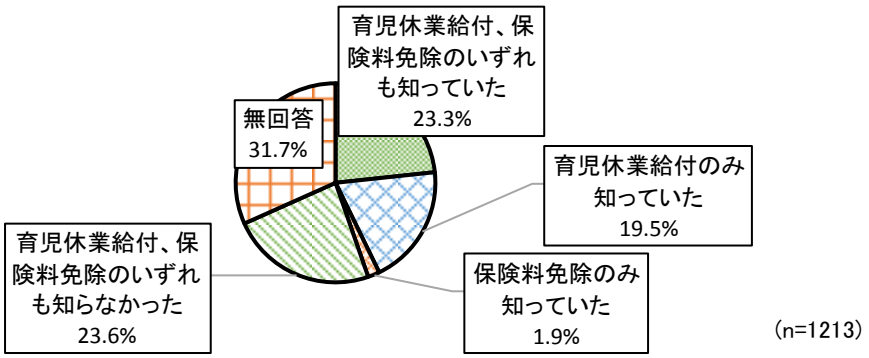
母親



父親



問 28. 子どもが原則 1 歳になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満 3 歳になるまでの育児休業等の期間について、健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存知でしたか。(1 つに○)



１１−２．育児休業制度取得後の対応等（母親）

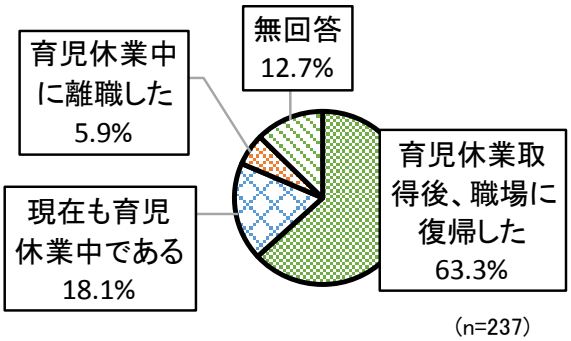
育児休業取得後の職場復帰について、母親で「育児休業取得後、職場に復帰した」は63.3%で、復帰のタイミングとしては、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が29.3%と約３割となっています。

復帰時期については、希望は子供が平均 1 歳 6 か月の時期ですが、実際は、職場の可能期間が 1 歳 7 か月なのに対し、現実は 1 歳までしか育児休業を取得していないという状況です。

また、育児のため 3 歳まで休暇を取得できる制度があった場合の希望取得の子どもの年齢は２歳１か月となっています。

問 27 で母親または父親が「2.取得した（取得中である）」に○をした方にお伺いします。該当しない方は、問 31 へお進みください。

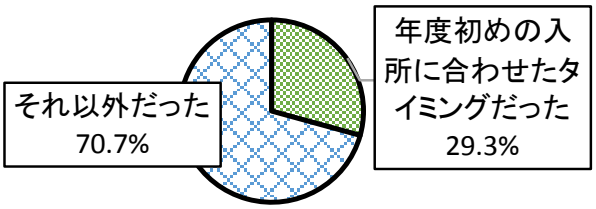
問 29. 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（1つに○）



（n=237）

問 21 で「1」に○をした方にお伺いします。

問 29−1. 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入園に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。（1つに○）

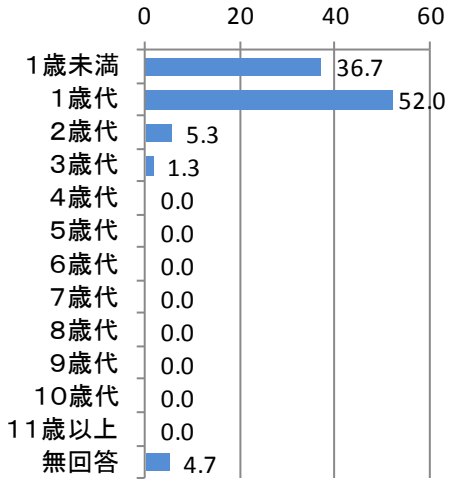


（n=150）

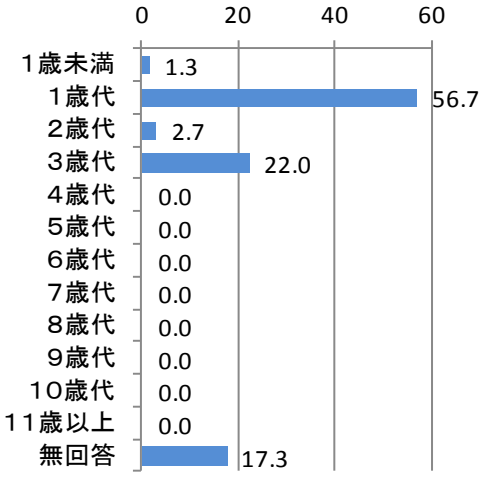
問 29-2. あて名のお子さんが何歳何か月になるまで育児休業を取得しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の取得可能期間内で、あて名のお子さんが何歳何ヶ月になるまで取得したかったかお答えください。

母親 (n=150)

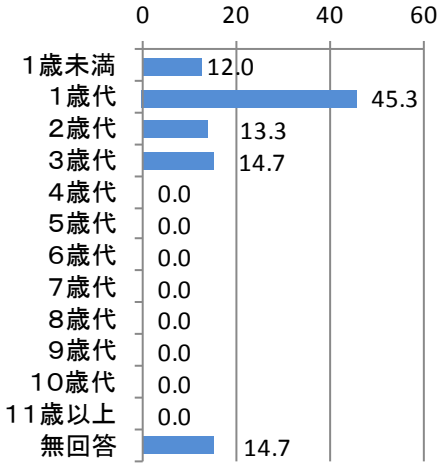
【実際の取得期間】



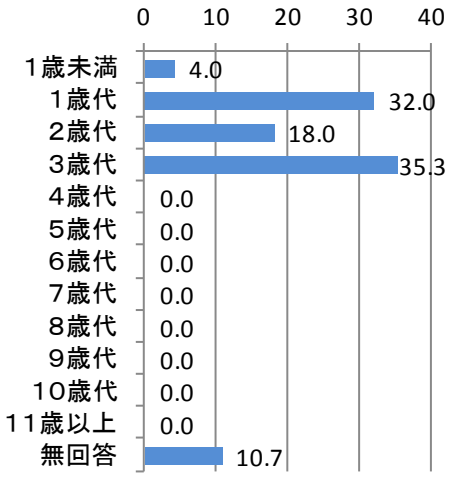
【取得可能期間】



【希望の取得期間】



問 29-3. お勤め先に、育児のために 3 歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何か月のときまで取りたかったかお答えください。

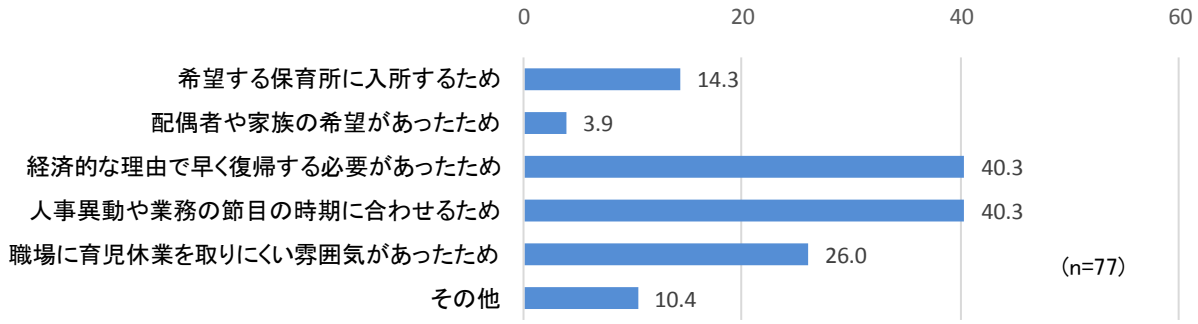


希望の時期に職場復帰しなかった理由については、希望より早く復帰した方は「経済的な理由で早く復帰する必要があった」と「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」がそれぞれ 40.3%と、とくに高くなっています。保育サービスに合わせた人は、14.3%となっています。なお、希望より遅く復帰した人は、１人で「希望する保育所に入れなかったため」と答えています。

問 29-2 で実際の復帰と希望が異なる方にお伺いします。

問 29-4. 実際の時期に職場復帰しなかった理由は何ですか。

（1）希望より早く復帰した方（あてはまるものすべてに○）



１１-３．短時間勤務制度の利用等（母親）

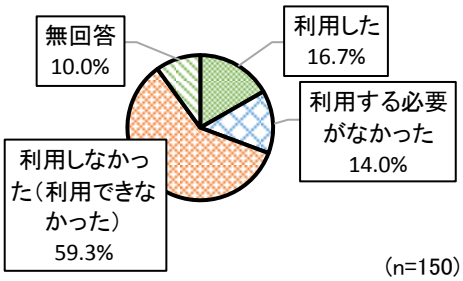
短期間勤務制度を「利用した」人は 16.7%であり、「利用しなかった(利用できなかった)」が 59.3%と過半数を占めています。

短時間勤務制度の利用時の子どもの年齢は、希望は平均 5 歳までですが、実際は、職場の可能期間が 3 歳 9 か月なのに対し、現実は 2 歳 10 か月までしか利用できていない状況です。

同制度を利用していない理由としては、「職場に短時間勤務制度を利用しにくい雰囲気があった」が 50.6%と半数を超えてもっとも高く、ついで「仕事が忙しかった」が 43.8%となっており、この 2 項目が目立って高いことから、職場環境による影響が大きいことがうかがえます。

問 29 で「1.育児休業取得後、職場に復帰した」に○をした方にお伺いします。

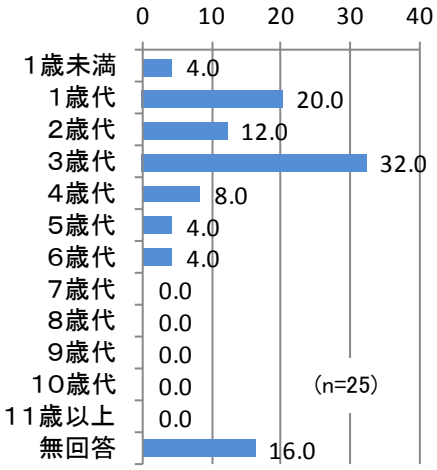
問 29-5 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。（1つに○）



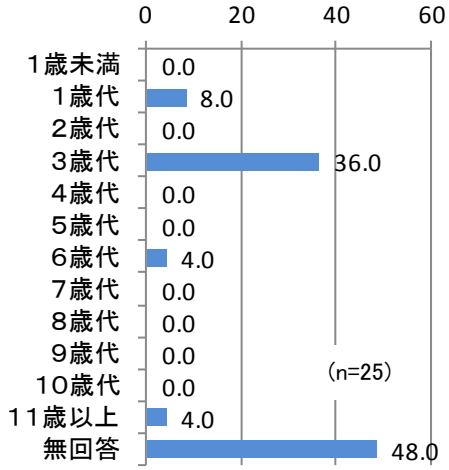
問 29-5 で「1.利用した」に○をした方にお伺いします。

問 29-6. あて名お子さんが何歳何か月になるまで短時間勤務制度を利用しましたか。また、お勤め先の制度の利用可能期間と、その期間内でのあて名のお子さんが何歳何か月にまるまで利用したかったかお答えください。

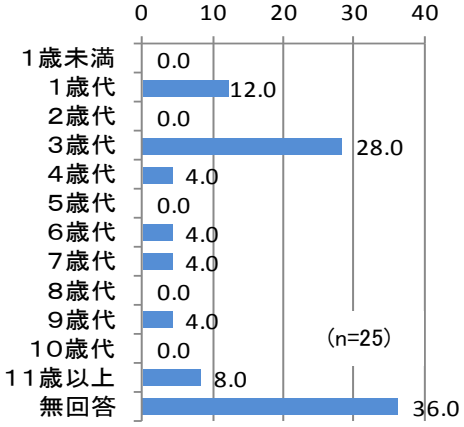
【実際の利用期間】



【お勤め先の制度の利用可能期間】

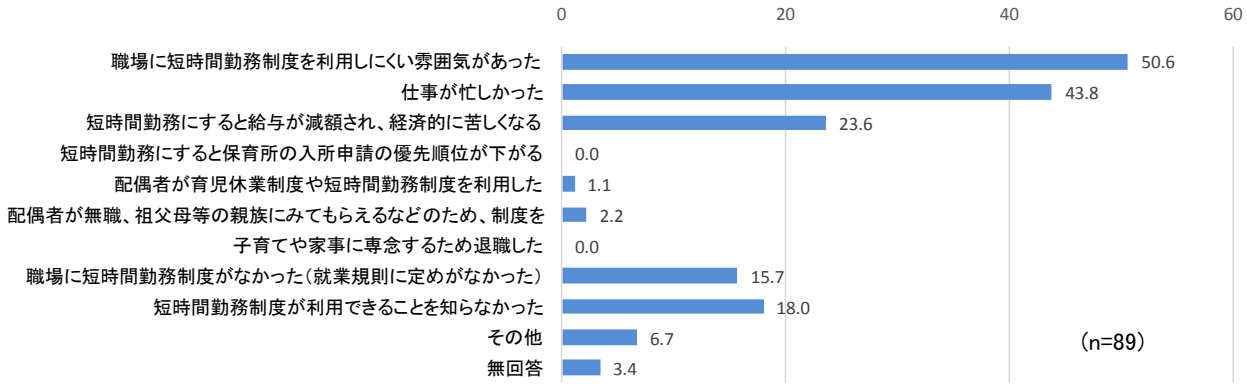


【希望の利用期間】



問 29-5 で「3.利用しなかった（利用できなかった）」に○をした方にお伺いします。

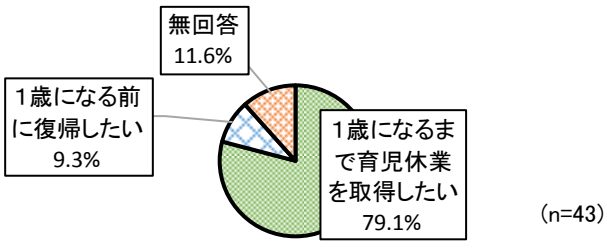
問 29-7. 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）



「現在も育児休業中」の人に対する「子どもが 1 歳になったときに必ず利用できる教育・保育事業があれば、1 歳になるまで育児休業を取得するか」についての質問では、79.1%と８割の人が取得を希望しています。

問 29 で「2.現在も育児休業中である」に○をした方にお伺いします。

問 29-8. あて名のお子さんが 1 歳になったときに必ず利用できる教育・保育事業があれば、1 歳になるまで育児休業を取得しますか。（1 つに○）



12.「ファミリーサポートセンター」の利用状況

１２−１．利用状況と利用している理由

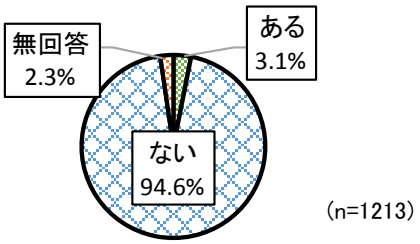
ファミリーサポートセンターを利用したことがある人は、必要のある保護者が対象とはいえ、3.1%と極めて低い数字となっています。

利用理由としては、「祖父母等の親族や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している」が、27%でもっとも高くなっています。

１か月あたりの回数としては平均 2.2 回、１回あたり平均３時間となっています。

すべての方にお伺いします。

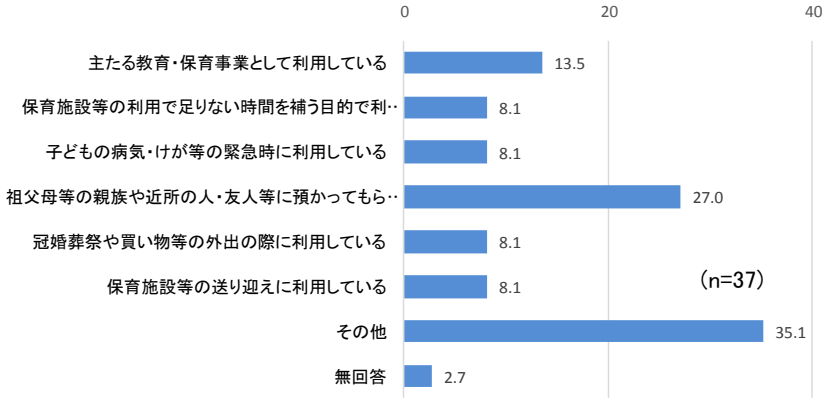
問 31. ファミリーサポートセンターを利用したことがありますか。(1 つに○)



(n=1213)

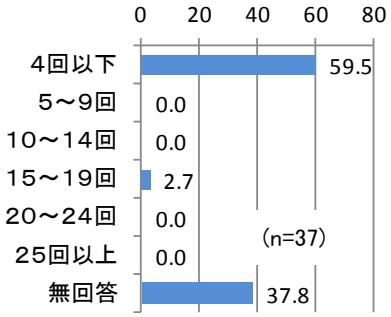
問 31で「1.ある」に○をした方にお伺いします。

問 31−1. どのような目的で利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

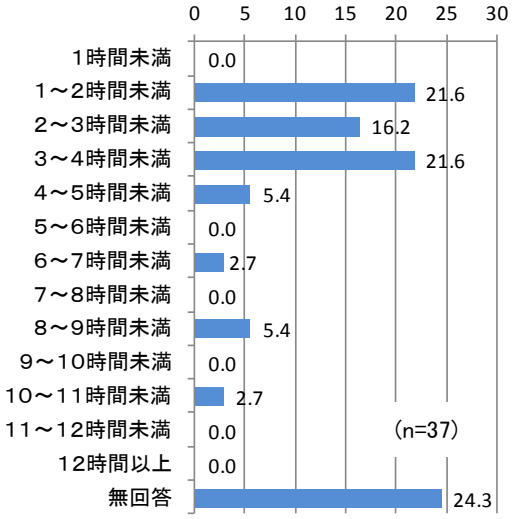


問 31−2. 月に何回くらいの頻度で利用していますか。

【1 か月あたり利用回数】



【1 回あたり利用時間】



１２−２．今後の利用希望等

今後の増加希望としては、1 か月あたりの回数としては平均 2.9 回、1 回あたり平均 3.8 時間となっています。

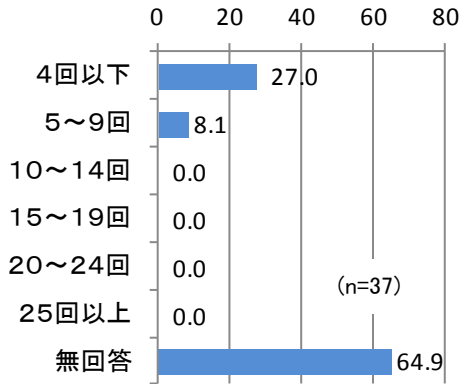
また、現在利用していないが、今後利用したいは 14.3%と 1 割強となっています。

1 か月あたりの回数としては平均 2.7 回、1 回あたり平均 3.9 時間となっています。

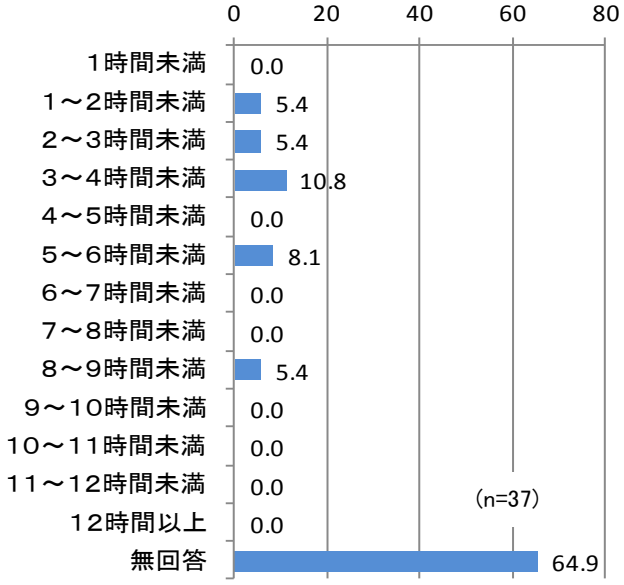
問 31で「1.ある」に○をした方にお伺いします。

問 31−3. 利用回数や利用頻度を増やせるとしたら、どのくらい増やしたいと思いますか。

【1 か月あたり利用回数】

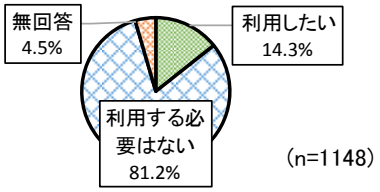


【1 回あたり利用時間】

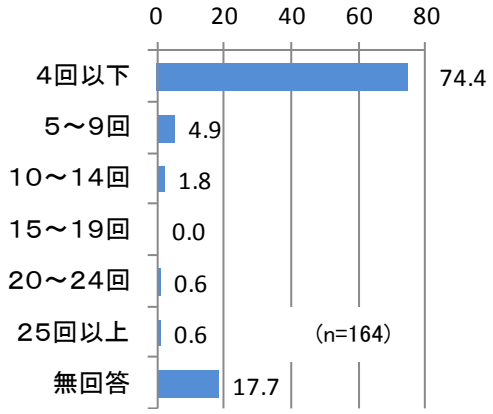


問 31で「2.ない」に○をした方にお伺いします。

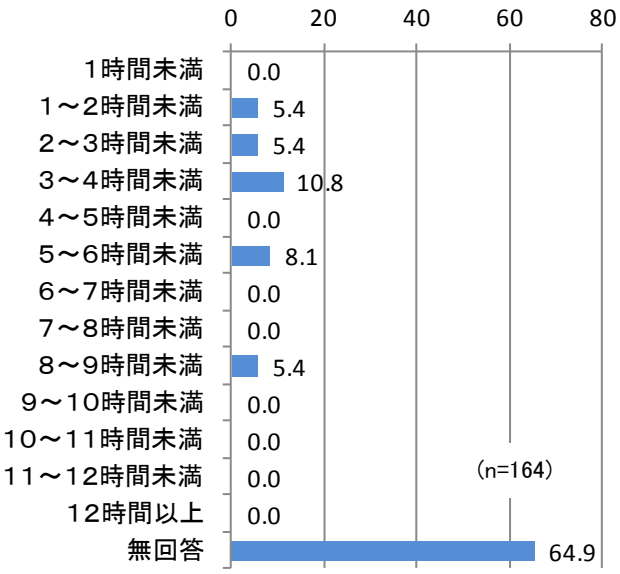
問 31−4. 今後利用したいと思いますか。利用したい場合は、利用したい回数、時間をお答えください。



【1 か月あたり希望利用回数】



【1 回あたり希望利用時間】



13. 子ども家庭支援センター「海北」の利用状況

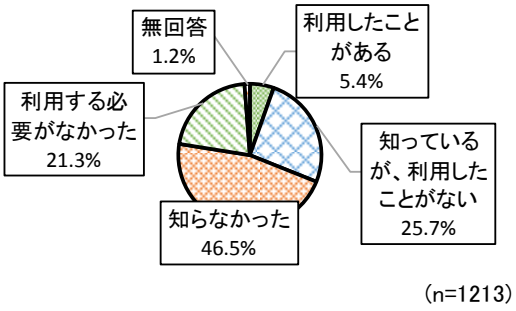
１３−１．利用状況と利用してない理由

子ども家庭支援センター「海北」を利用したことがある人は、必要のある保護者が対象とはいえ、5.4%と極めて低い数字となっています。利用者の 1 か月あたりの利用回数は平均 1.8 回となっています。

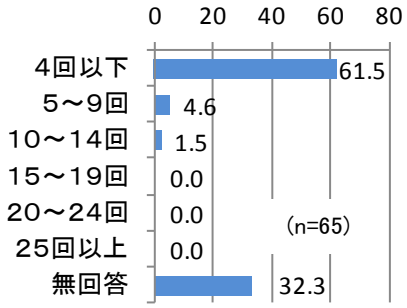
利用したことがない理由としては、「特に理由はない」が 54.8%と目立って高いほかは、「サービスの利用方法がわからない」が 25.6%と続いており、施設自体の PR 等が必要です。

すべての方にお伺いします。

問 32. 子ども家庭支援センター「海北」」を利用したことがありますか。(1 つに○)

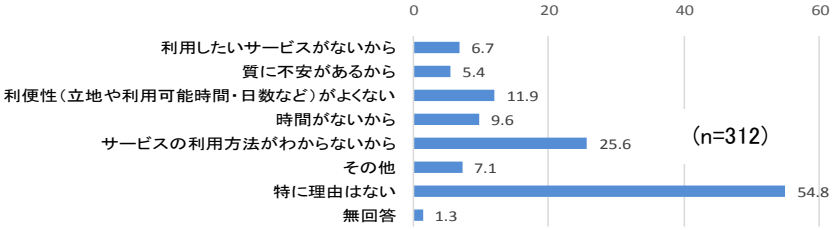


【1 か月あたり利用回数】



問 32 で「2 知っているが、利用したことがない」に○をした方にお伺いします。

問 32−1. サービスを利用したことがない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)



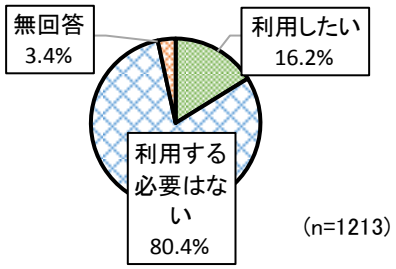
１３−２．今後の利用希望等

今後の利用意向については「利用したい」は 16.2%と 2 割弱に留まっています。

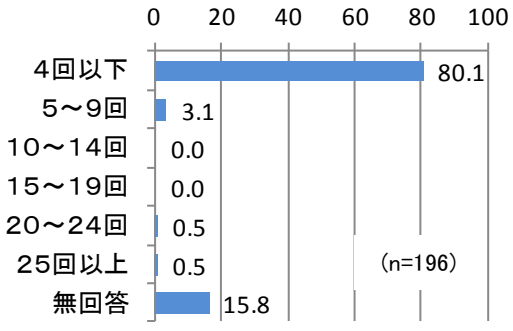
1 か月あたりの希望利用回数は平均 2.2 回となっています。

すべての方にお伺いします。

問 33. 今後、利用したいと思いますか。利用したい場合は、利用したい回数、時間をお答えください。



【1 か月あたり希望利用回数】



14. 児童虐待について

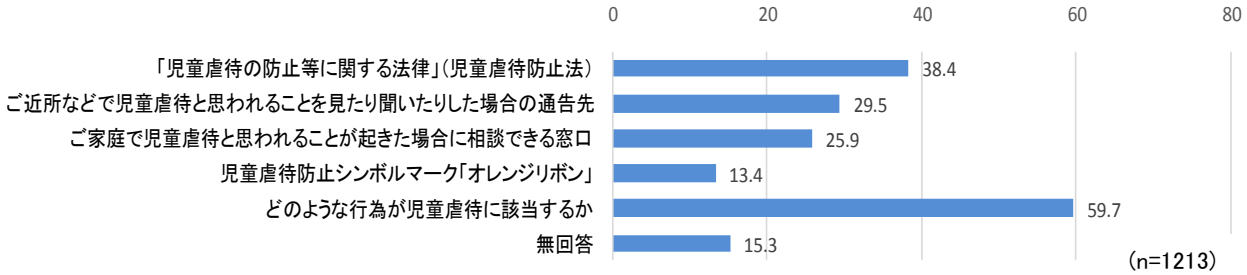
児童虐待について知っていることは、「どのような行為が児童虐待に該当するか」が59.7%と目立って高く、ついで、「児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待防止法)」が38.4%、以下「ご近所などで児童虐待と思われることを見たり聞いたりした場合の通報先」の 29.5%「ご家庭で児童虐待と思われることが起きた場合に相談できる窓口」の 25.9%と続いています。

児童虐待を見聞きした場合にどちらに通報するかについては、「児童相談所」が 43.9%でもっとも高く、ついで「市役所子育て支援課」の 30.8%となっています。以下「地元警察署」の 18.6%があげられているほかは、数%となっています。

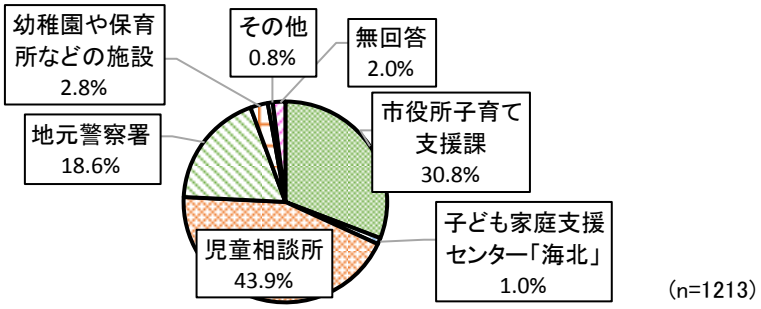
また、自分の子どもに対する行為としては、「必要以上に大声でしかったことがある」が66.0%と全体の3分の 2 を占めて目立って高くなっています。以下「感情のままにたたいたことがある」の 33.0%となっています。

すべての方にお伺いします。

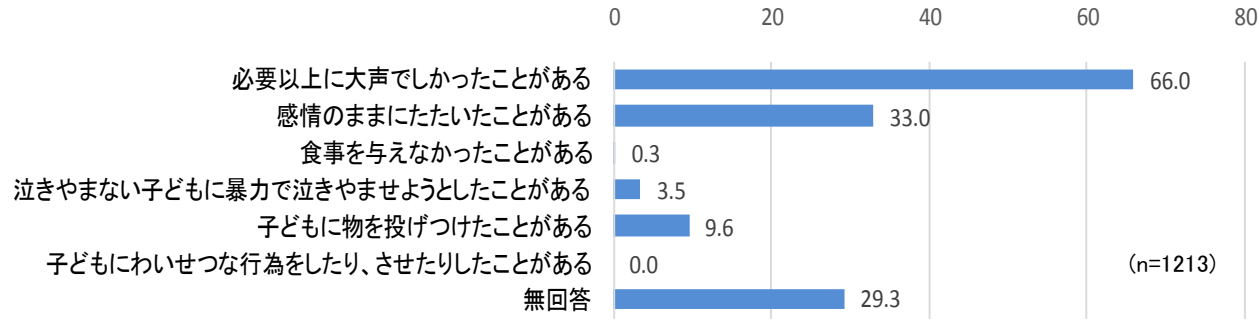
問 34. 児童虐待について知っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)



問 35. 児童虐待を見聞きした場合には、どちらに通告しようと思いますか。(1つに○)



問 36. あなたは今までに、自分の子どもに対し、下記の1～7のようなことをしたことや感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



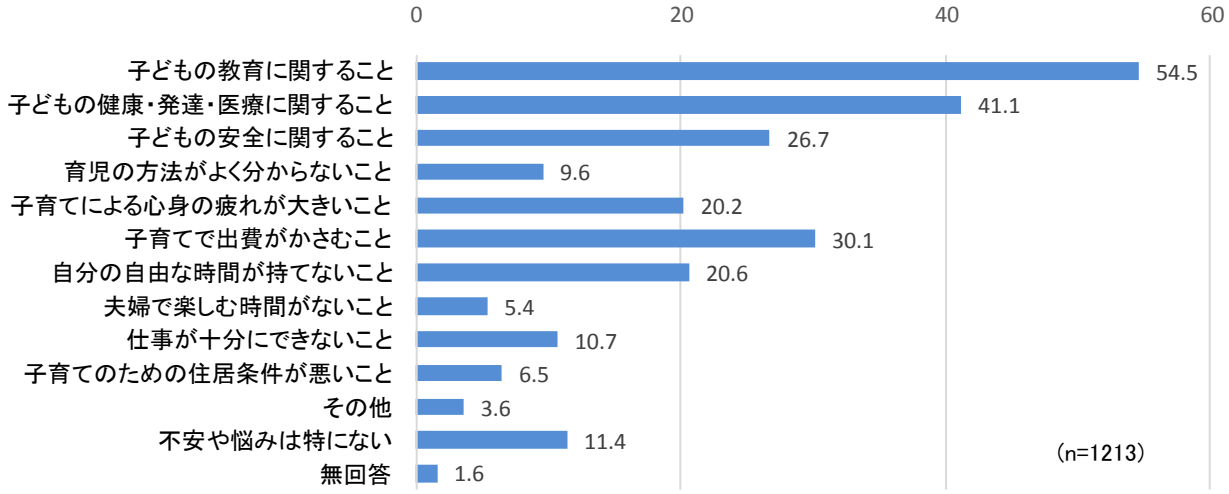
15. 子育て全般について

１５−１．子育てについての悩み

子育てを行ううえでの悩みについては、「子どもの教育に関すること」が 54.5%でもっとも高く、ついで「子どもの健康・発達・医療に関すること」の 41.1%、「子育てで出費がさけむこと」の 30.1%、「子どもの安全に関すること」の 26.7%と続いています。

すべての方にお伺いします。

問 37. 子育てを行ううえで、どのような悩みがありますか。(4 つまで○)

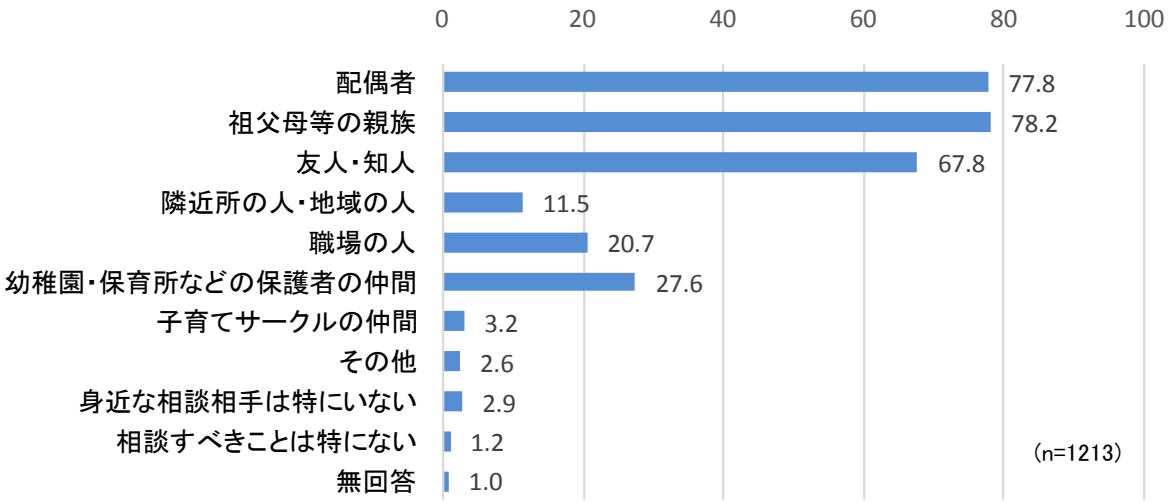


１５−２．悩みや不安の身近な相談先

子育ての悩みや不安についての身近な相談先としては、「祖父母等の親族」(78.2%)、「配偶者」(77.8%)、「友人・知人」(67.8%)が約７割～８割を占めて、目立って高くなっています。

すべての方にお伺いします。

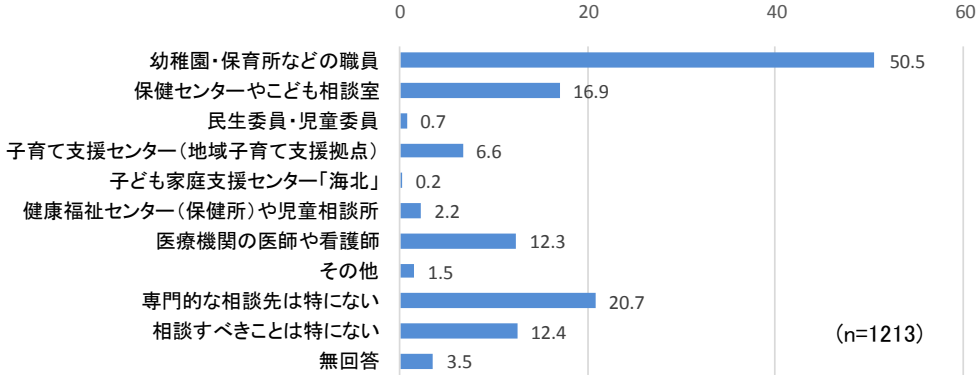
問 38. 子育てについての悩みや不安を気軽に相談できる相手はいますか。(あてはまるものすべてに○)



１５−３．悩みや不安の専門的な相談先

子育ての悩みや不安についての専門的な相談先では、「専門的な相談先は特にない」が 20.7%と２割を占めている中では、「幼稚園・保育所などの職員」が 50.5%と目立って高くなっています。以下「保健センターやこども相談室」の 16.9%、「医療機関の医師や看護師」の 12.3%となっているほかは、公的機関の相談窓口等はいずれも数%と低調であり、啓発等の取組の充実が必要です。

問 39. 子育てについての悩みや不安を相談できる専門的な相談先はありますか。(あてはまるものすべてに○)



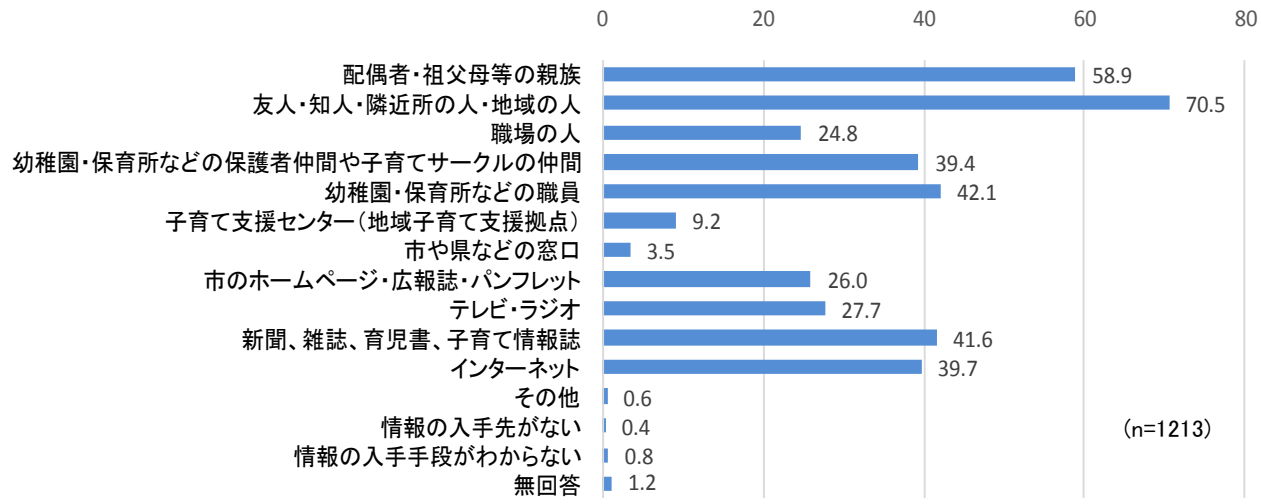
１５−４．情報の入手先

子育てに関する情報の入手先としては、「友人・知人・隣近所の人・地域の人」が 70.5%と目立って高く、ついで「配偶者・祖父母等の親族」の 58.9%となっており、この２つが大きな情報入手先となっています。

そのほか、「幼稚園・保育所などの職員」(42.1%)、「新聞、雑誌、育児書、子育て情報誌」(41.6%)、「インターネット」(39.7%)、「幼稚園・保育所などの保護者仲間や子育てサークルの仲間」(39.4%)となっています。

「子育て支援センター」や「市や県などの窓口」は１割未満と低調です。

問 40. 子育に関する情報をどこ(誰)から入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

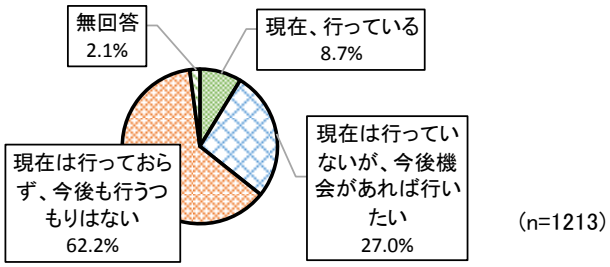


１５−５．子育てに関するサークルなどの自主的な活動について

子育てに関する自主的な活動への参加状況をみると、「現在、行っている」は 8.7%、「現在は行っていないが、今後機会があれば行いたい」が 27.0%となっており、今後の希望を含めても活動への経験は 35.7%と４割弱となっています。

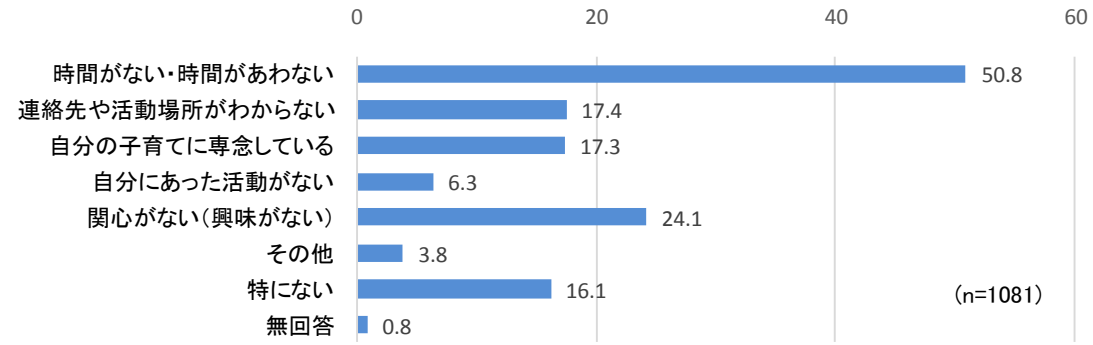
活動していない理由しては、「時間がない・時間があわない」が 50.8%と半数を超えて目立って高く、子育てに追われている状況がうかがえます。

問 41. あなたは、子育てに関する自主的な活動（サークル等）を行っていますか。（1 つだけ○）



問 41 で「2.」「3」の現在行っていないに○をした方にお伺いします。

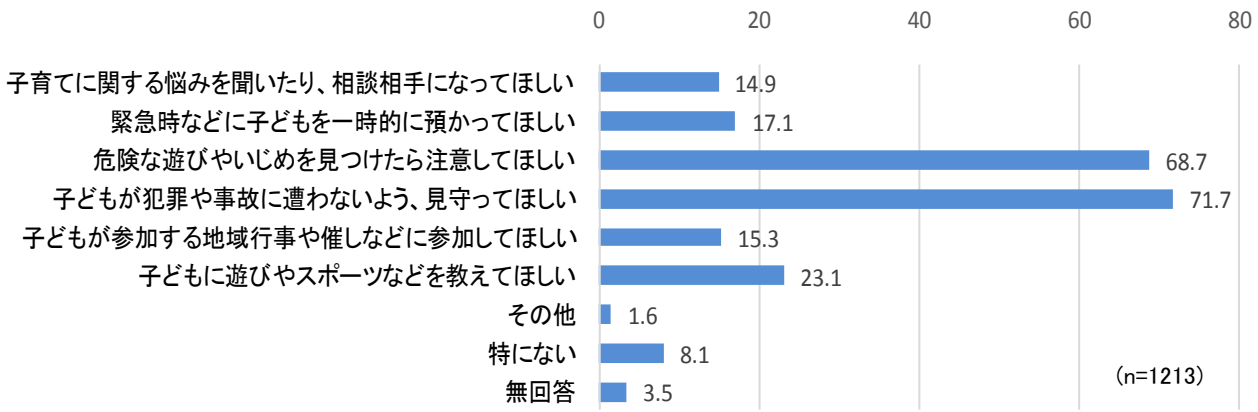
問 41−1. 現在、子育てに関する自主的な活動（サークル等）を行ってない理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）



１５−６．地域に望む子育て支援について

地域に望む子育て支援については、「子供が犯罪や事故に遭わないよう、見守ってほしい」が 71.7%、次いで「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」68.7%で、この 2 項目が目立って高くなっています。

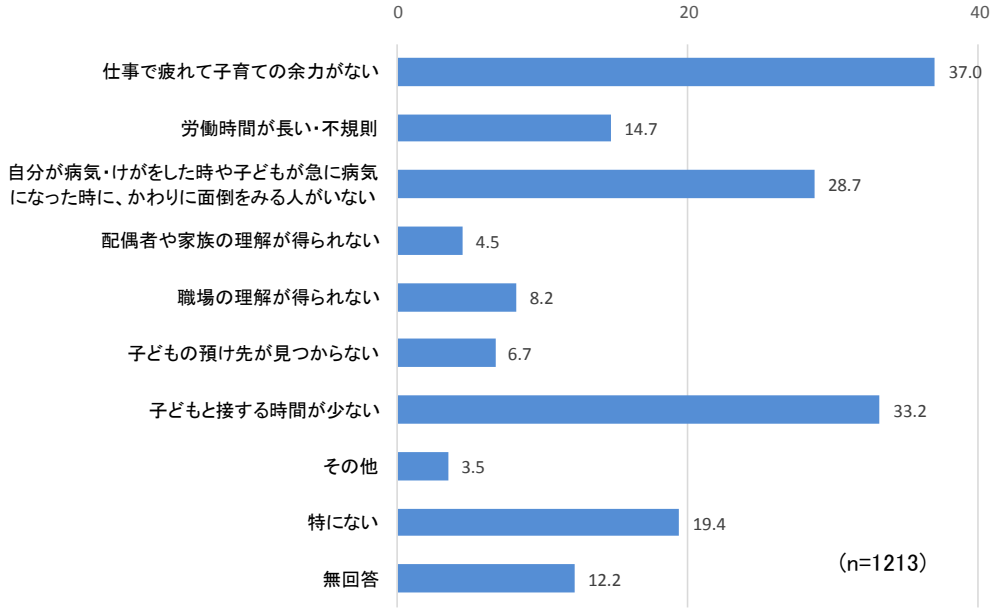
問 28. 子育て支援として、身近な地域の人に望むことがありますか。（3つまで○）



１５−７．仕事と子育ての両立について

仕事と子育てを両立する上での問題は、「仕事で疲れて子育ての余力がない」の 37.0%がもっとも高く、ついで「子どもと接する時間が少ない」の 33.2%、保護者の病気等でも「かわりに面倒をみる人がいない」の 28.7%となっており、ワークライフバランスや地域等での見守り等の重要性が指摘されます。

問 43. 仕事と子育てを両立させるうえで、大変だと感じることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

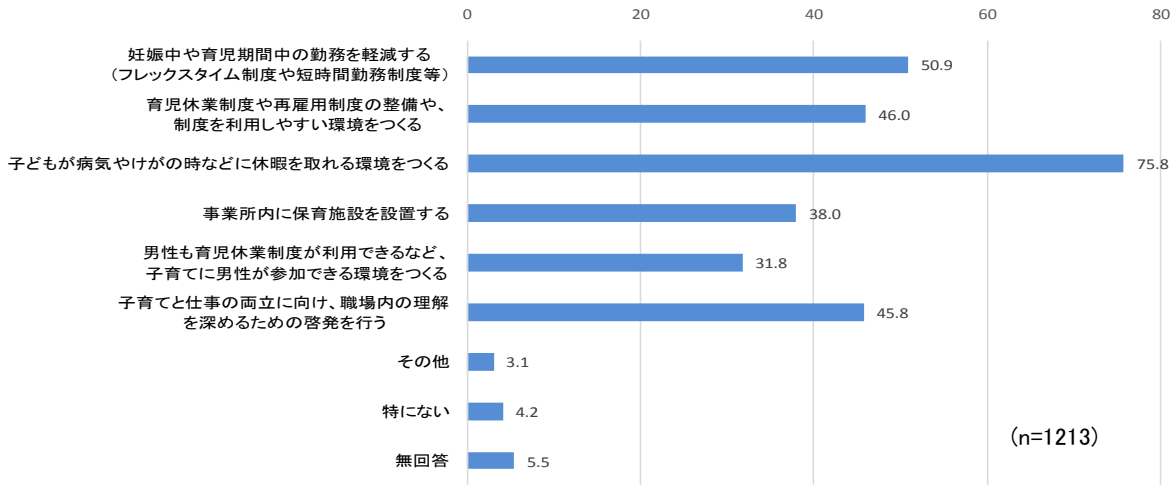


１５−８．子育てと仕事の両立での企業等の支援

仕事と子育てを両立するために必要な企業等の支援としては、「子どもが病気やけがの時などに休暇を取れる環境をつくる」が 75.8%と目立って高くなっています。

ついで「妊娠中や育児期間中の勤務を軽減する」の 50.9%、以下、「育児休業制度や再雇用制度の整備や、制度を利用しやすい環境をつくる」の 46.0%、「子育てと仕事の両立に向け、職場内の理解を深めるための啓発を行う」の 45.8%となっています。

問 44. 子育てと仕事の両立支援のために、企業等はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）



16. 本市の子育て支援策についての満足度と重要度

【満足度】

いずれの項目も「普通」の占める割合が大きいものの、その中では、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制」の「満足」「やや満足」を含めた「満足度」は 41.4%と目立って高く、ついで「幼稚園の数」の 31.3%となっているほかは、いずれも満足度は３割未満となっています。

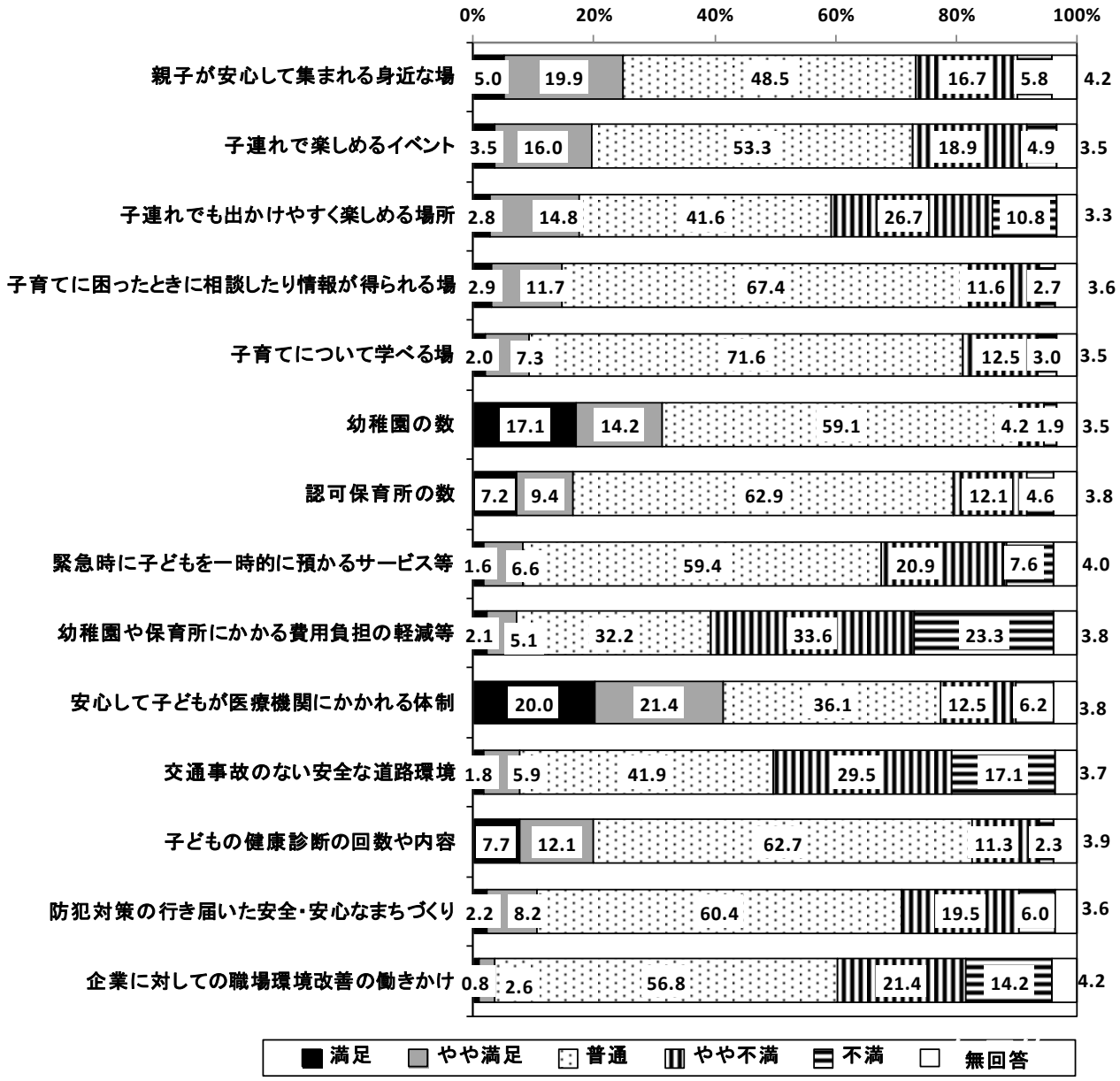
【需要度】

「重要」「やや重要」を含めた「重要度」では、いずれの項目も４割以上の「重要度」となっていますが、その中では、「満足度」でもっとも高かった「安心して子どもが医療機関にかかれる体制」の「重要度」は 80.7%と８割を超えています。

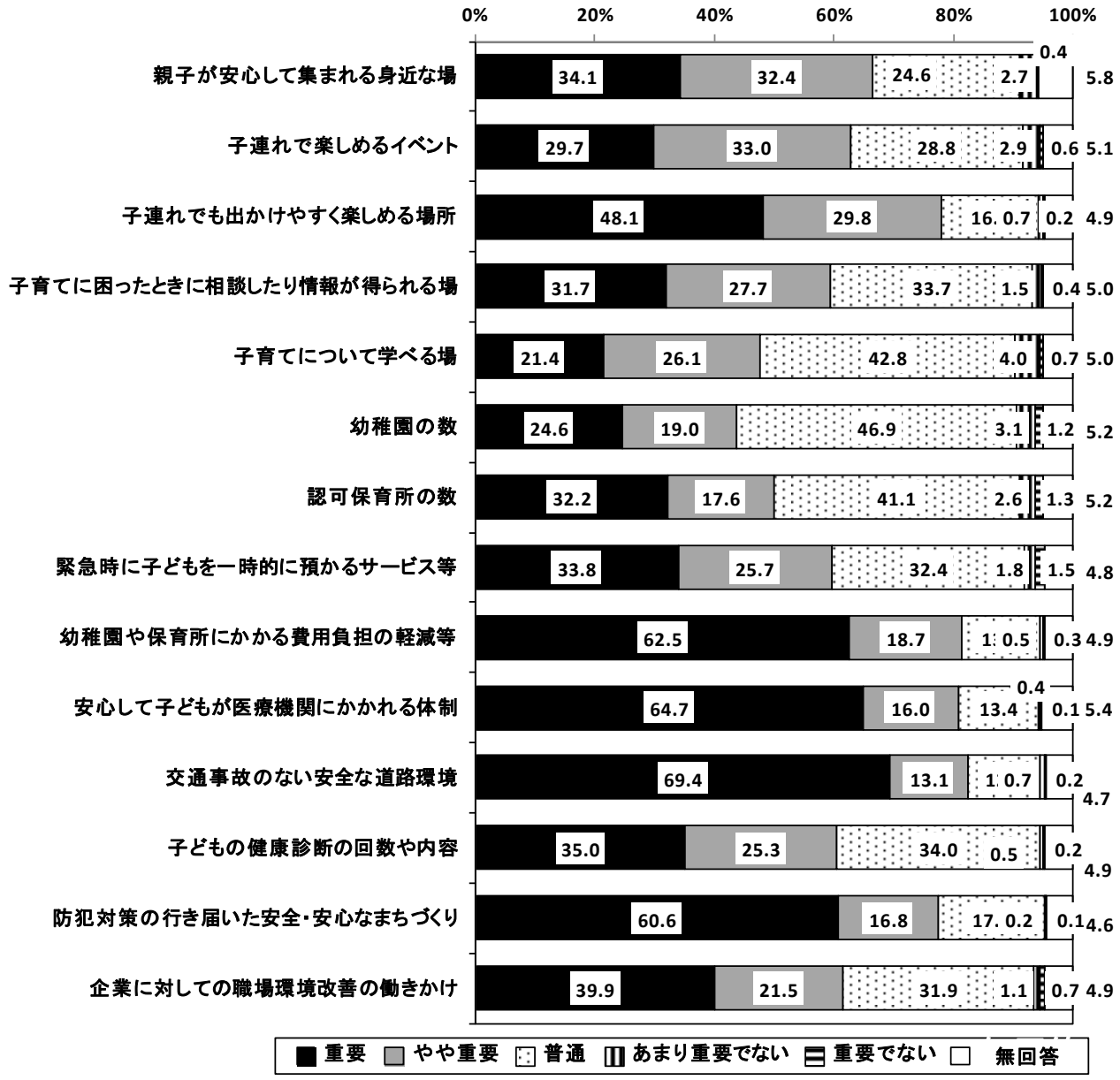
同様に８割を超えているのは、「交通事故のない安全な道路環境」の 82.5%、「幼稚園や保育所にかかる費用負担の軽減等」の 81.2%となっているほか 7 割を超えるのは、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」の 77.9%、「防犯対策の行き届いた安全・安心なまちづくり」の 77.4%となっており、これらは満足度が相対的に低いことから、今後、重点的に取り組むべき支援策と考えられます。

問 45. 防府市の子育て支援についての「満足度」と「重要度」についてお答えください。

【満足度】（n=1213）



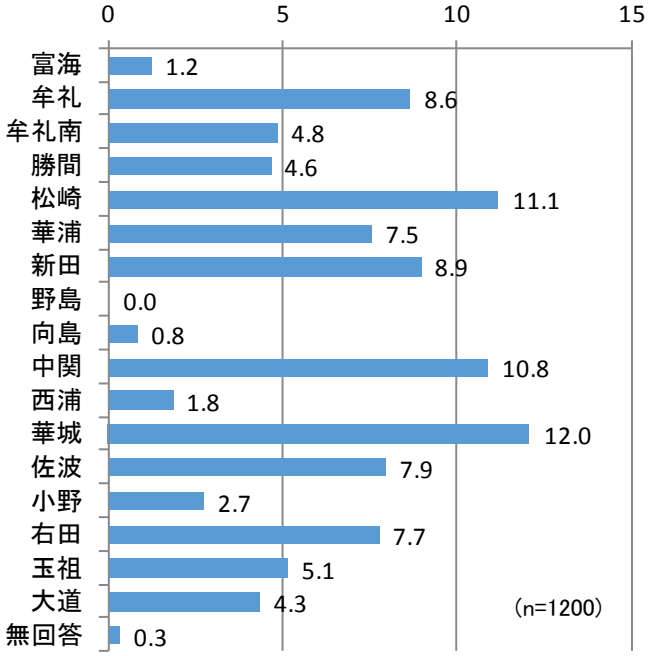
【重要度】（n=1213）


0%
20%
40%
60%
80%
100%
親子が安心して集まれる身近な場 34.1 32.4 24.6 2.7 0.4 5.8
子連れで楽しめるイベント 29.7 33.0 28.8 2.9 0.6 5.1
子連れでも出かけやすく楽しめる場所 48.1 29.8 16. 0.7 0.2 4.9
子育てに困ったときに相談したり情報が得られる場 31.7 27.7 33.7 1.5 0.4 5.0
子育てについて学べる場 21.4 26.1 42.8 4.0 0.7 5.0
幼稚園の数 24.6 19.0 46.9 3.1 1.2 5.2
認可保育所の数 32.2 17.6 41.1 2.6 1.3 5.2
緊急時に子どもを一時的に預かるサービス等 33.8 25.7 32.4 1.8 1.5 4.8
幼稚園や保育所にかかる費用負担の軽減等 62.5 18.7 1 0.5 0.3 4.9
安心して子どもが医療機関にかかれる体制 64.7 16.0 13.4 0.4 0.1 5.4
交通事故のない安全な道路環境 69.4 13.1 1 0.7 0.2 4.7
子どもの健康診断の回数や内容 35.0 25.3 34.0 0.5 0.2 4.9
防犯対策の行き届いた安全・安心なまちづくり 60.6 16.8 17. 0.2 0.1 4.6
企業に対しての職場環境改善の働きかけ 39.9 21.5 31.9 1.1 0.7 4.9
重要
やや重要
普通
あまり重要でない
重要でない
無回答

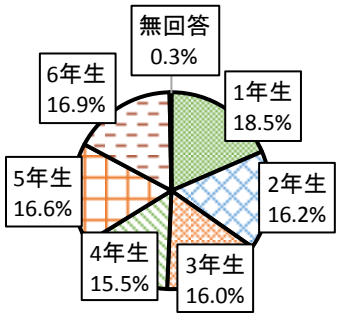
Ⅲ　小学生調査結果

1. 対象者及び保護者の特性

問 1. 小学校区



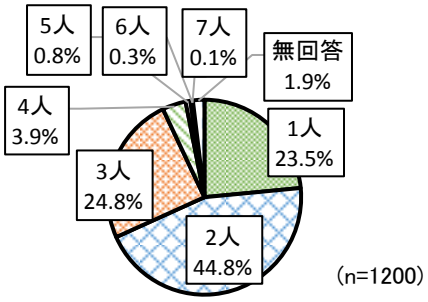
問 2. 子どもの年齢



(n=1200)

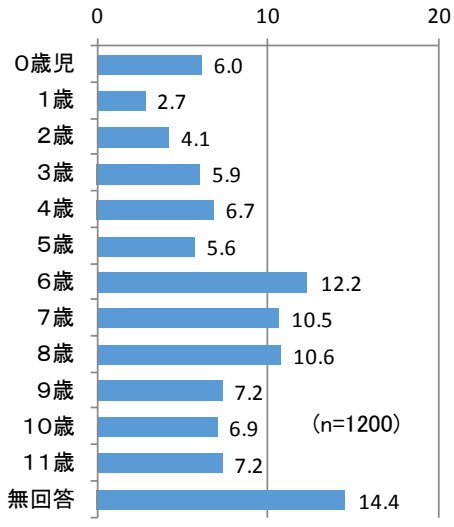
問 3. 子どもの数と末子の年齢

【子どもの数】

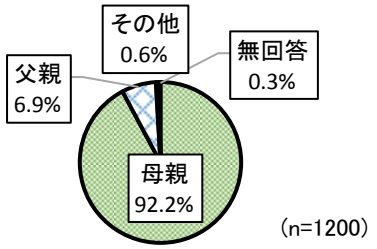


(n=1200)

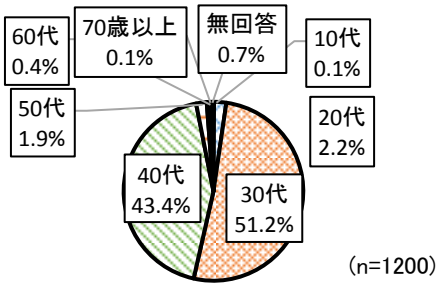
【末子の年齢】



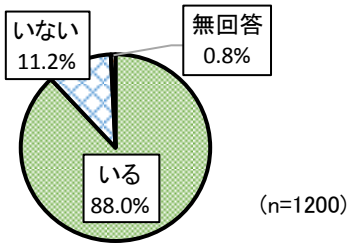
問 4. 子どもとの続柄



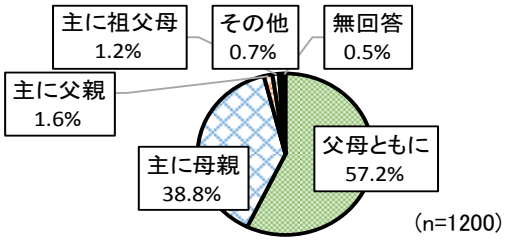
問 5. 保護者の年齢



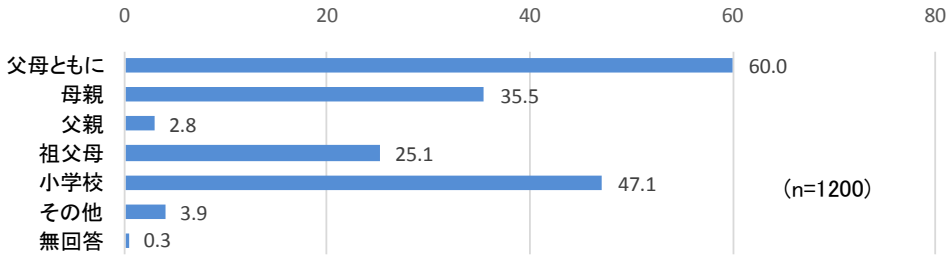
問 6. 配偶者の有無



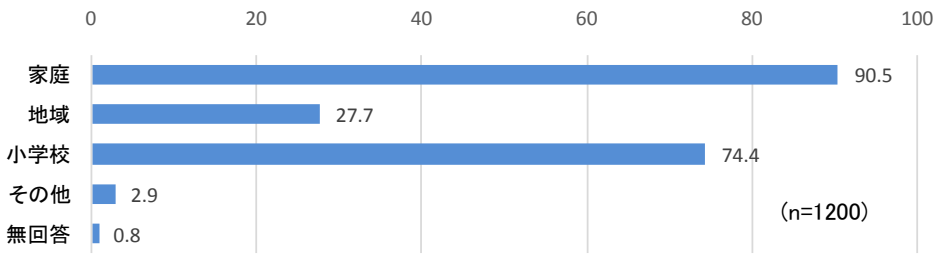
問 7. 子育て(教育を含む)を主にしている方



問 8. 子育て(教育を含む)に、日常的に関わっている方(施設)



問 9. 子育て(教育を含む)で大きく影響すると思われる環境

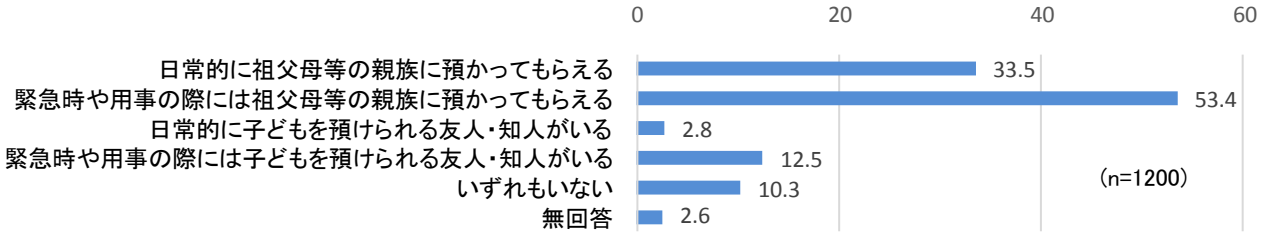


2. 祖父母などに預かってもらっている状況

祖父母に預かってもらうことのできる人について、その状況をみると、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 33.5%、「緊急時や用事の際には祖父母等の親族に見てもらえる」が 53.4%と全体の約 9 割を占めています。一方、「いずれもない」が 10.3%となっており、このような家庭は緊急時の対応が困難となっています。

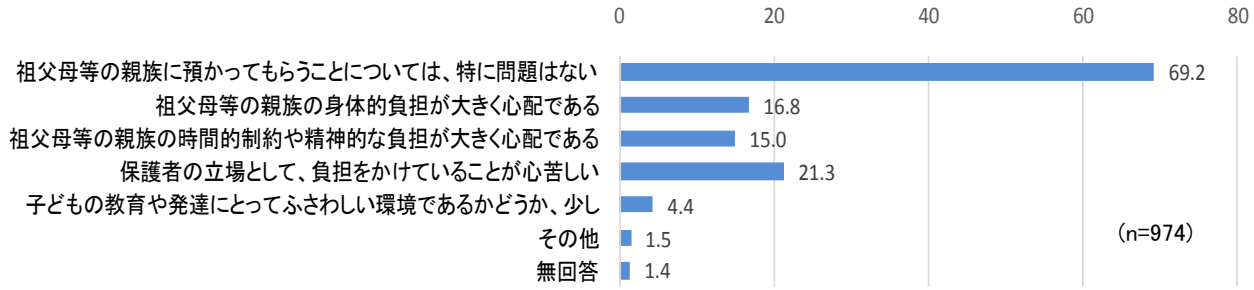
また、祖父母等の親族に預かってもらっている状況では「特に問題はない」が 69.2%と 7 割近くを占めるものの、友人・知人の場合は「特に問題はない」が過半数を占めるものの、「保護者の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が約 3 割を占めており、親族以外に預けることは精神的にも負担になっています。

問 10. 日頃、あて名のお子さんを預かってもらえる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)



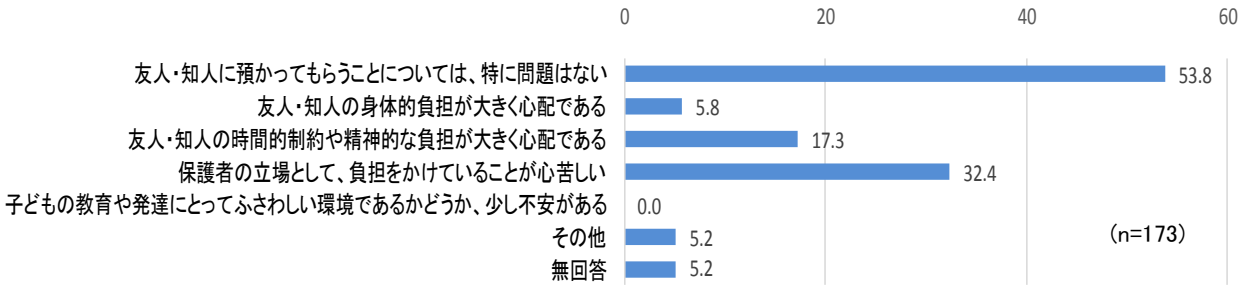
問 10 で「1」または「2」に○をした方にお伺いします。

問 10-1. 祖父母等の親族に預かってもらっている状況について、お伺いします。(あてはまるものすべてに○)



問 10 で「3」または「4」に○をした方にお伺いします。

問 10-2. 友人・知人に預かってもらっている状況について、お伺いします。(あてはまるものすべてに○)



3. 保護者の就労状況について

3－1． 母親（父親）の就労形態

母親の就労状況をみると、「フルタイム以外で就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」が 35.7%でもっとも高く、ついで「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」で 29.0%であり、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 20.3%を占めています。

父親の就労状況をみてみると、「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」が 80.3%で、無回答を除くとほとんどとなっています。

母親の 1 週間あたりの就労日数は、「5 日」が 58.2%でもっとも高く、平均 4.8 日、1 日あたりの就労時間は、「8～9 時間未満」がもっとも高く、平均 6.5 時間となっています。

父親の 1 週間あたりの就労日数も、「5 日」「6 日」が高く、平均 5.4 日、1 日あたりの就労時間も、「8～9 時間未満」がもっとも高く、平均 9.2 時間となっています

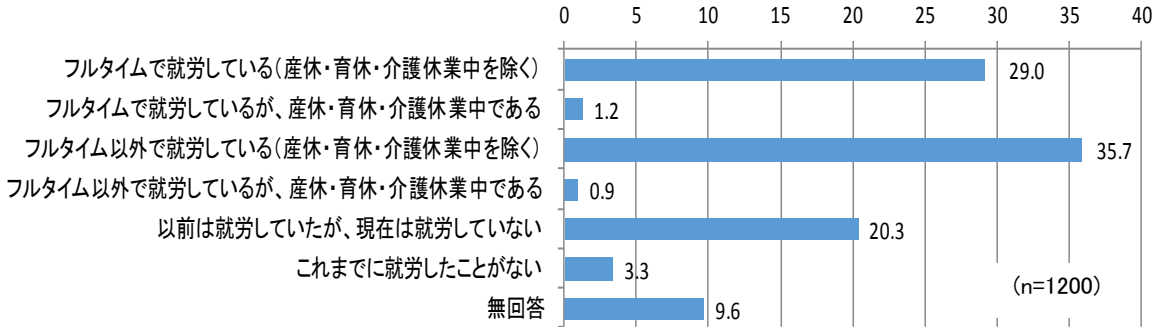
母親の出勤時間は「8 時台」が 44.6 でもっとも高く、帰宅時間は「18 時台」が 22.8%でもっとも高くなっています。父親の出勤時刻は「7 時台」が 52.0%でもっとも高く、帰宅時間は「19 時台」を中心に「18 時台」から「20 時台」に分散しています。

「その他」は、10 人が答えており、「フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」が 6 人、「フルタイム以外で就労している（産休・育休・介護休業中を除く）」が 1 人、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が３人となっています。

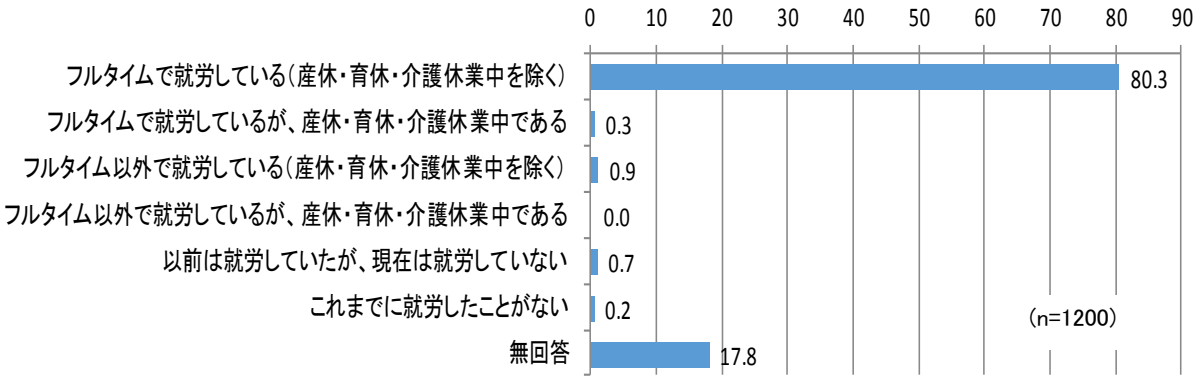
すべての方にお伺いします。

問 11. 現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお伺いします。（①母親、②父親それぞれあてはまる欄に○、選択肢によっては日数や時間等も回答）

母親



父親

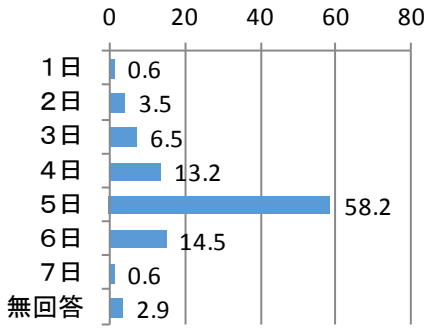


問 11 で「1」から「4」のいずれかを選択した方にお伺いします。

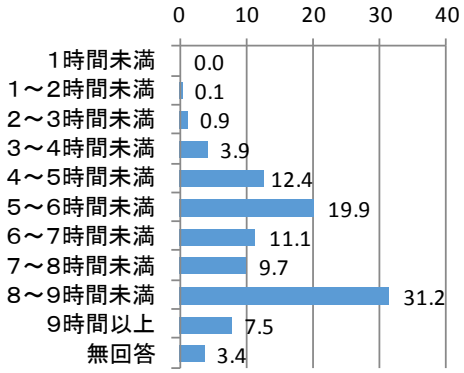
問 11-1. 現在の就労日数、就労時間などの就労条件をお答えください。

母親 (n=801)

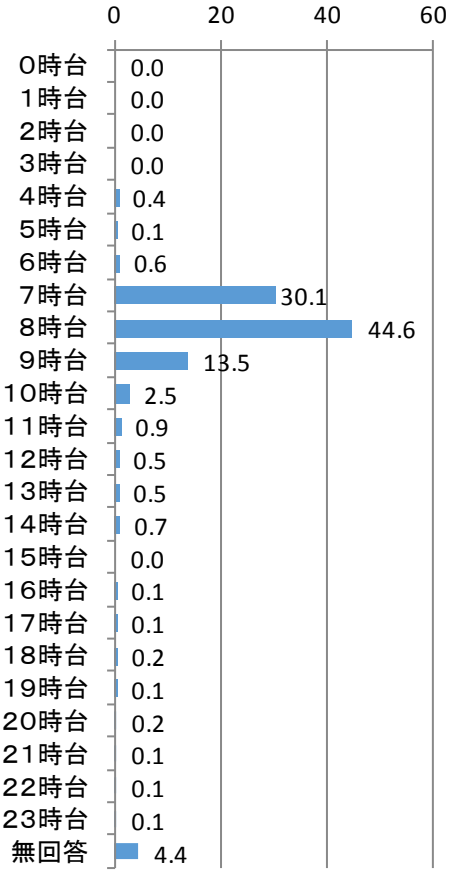
【1 週間あたり就労日数】



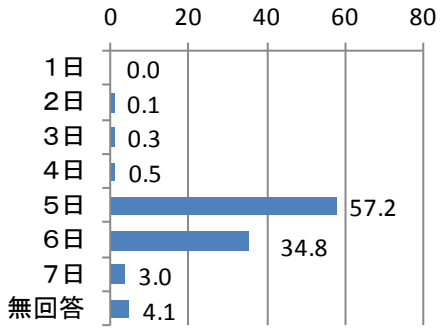
【1 日あたりの就労時間】

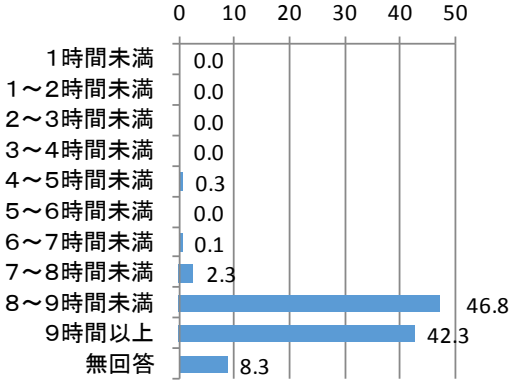


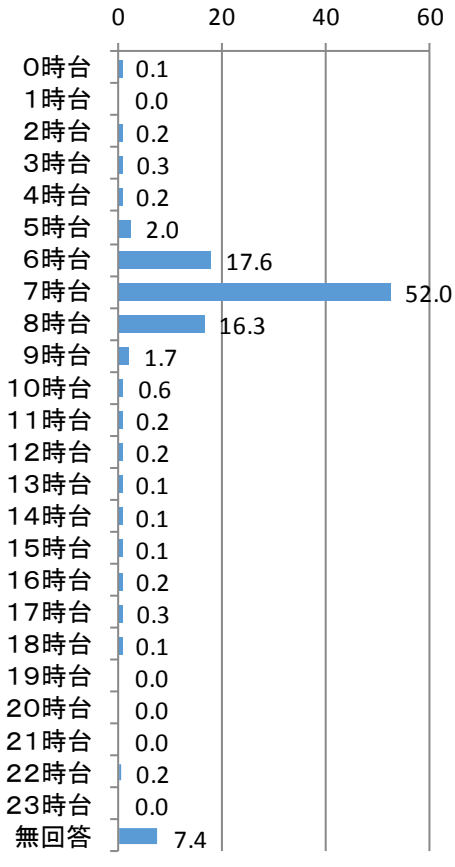
【出勤時間】



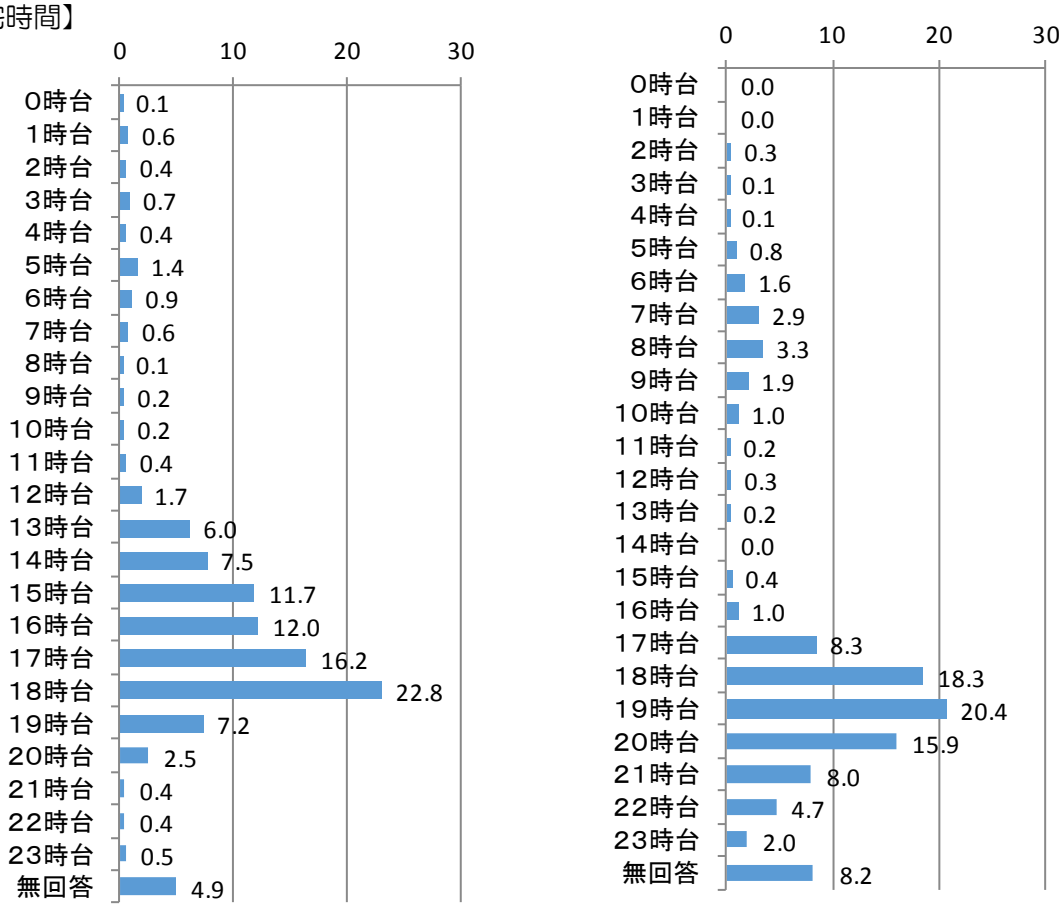
父親 (n=977







【帰宅時間】



3－2．フルタイムへの転換希望

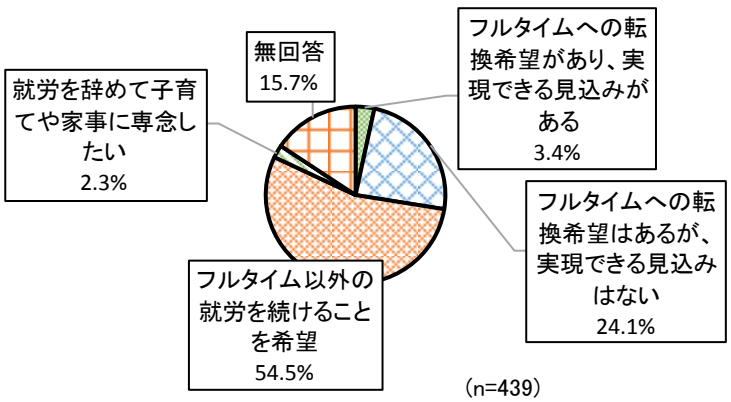
母親のフルタイムへの転換希望についてみてみると、「フルタイム以外への就労を続けることを希望」が 54.5%でもっとも高く過半数を占めています。ついで、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が 24.1%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が 3.4%となっています。

全体でみるとフルタイムへの転換希望は 27.5%ですが、その中で実現できる見込みがあるのはそのうちの 1 割強とフルタイムへの転換は厳しい状況がうかがえます。

※以下の分析は、対象者数が 11 人の「父親」、1 人の「その他」を除く。

問 11. で「3」または「4」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方にお伺いします。

問 11-2. フルタイムへの転換希望はありますか。(①母親)



３－３．現在就労していない母親（父親）の就労意向

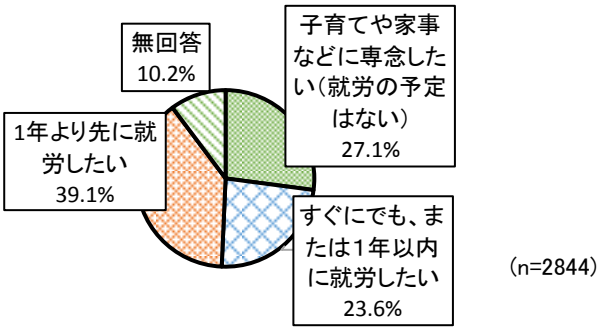
（１）就労意向

現在就労していない母親の就労意向をみると、「すぐにでも、または１年以内に就労したい」が 23.6%、「１年より先に就労したい」が 39.1%と、全体の就労意向は ６ 割を超えており、就労意欲は非常に高くなっています。

また、「１年より先に就労したい」と答えた人の、子どもが何歳になったら就労したいかをみると、12 歳以上が 19.8%ともっとも高いものの、平均 8.0 歳となっています。

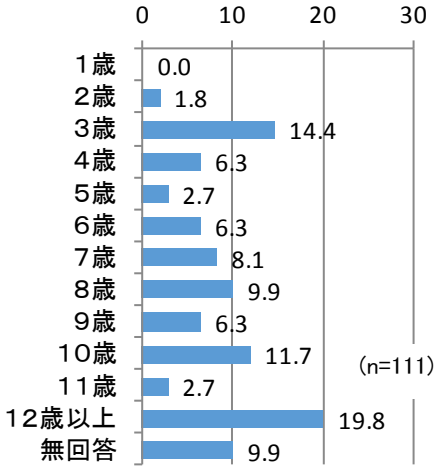
問 11 で「5」または「6」に○をつけた方にお伺いします。

問 11－3. 今後の就労希望はありますか。（①母親、②父親ごと1つに○）



（n=2844）

【就職したい子どもの年齢】



（n=111）

（２）就労希望の形態（母親）

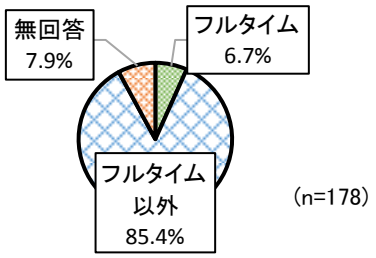
母親の希望する就労形態としては、「フルタイムによる就労」は 6.7%にとどまり、「フルタイム以外」が 85.4%と圧倒的に高くなっています。

これら全体の就労要件としては、就労日数は週あたり 5 日がもっとも高く、平均 4.2 日、就労時間は 1 日あたり 5～6 時間未満が半数近くを占め、平均で 4.8 時間となっています。

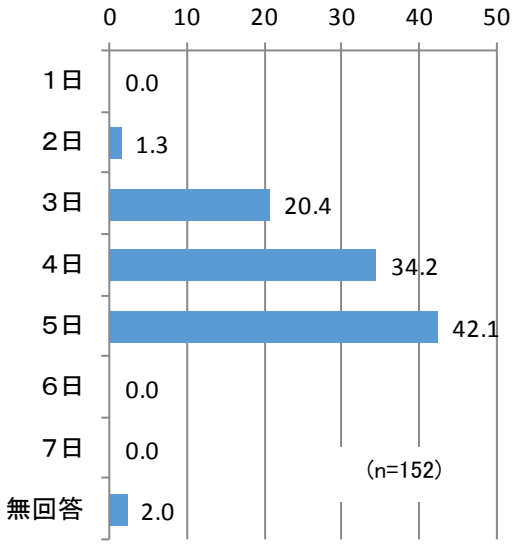
また、就労希望がありながら、現在働いていない理由としては、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が 30.3%、ついで「自分の子育てや家事に専念したい」が 26.4%となっています。

問 11－3 で「２」または「３」に○をつけた方にお伺いします。

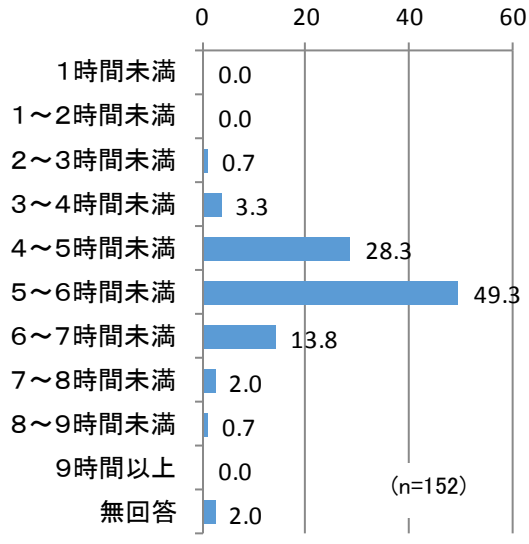
問 11－4. 就労希望の形態はどのようなものですか。（選択肢によっては日数等も回答）



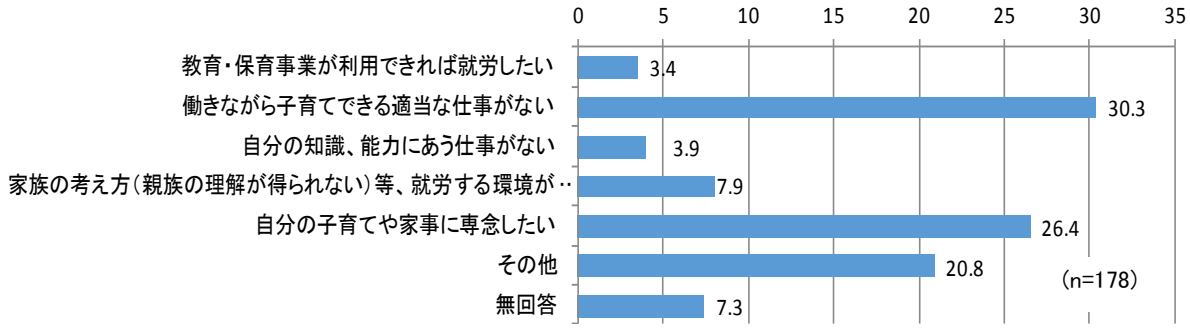
【１週あたり就労日数】



【１日あたり就労時間】



問 11-5. 就労希望がありながら、現在働いてない理由をお答えください。



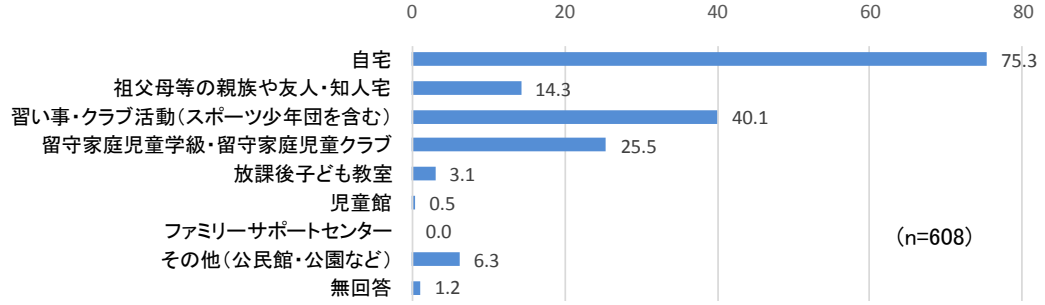
4. 留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブについて

4－1． 平日の放課後の過ごし方

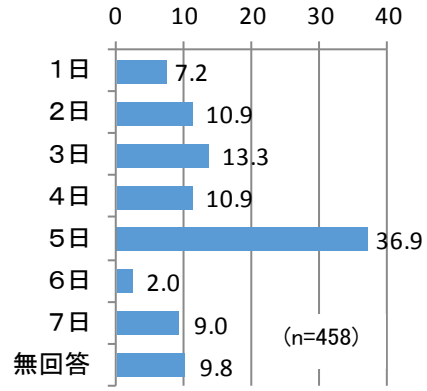
放課後、過ごしている場所としては、自宅以外では、「習い事・クラブ活動」が 40.1%でもっとも高くなっており、ついで「留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」の 25.5%となっています。「留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」の週あたりの平均利用日数は、4.4日、希望終了時刻の平均は、17 時５分となっています。

あて名のお子さんが小学校低学年（1～3 年生）の方にお伺いします。あて名のお子さんが小学校高学年（4～6年生）の方は問 14 へおすすみください。

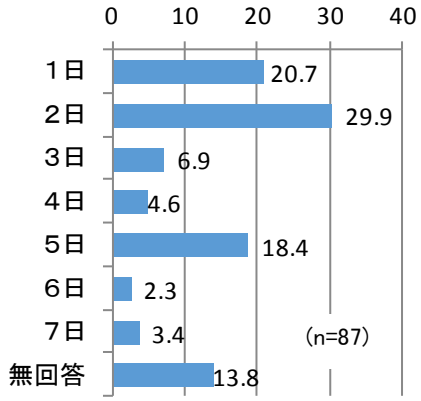
問 12. あて名のお子さんは現在、放課後（平日の小学校終了後）の時間はどのような場所で過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）



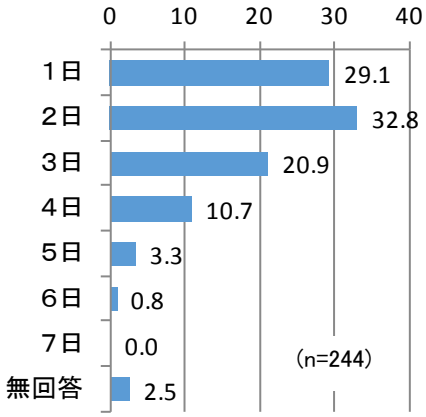
【自宅】



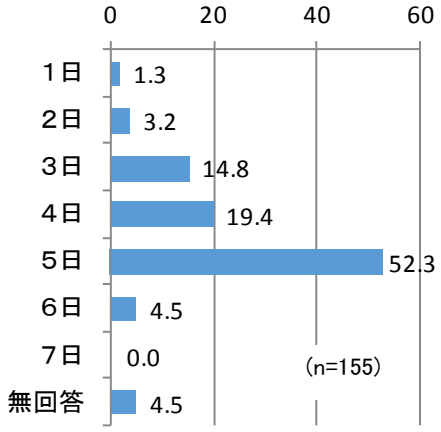
【祖父等の親族や友人・知人宅】



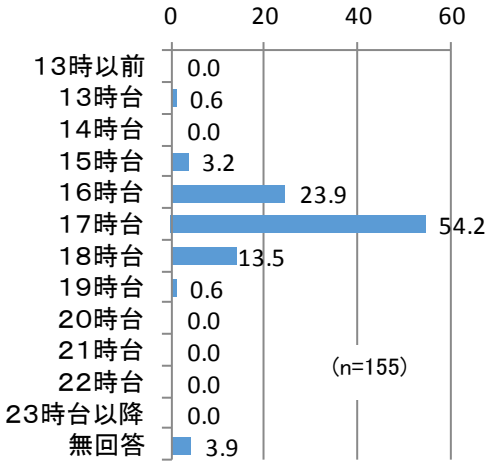
【習い事・クラブ活動（スポーツ少年団含む）】



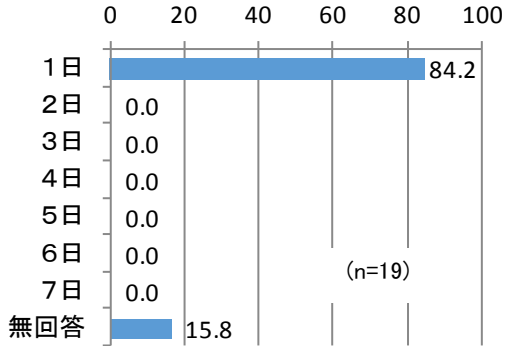
【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ】



【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ利用時間】



【放課後子ども教室】



4－2．土曜日、夏休みや冬休みなどの長期休暇中の利用状況と日数等

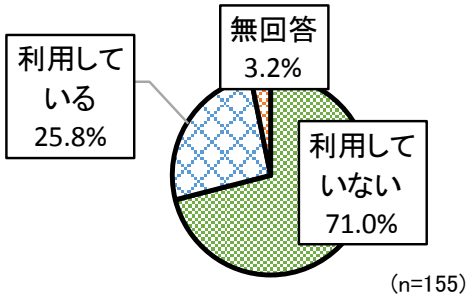
留守家庭児童教室・留守家庭児童クラブの利用状況をみると、「利用している」は、土曜日は25.8%、夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中は、100%となっています。

平均の開始・終了時間についてみると、開始時間は、いずれも 8 時 20 分前後、終了時間はいずれも 17 時前後となっています。

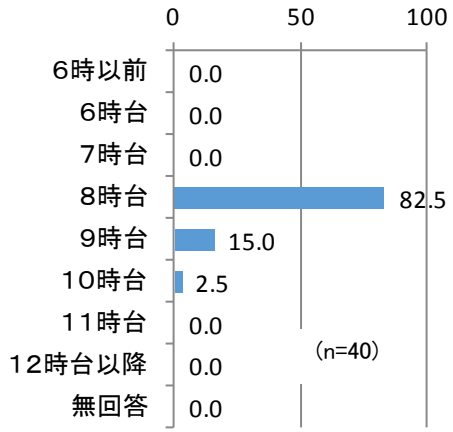
問 12 で「4」に○をした方にお伺いします。

問 12－1. 土曜日、夏休みや冬休みなど長期の休暇期間中について、利用状況をお答えください。（それぞれ1つに○） 利用している場合は、週あたりの利用日数と平均的な利用時間帯もお答えください。

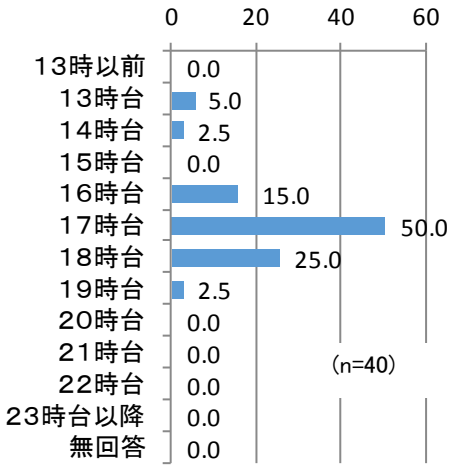
（1）土曜日



【開始時刻】



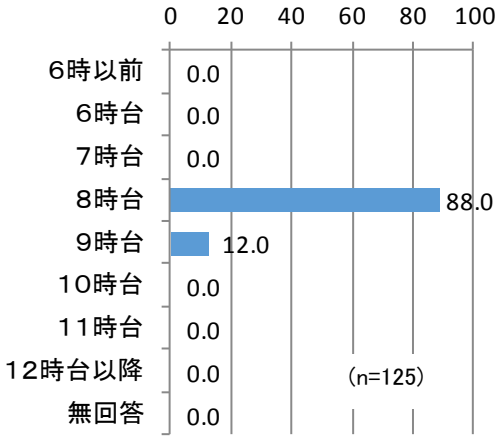
【終了時刻】



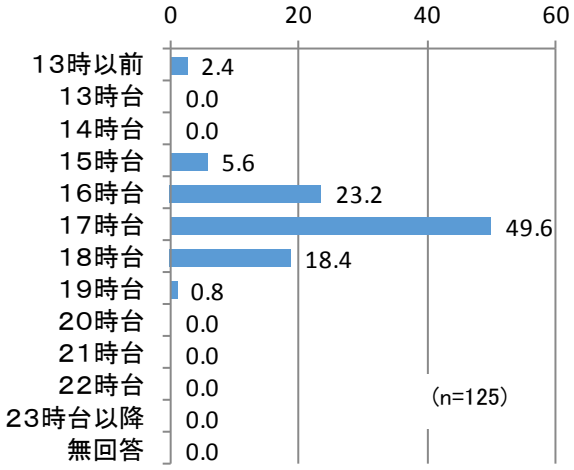
（2）夏休みや冬休みなどの長期の休暇期間中

(n=125)

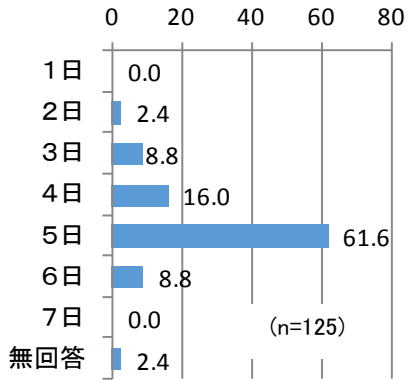
【開始時刻】



【終了時刻】



【週あたり利用日数】



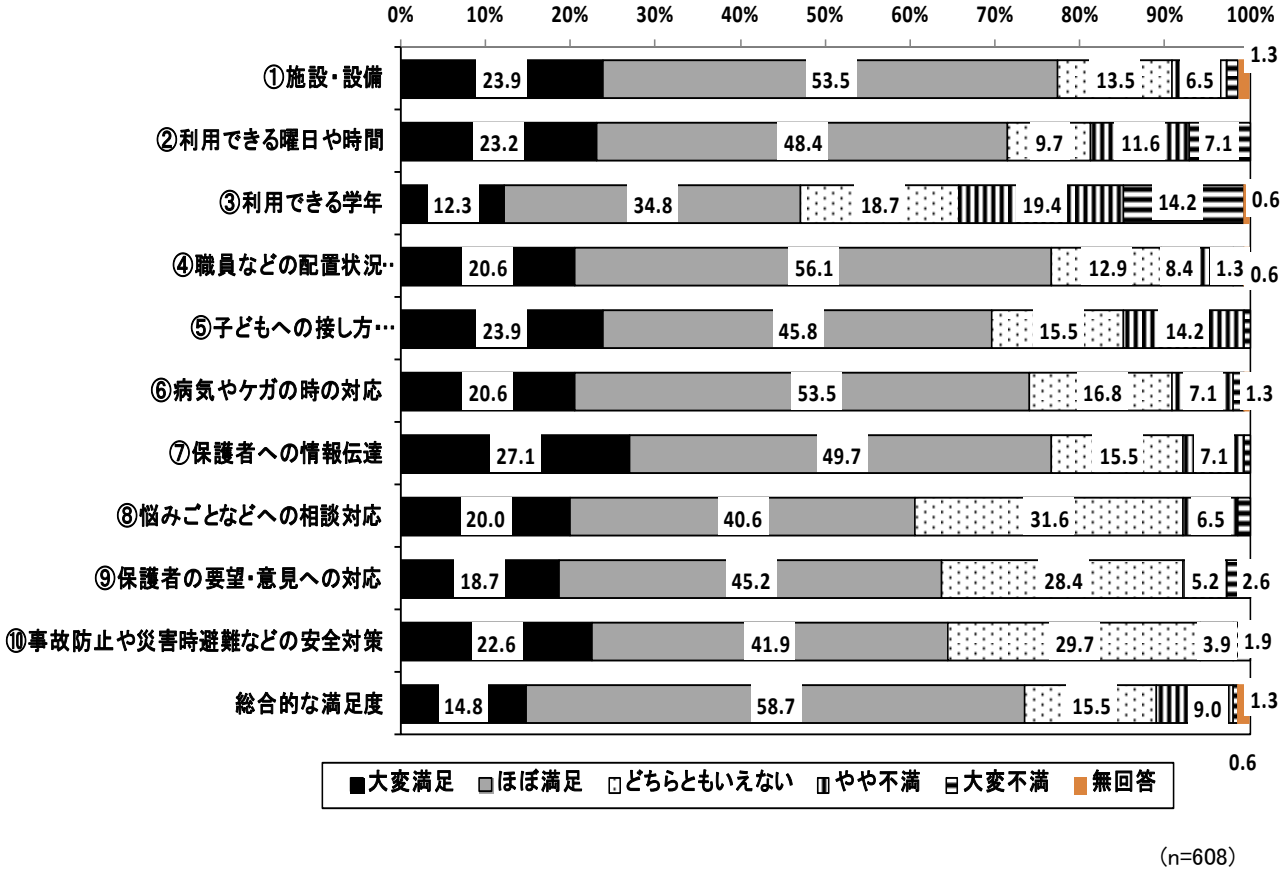
４−３．放課後児童クラブに対する評価

放課後児童クラブに対する評価については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせてみると、「施設・設備」77.4%、「保護者への情報伝達」76.8%、「職員などの配置状況」76.7%、「病気やけがの時の対応」74.1%、「利用できる曜日や時間」71.6%と順に、いずれも 7 割以上の高い満足度となっています。

一方、「利用できる学年」だけは、47.1%で目立って低く、利用学年の拡大への要望が強くなっています。

総合的な評価としては、73.5%と４人に３人は満足の評価を示しています。

問 12−2. 現在、利用している放課後児童クラブに対してどのように感じていますか。(①～⑩、★総合的な満足度それぞれ1つに○)

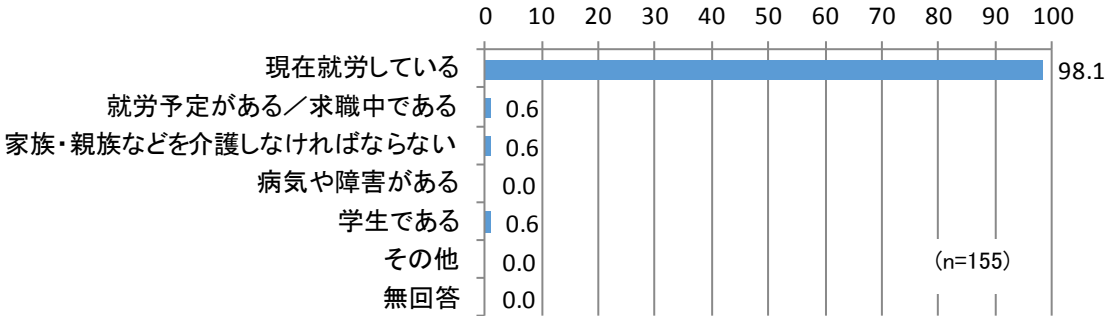


(n=608)

４－４．利用している理由

利用していない理由をみると、「現在就労している」がほぼ全数となっています。

問 12－3. 現在、利用している理由は何ですか。（1つに○）

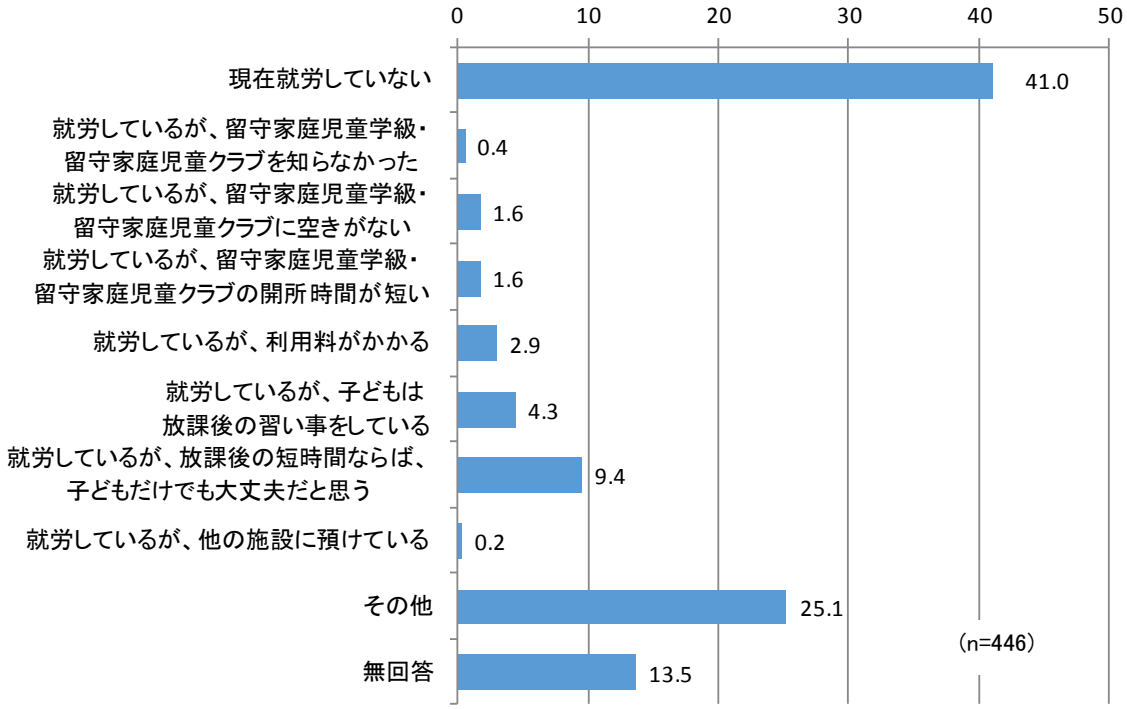


４－５．利用していない理由

利用していない理由をみると、「現在就労していない」が 41.1%でもっとも高く、以下、「就労しているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思う」が 9.4 となっています。なお、その他の内訳としては「自営業だから」「下校時間には仕事から帰っているから」「親族にみてもらっているから」などが主な理由となっています。

問 12 で「4」に○をしてない方（留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブを利用していない方）にお伺いします。

問 12－4. 利用してない理由をお答ください。（1つに○）



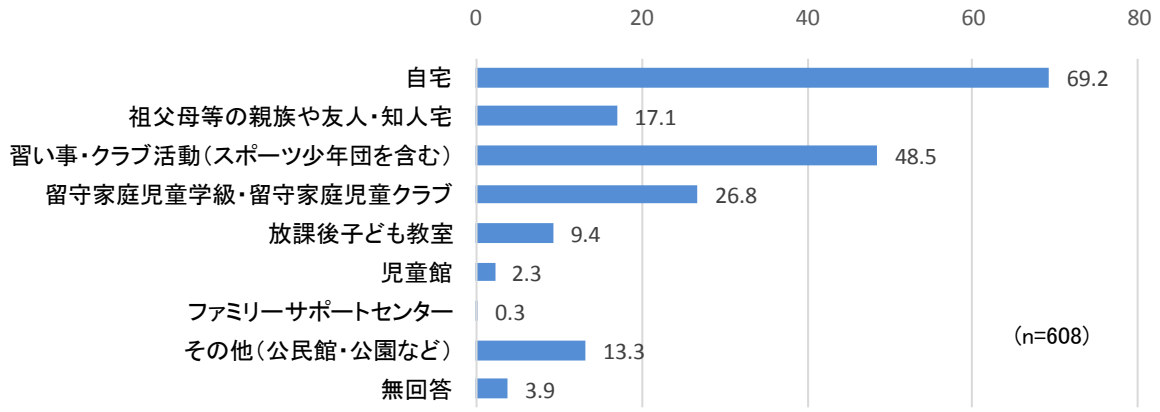
４－６．今後の利用意向

低学年の放課後、過ごさせたい場所としては、自宅以外では、「習い事・クラブ活動」が48.5%でもっとも高くなっており、ついで「留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」の26.8%となっています。

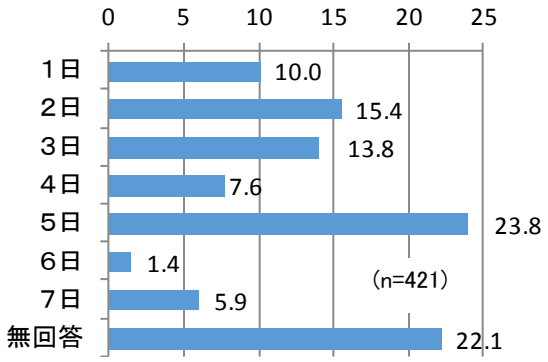
「留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」の週あたりの平均利用日数は、4.1 日、希望終了時刻の平均は、17 時 40 分となっています。

あて名のお子さんが小学校低学年（1～3 年生）の方にお伺いします。

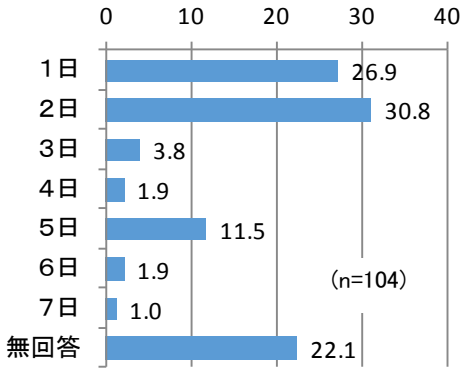
問 13. あて名のお子さんについて、小学生低学年（1～3 年生）の間、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



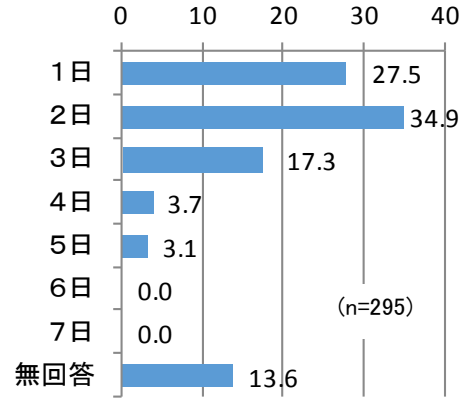
【自宅】



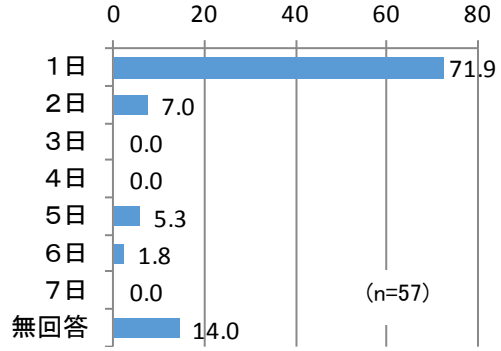
【祖父等の親族や友人・知人宅】



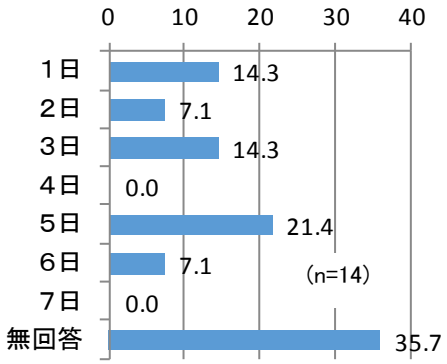
【習い事・クラブ活動（スポーツ少年団含む）】



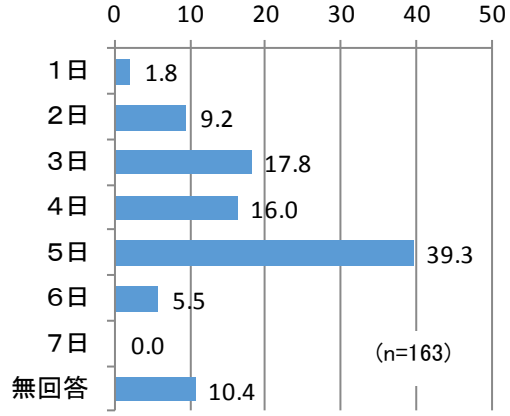
【放課後子ども教室】



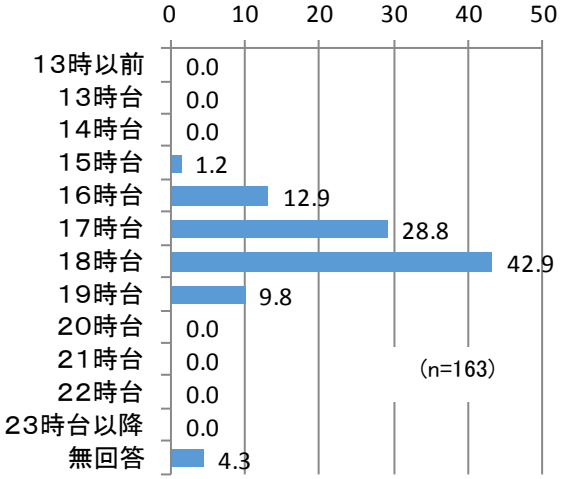
【児童館】



【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ】



【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ利用時間】



4－7．土曜日・日曜日等の利用希望や希望日数

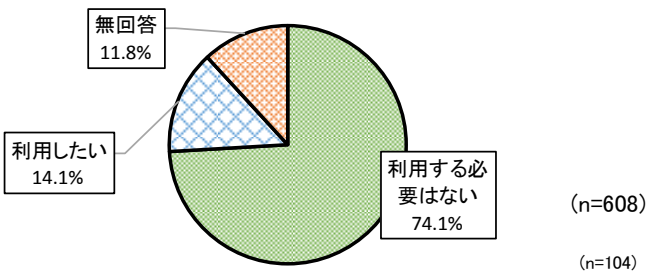
留守家庭児童教室・留守家庭児童クラブの利用希望をみると、「利用したい」は、土曜日は 14.1%、日曜日・祝日は 7.7.%、夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中は、41.3%となっています。

平均の開始・終了時間についてみると、開始時間は、いずれも 8 時 10 分前後、終了時間はいずれも 17 時～17 時 10 分となっています。

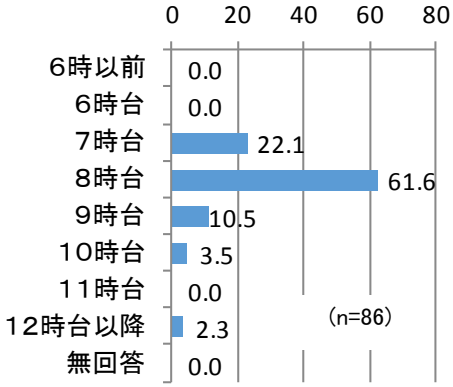
なお、夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の週あたりの平均利用日数は 4.4 日となっています。

問 13-1. あて名のお子さんについて、土曜日、日曜日・祝日、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中、留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブの利用希望はありますか。現在利用中の方もお答えください。（それぞれ 1 つに○）

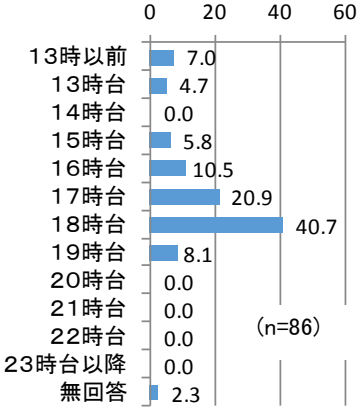
（1）土曜日



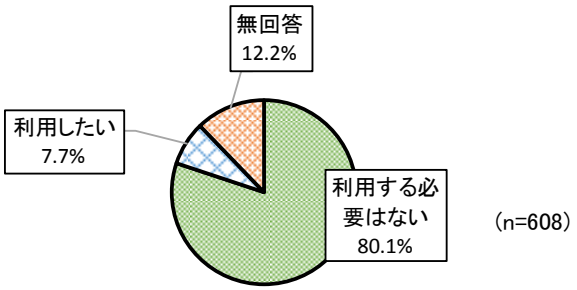
【開始時刻】



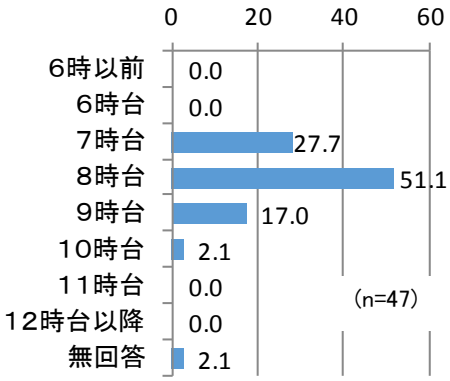
【終了時刻】



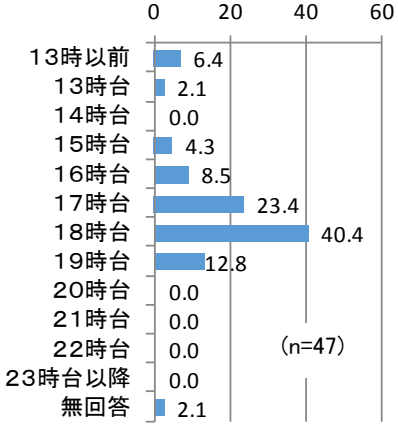
（2）日曜日・祝日



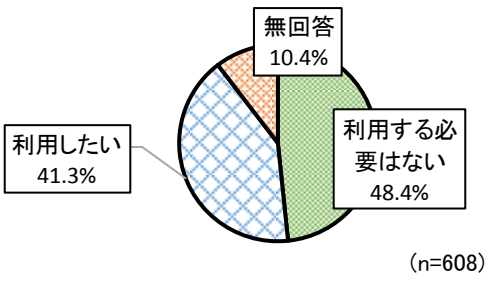
【開始時刻】



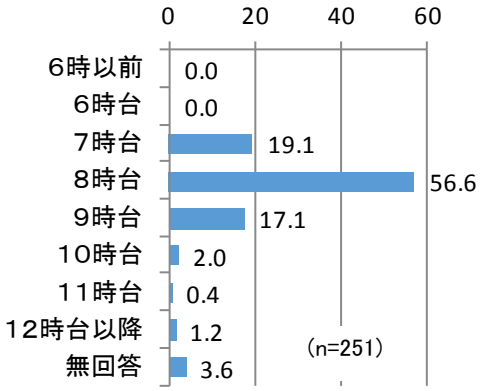
【終了時刻】



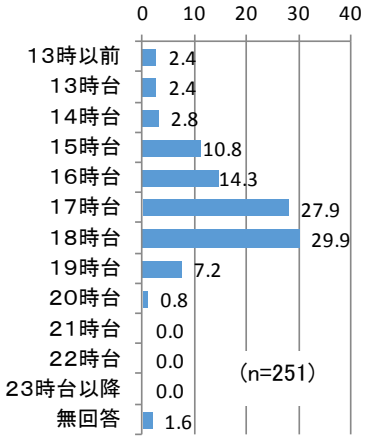
（3）夏休みや冬休みなどの長期の休暇期間中



【開始時刻】



【終了時刻】

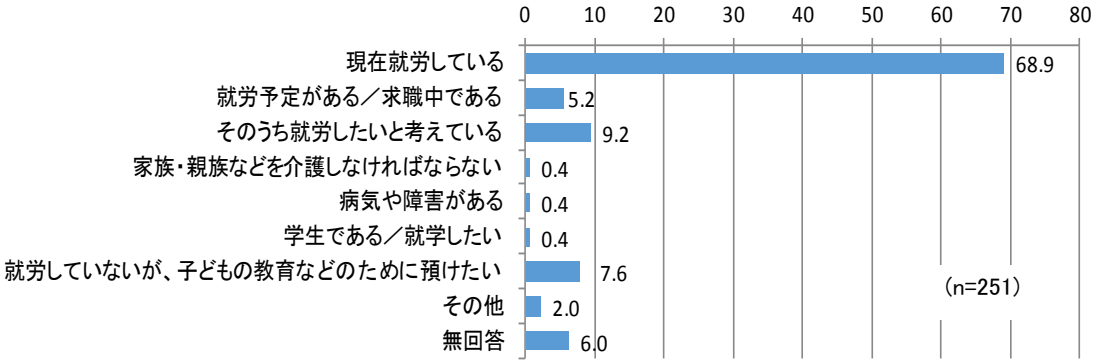


4－8．利用したい理由

利用したい理由をみると、「現在就労している」が 68.9%でもっとも高いものの、あとは数%となっています。

問 13-1 の(1)から(3)のいずれかで「2」に○をした方にお伺いします。

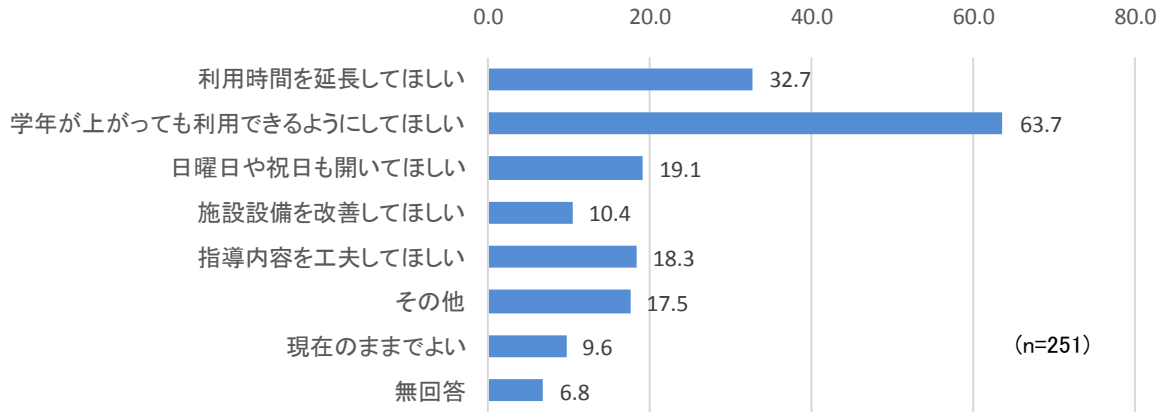
問 13-2. 今後、留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブを利用したいと考えている理由をお答えください。（1 つに○）



4－9．留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブに対する要望

留守家庭児童教室・留守家庭児童クラブに対する要望では、「学年が上がっても利用できるようにしてほしい」が 63.7%でもっとも高く、ついで「利用時間を延長してほしい」が 32.7%となっており、この2項目が目立って高くなっています。

問 13-3. 留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブに対してどのようなことを希望しますか。（あてはまるものすべてに○）



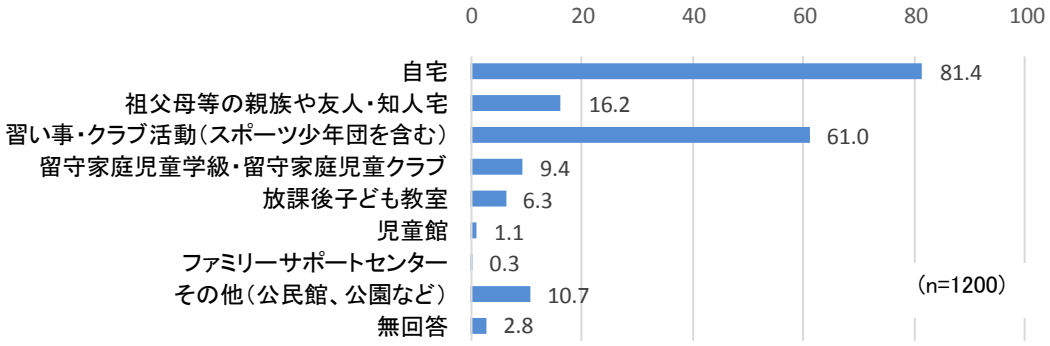
4-10. ４年生以上になった時の放課後の過ごし方

４年生以上になった時の放課後、過ごさせたい場所としては、自宅が 81.4%で圧倒的に高いほか、「習い事・クラブ活動」も 61.0%を占めています。一方、「留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」は 9.4%と１割弱となっています。

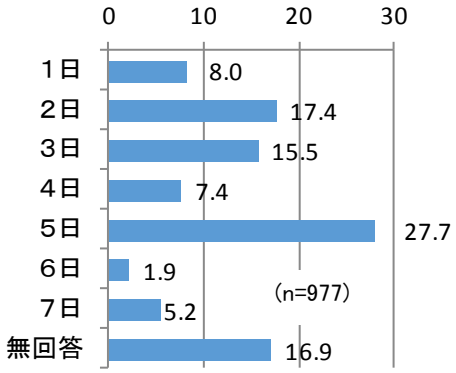
留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」の 1 週あたりの平均利用日数は、3.9 日、希望終了時刻の平均は、17 時 50 分、利用したい学年は６年生が過半数を占めています。

すべての方にお伺いします。

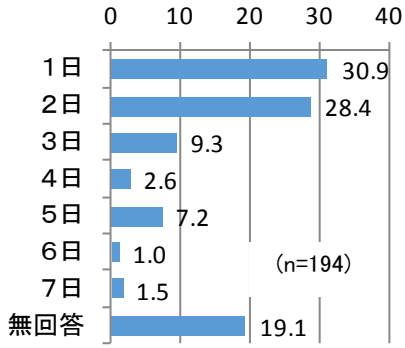
問14. あて名のお子さんについて、小学校高学年（4～6 年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。あて名のお子さんがすでに小学校高学年の方は、あて名のお子さんの現在の状況をお答えください。（あてはまるものすべてに○）。



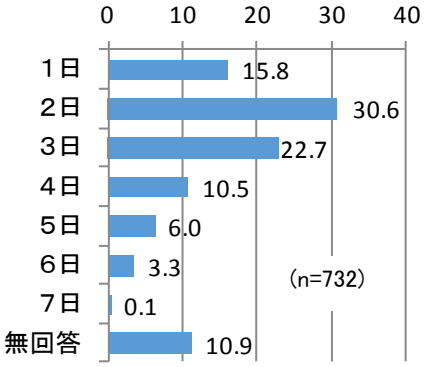
【自宅】



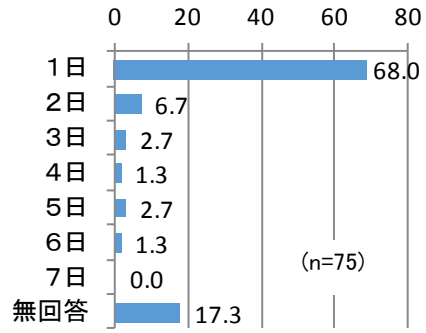
【祖父等の親族や友人・知人宅】



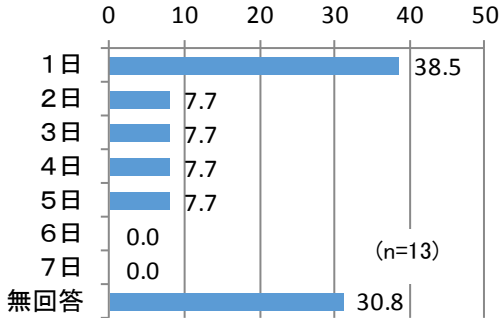
【習い事・クラブ活動（スポーツ少年団含む）】



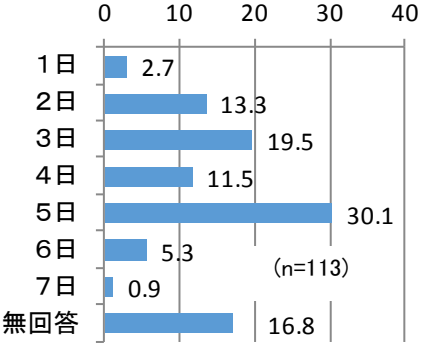
【放課後子ども教室】



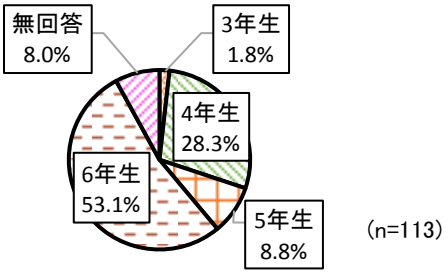
【児童館】



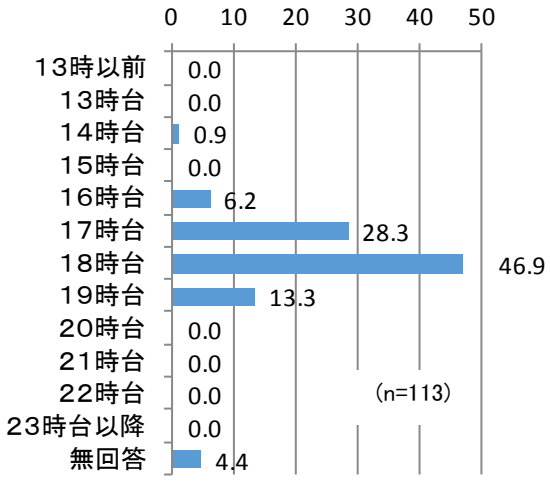
【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ】



【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ利用学年】



【留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ利用時間】



4-11. 土曜日・日曜日等の利用希望や希望日数

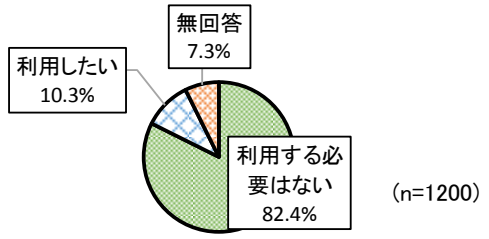
留守家庭児童教室・留守家庭児童クラブの高学年での利用意向をみると、土曜日は「利用したい」は 10.3%となっています。日曜日・祝日は 5.4%となり希望者は少なくなります。

夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中は、29.5%であり、利用希望学年としては、いずれも 6 年生が中心です。

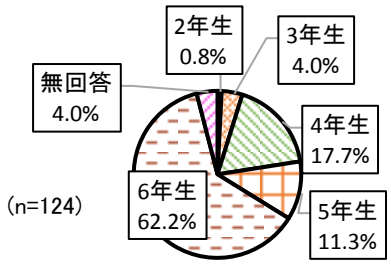
平均の開始・終了時間についてみると、開始時間は、いずれも 8 時 10 分前後、終了時間は土曜日が 16 時 55 分、日曜日・祝日は 17 時 35 分、夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中は 16 時 50 分となっています。

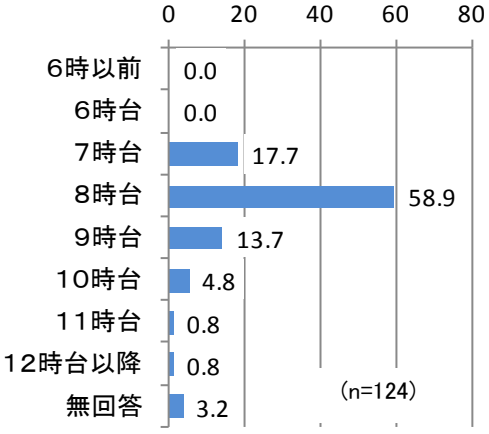
問 14-1. あて名のお子さんについて、土曜日、日曜日・祝日、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中、留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブの利用希望はありますか。(1つに○)また利用したい方は、何年生まで利用したいかお答えください。また利用を希望する場合は、週あたりの利用日数と平均的な利用時間帯もお答えください。

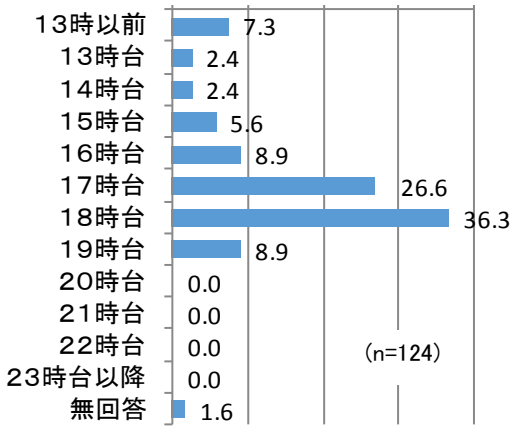
(1)土曜日



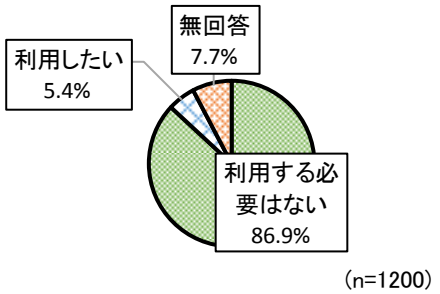
【利用学年】



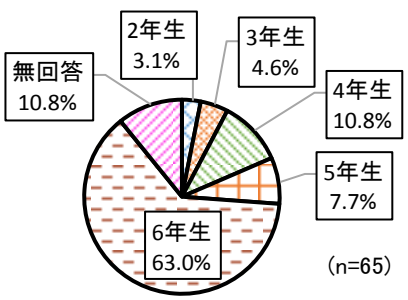




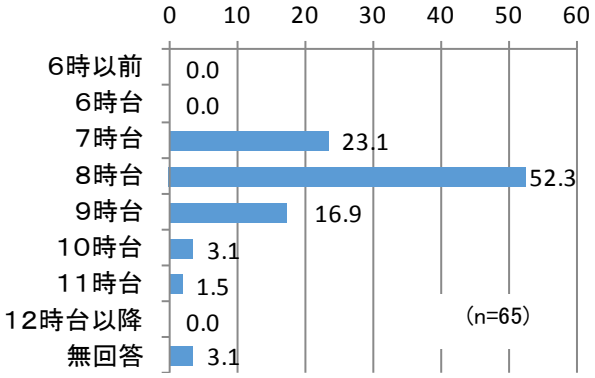
(2)日曜日・祝日



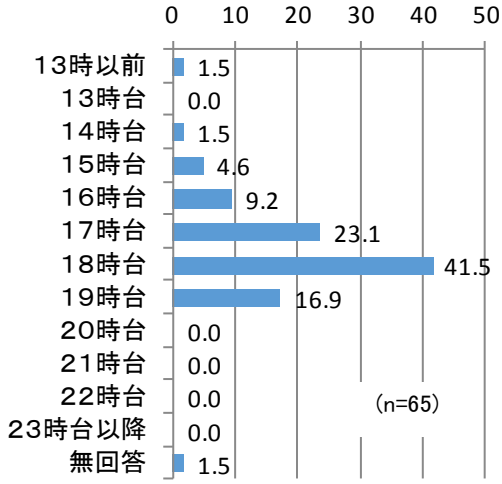
【利用学年】



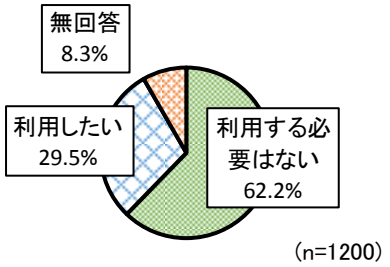
【開始時刻】



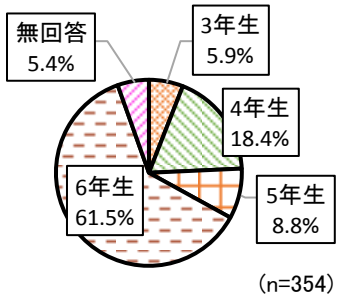
【終了時刻】



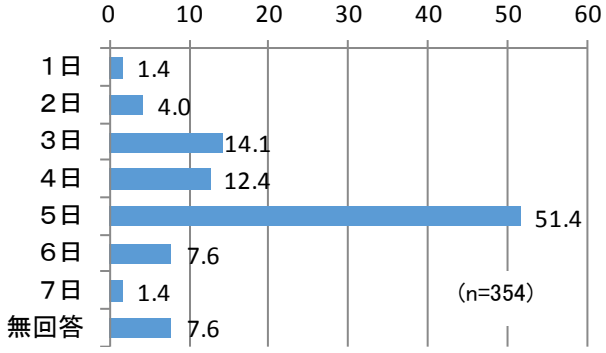
(3)夏休みや冬休みなどの長期の休暇期間中



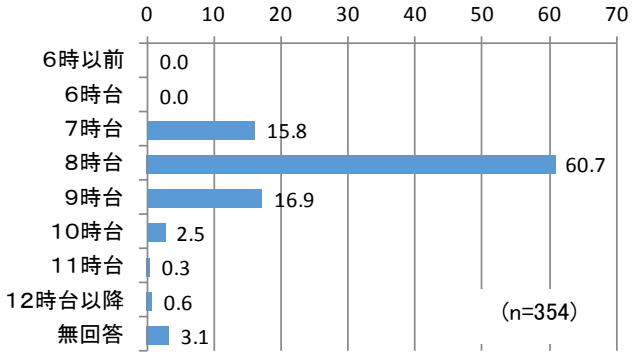
【利用学年】



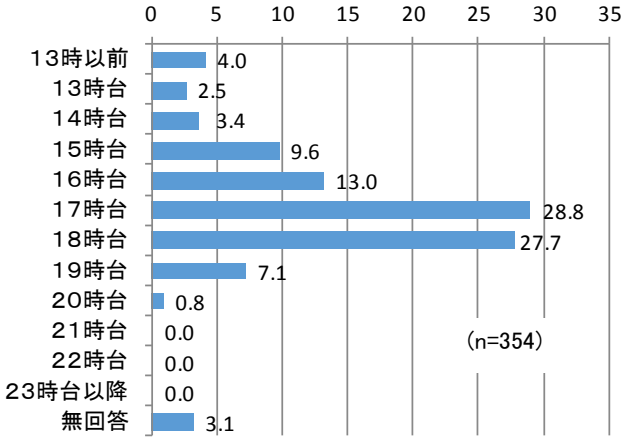
【週あたり利用日数】



【開始時刻】



【終了時刻】

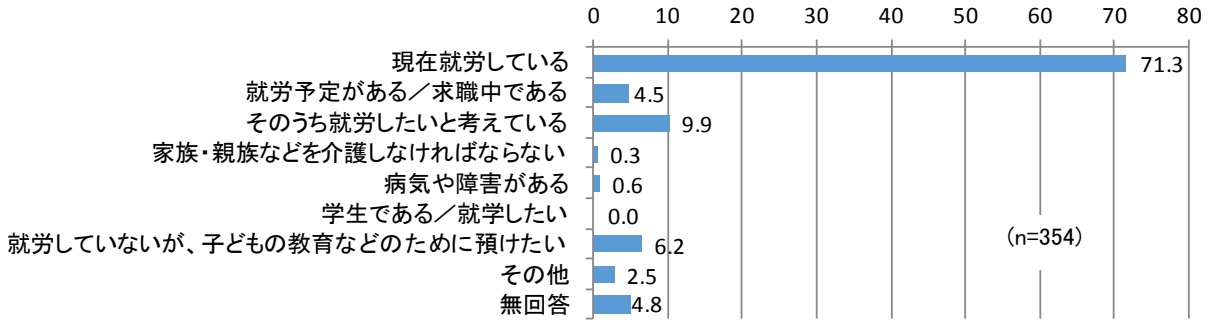


4-12. 留守家庭児童教室・留守家庭児童クラブを利用したい理由

留守家庭児童教室・留守家庭児童クラブを利用したいと考えている理由としては、「現在就労している」が 71.3%で目立って高くなっています。

問 14-1 の(1)～(3)のいずれかで「2」に○をした方にお伺いします。

問 14-2. 今後、留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブを利用したいと考えている理由をお答えください。（1 つに○）

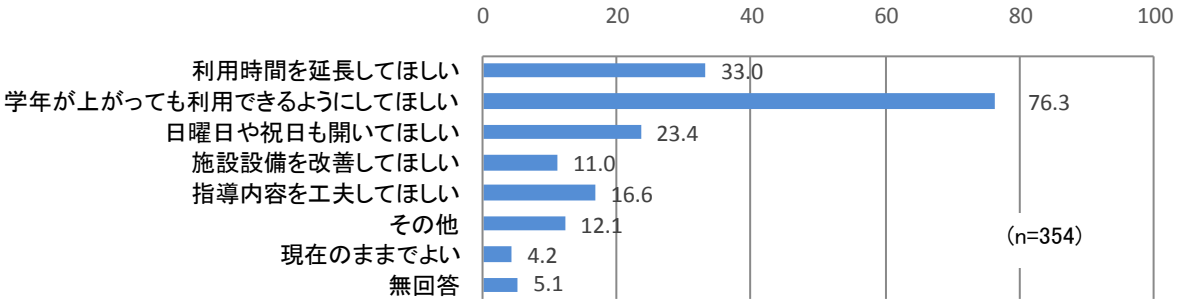


4-13. 留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブに対する要望

留守家庭児童教室・留守家庭児童クラブに対して、希望していることとしては、「学年が上がっても利用できるようにしてほしい」の 76.3%が目立って高く、以下「利用時間を延長してほしい」の 33.0%、「日曜日や祝日も開いてほしい」の 23.4%となっています。

ただ、日曜日や祝日の利用意向が１割未満であることを考えると、学年や時間の延長は必要事項となっています。

問 14-3. 留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブに対してどのようなことを希望しますか。(1 つに○)



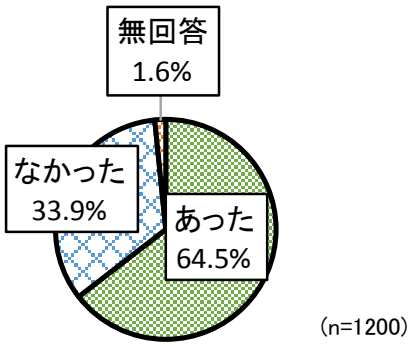
5. 病児・病後児保育について

5－1．過去１年間に保育サービスを利用できなかったことの有無

この１年間に，あて名のお子さんが病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかった経験についてみると、「あった」が 64.5%となっています。

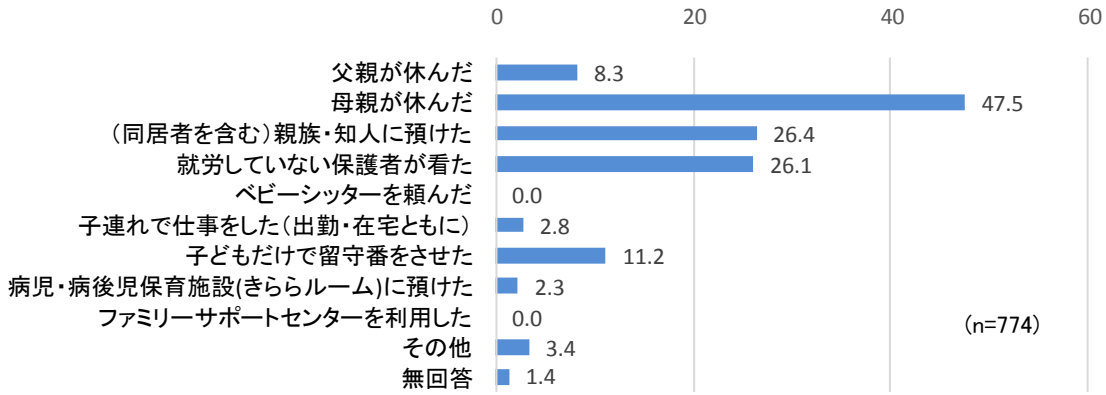
その対処方法としては、「母親が休んだ」が 47.5%でもっとも高く、平均日数は 3.1 日です。ついで、「（同居者を含む）親族・知人に預けた」が 26.4%で、平均日数 4.5 日、「就労していない保護者が看た」が 26.1%で平均日数 4.1 日となっています。

問 15. この１年間に、あて名のお子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことがありますか。

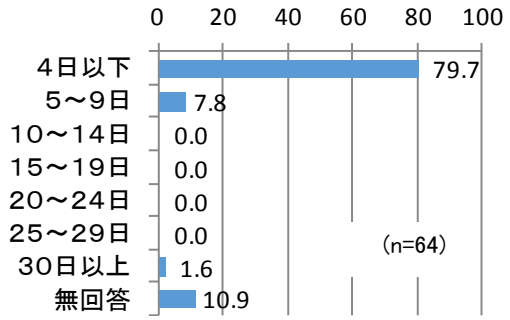


問 15 で「１」に○をつけた方にお伺いします。

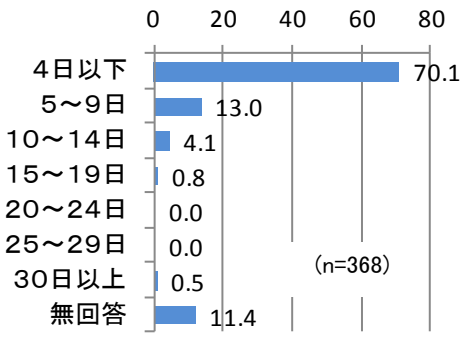
問 15-1. この１年間の対処方法とそれぞれの日数は何日でしたか。あたはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数をお答えください。



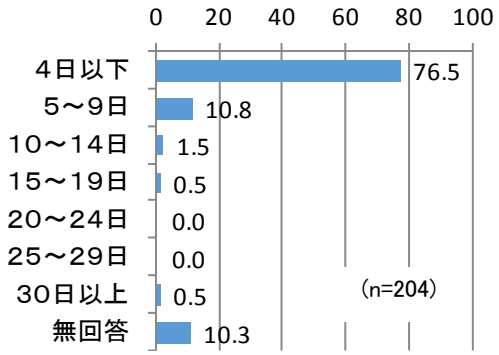
【父親が休んだ】



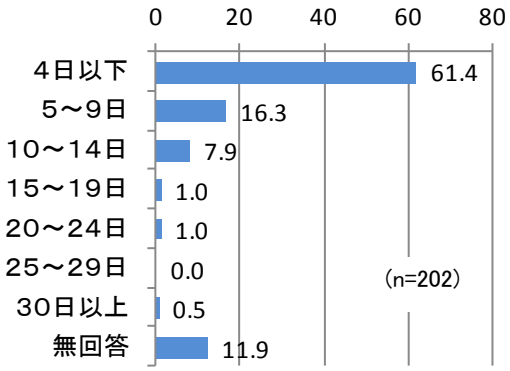
【母親が休んだ】



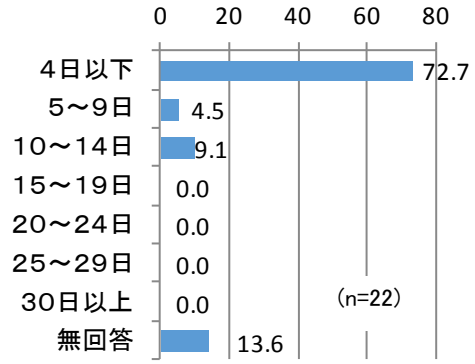
【（同居者を含む）親族・知人に預けた】



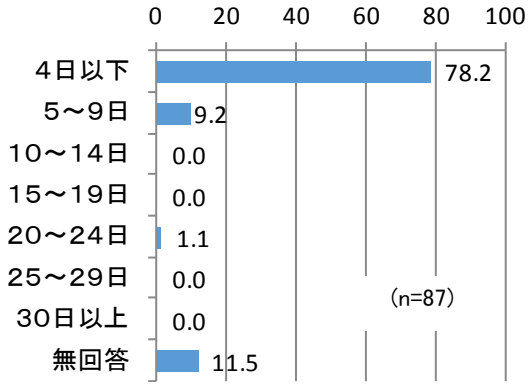
【就労してない保護者が看た】



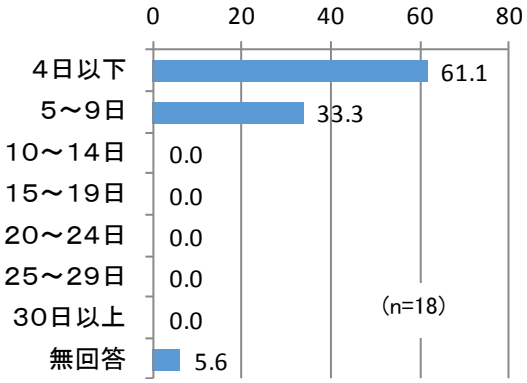
【子連れで仕事をした（出勤・在宅ともに）】



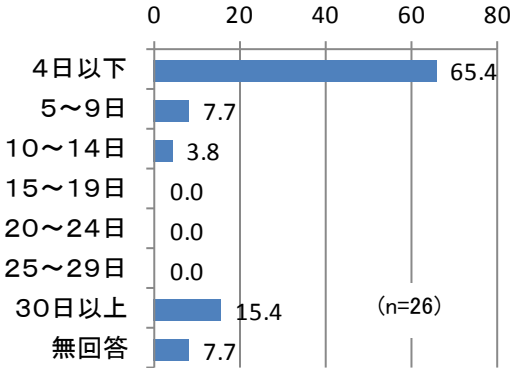
【子どもだけで留守番させた】



【病児・病後児保育施設（きらきらルーム）に預けた】



【その他】

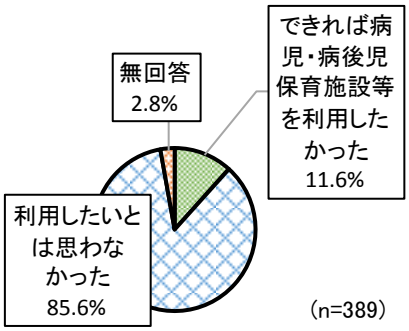


５－２．病児・病後児保育の利用希望等

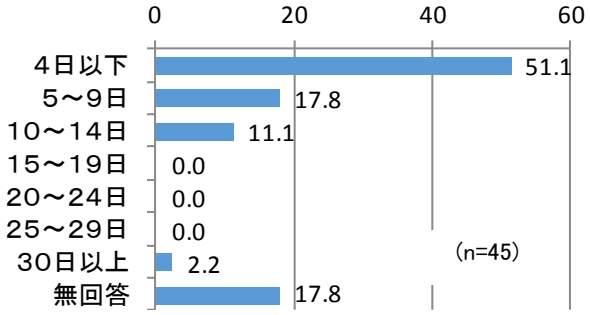
「父親」「母親」が休んで対応した人の「病児・病後児のための保育施設等」を利用したかった人は、11.6%であり、年間の利用回数では「4 日以下」が 51.1%でもっとも高く、平均で 4.7 日となっています。
具体的な事業形態としては、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」75.6%と目立って高くなっています。
一方、「病児・病後児のための保育施設等」を利用したいと思わなかった理由は、「保護者が仕事を休んで対応する」が 57.7%で過半数を占め、ついで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」の 36.6%となっており、何とか保護者で看たいという意識がうかがえます。

問 15－1で「１」または「２」に○をつけた方にお伺いします。

問 15－2. その際、できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思いましたか。(1 つに○)

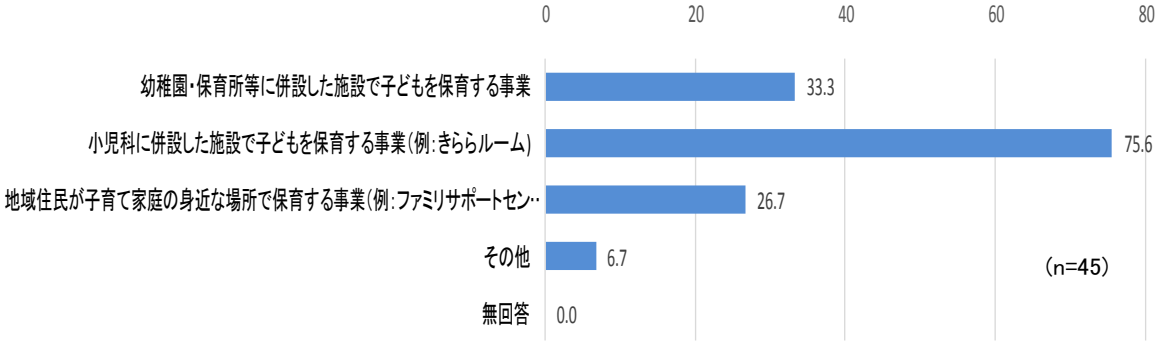


【利用したかった日数】



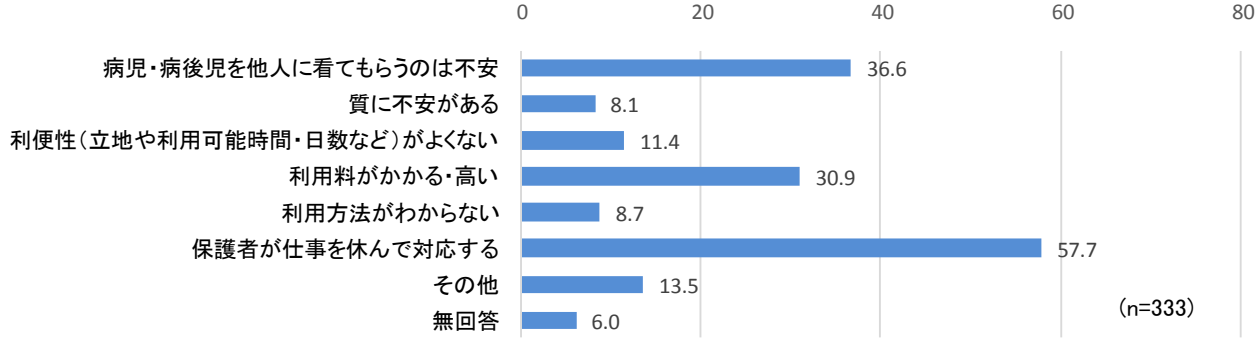
問 15－2 で「１」に○をつけた方にお伺いします。

問 15-3. 病気やけがであて名のお子さんを預ける場合、どのような事業形態が望ましいと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）



問 15－2 で「２」に○をつけた方にお伺いします。

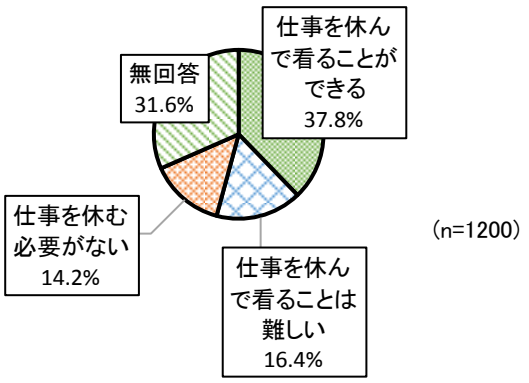
問



子どもが病気やけがの場合、仕事を休めるかについては、「仕事を休んで看ることができる」が３７．８%と全体の ４ 割近くを占め、「休んで看るのは難しい」と答えた人は 16.4%となっています。
また、難しい理由としては、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が 51.3%と過半数を占めています。
なお、「その他」としては「仕事の関係で急な対応ができない」「給料が減る」などが主な理由としてあげられています。

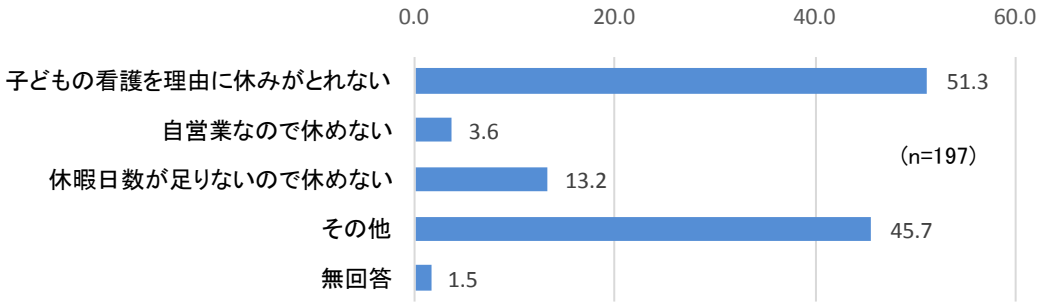
すべての方にお伺いします。

問 15-5. お子さんが病気やけがの場合に仕事を休んで看ることができますか。(1 つに○)



問 15-2 で「2」に○をした方にお伺いします

問 15-6. 仕事を休んで看ることが難しい理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



6. 一時預かりについて

6-1. 過去１年間に家族以外に一時的に預けたこと

この１年間で、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に子どもを家族以外の誰かに一時的に預けるために利用した施設についてみると、「利用していない」が 95.8%と大半を占めています。

利用している中では、「ファミリーサポートセンター」が 1.3%となっています。

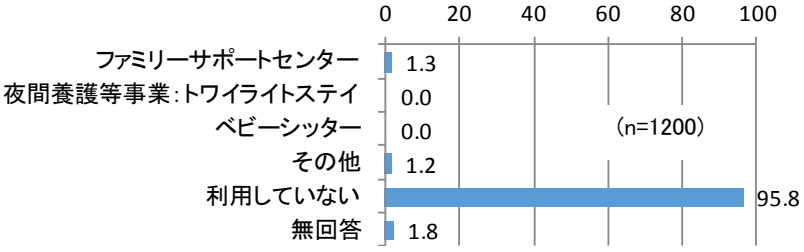
また、現在利用していない理由としては、「特に利用する必要がない」が８割を超えています。

今後の利用意向をみると、「利用したい」は 10.8%であり、内訳は、「私用（買い物・子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的）」が年間平均 11.0 日、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など」が年間平均 5.5 日、「不定期の就労」が同年間平均日数 10.0 日となっています。

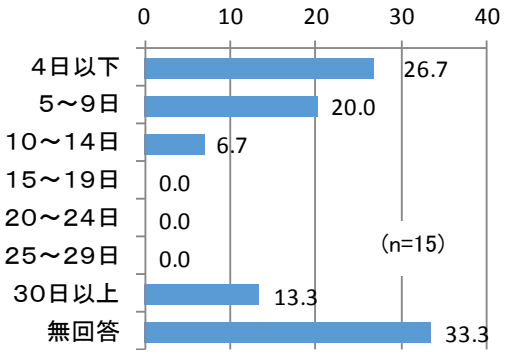
また、「利用したい」事業形態としては、「小規模で子どもを保育する事業」「大規模施設で子どもを保育する事業」がそれぞれ 54.6%と 52..3%と同様な割合となっています。

すべての方にお伺いします。

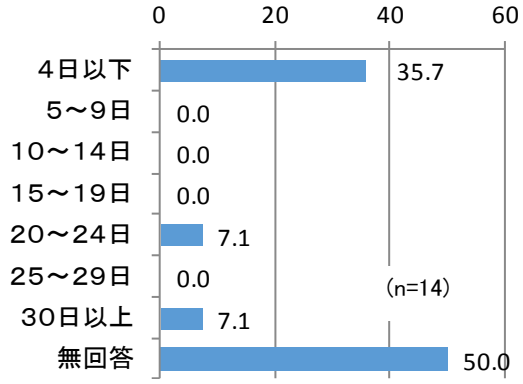
問 16. あて名のお子さんについて、私用、保護者の通院、不定期な就労等の目的で定期に利用している事業はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）もお答えください。



【ファミリーサポートセンター】

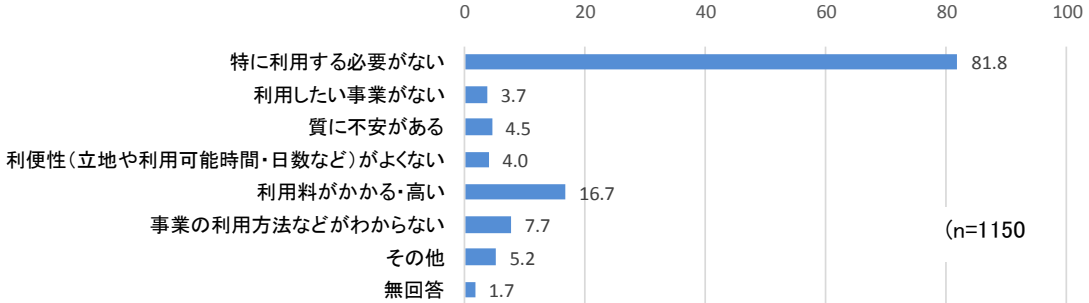


【その他】



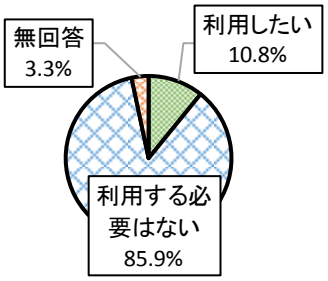
問 16 で「5」に○をした方にお伺いします。

問 16-1. 現在利用していない理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）



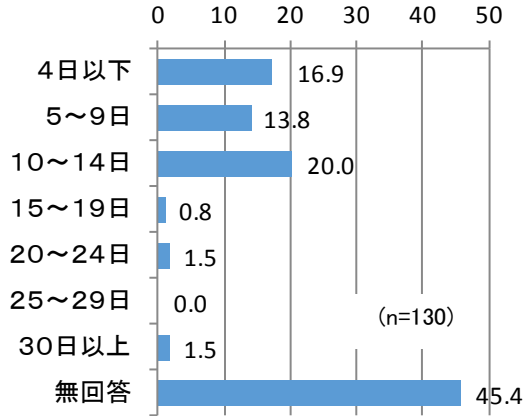
すべての方にお伺いします。

問 17. あて名のお子さんについて、私用、保護者の通院、不定期な就労等の目的で、問 16 の「1」から「4」の事業を利用したいですか。利用したい場合は、必要な日数をお答えください。

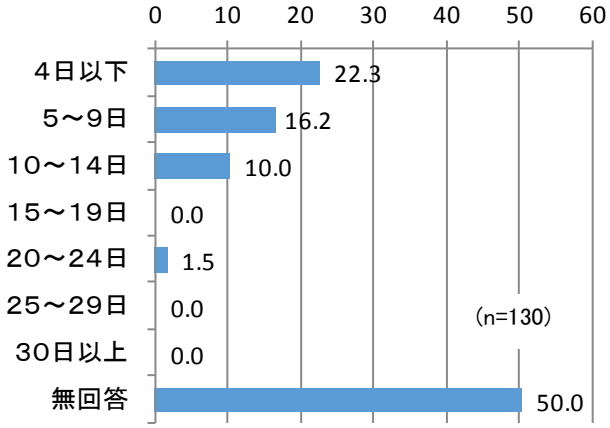


(n=1200)

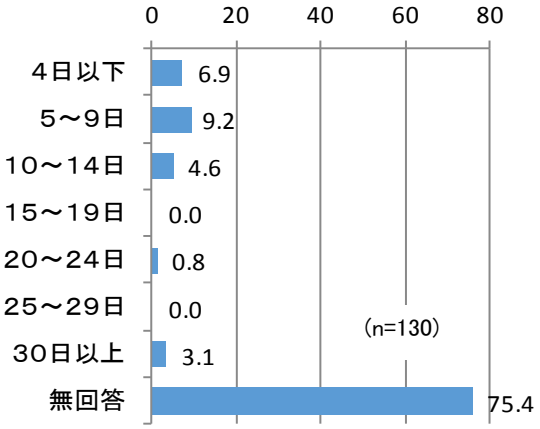
【私用、リフレッシュ目的】



【冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など】

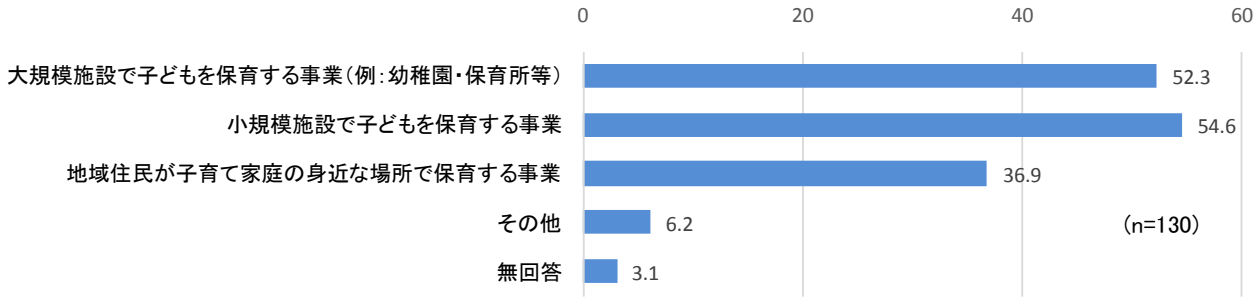


【不定期の就労】



問 17 で「1」に○をした方にお伺いします。

問 17-1. 問 17 の目的でお子さんを預ける場合、どのような事業が望ましいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

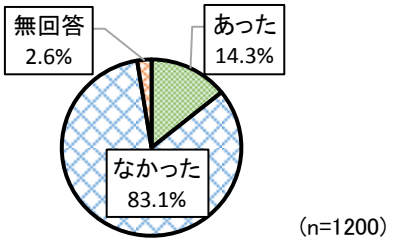


６－２．宿泊を伴う一時預かりについて

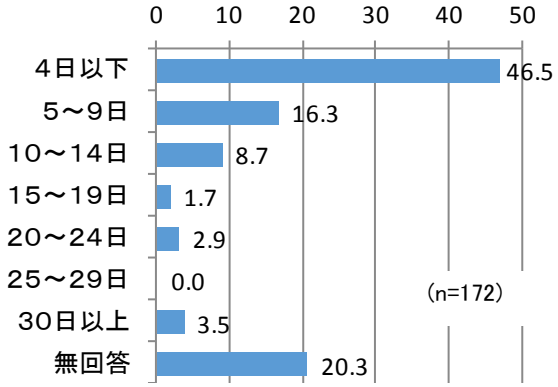
この１年間に、保護者の用事などにより、あて名のお子さんを泊まりがけで家族以外に預けなければならない経験についてみると、「あった」は 14.3%です。
その対処方法としては、ほぼ全員が「（同居者を含む）親族・知人に預けた」と回答しており、その平均日数は 6.1 日となっています。
また、親族・知人に預けた場合の困難度としては、「非常」「どちらか」を含め困難が 35.0%、に対し、「特に困難ではない」が 62.8%と６割を超えています。

すべての方にお伺いします。

問 18. この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。あった場合は、この1年間の対処方法の日数もお答えください。

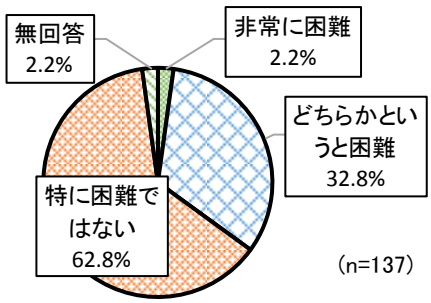


【（同居を含む）親戚・知人にみてもらった】



問 18 で「1. あった （同居者を含む）親族・知人にみてもらった」に○をした方にお伺いします。

問 18－1. その場合の困難度はどの程度でしたか。（1つに○）



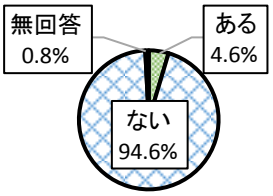
7.「ファミリーサポートセンター」の利用状況

7－1． 利用状況と利用している理由

ファミリーサポートセンターを利用したことがある人は、必要のある保護者が対象とはいえ、4.6%と極めて低い数字となっています。
利用理由としては、「祖父母等の親族や近所の人・友人等に預かってもらえないときに利用している」が、30.9%でもっとも高くなっています。ついで「保育施設等の送り迎えに利用している」が 25.5%となっています。
1 か月あたりの回数としては平均 4.1 回、1 回あたり平均 2.4 時間となっています。

すべての方にお伺いします。

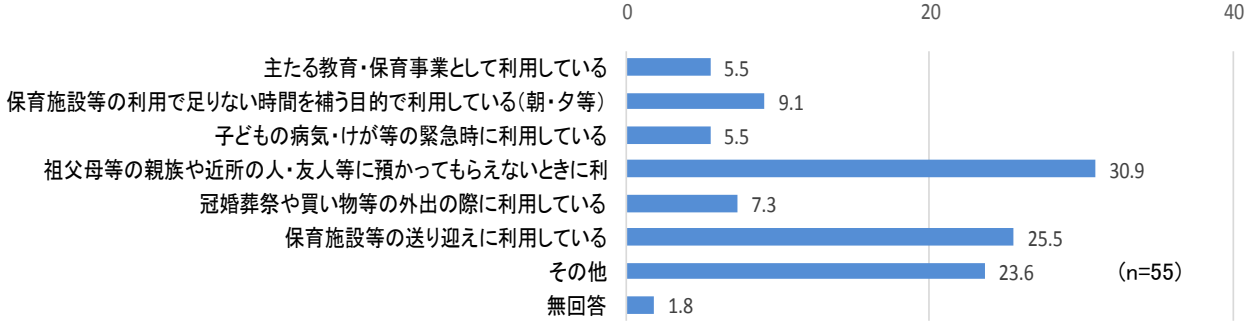
問 19. ファミリーサポートセンターを利用したことがありますか。(1 つに○)



(n=1200)

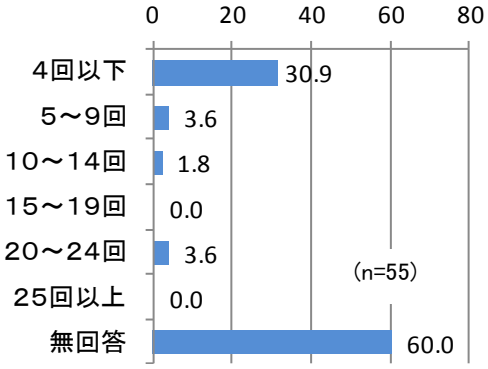
問 19 で「1」に○をした方にお伺いします。

問 19-1. どのような目的で利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

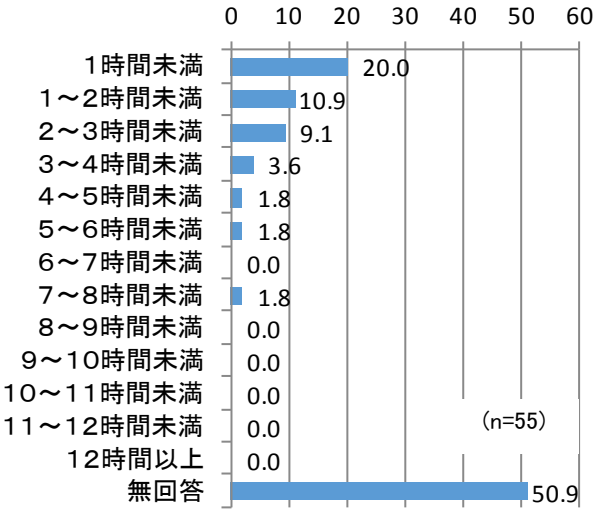


問 19-2. 月に何回くらいの頻度で利用していますか。

【1 か月あたり利用回数】



【1 回あたり利用時間】



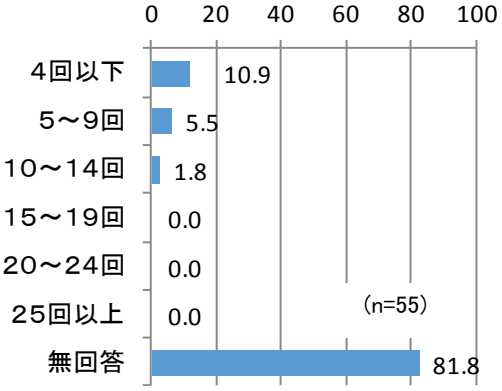
7－2．今後の利用希望等

今後の増加希望としては、1 か月あたりの回数としては平均 4.4 回、1 回あたり平均 3.5 時間となっています。
また、現在利用していないが、今後利用したいは 6.5%とかなり低くなっています。
1 か月あたりの回数としては平均 2.8 回、1 回あたり平均 4.2 時間となっています。

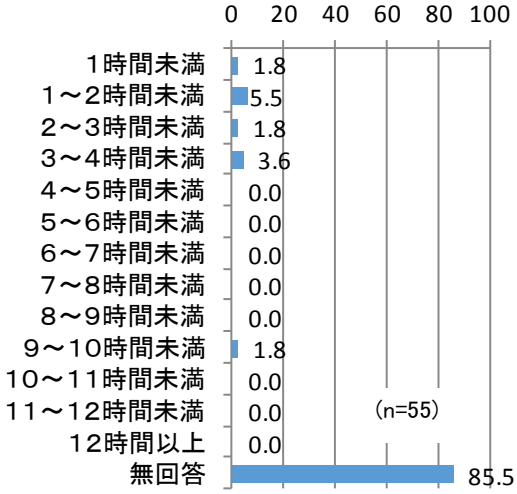
問19で「1」に○をした方にお伺いします。

問 19-3. 利用回数や利用頻度を増やせるとしたら、どのくらい増やしたいと思いますか。

【1 か月あたり希望利用回数】

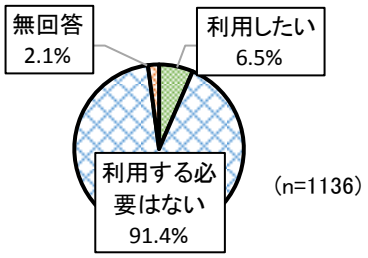


【1 回あたり希望利用時間】

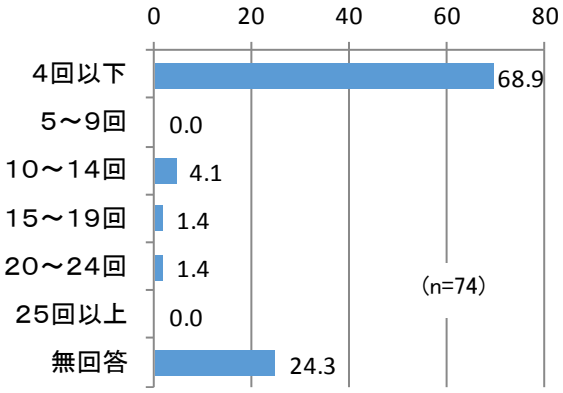


問 19 で「2」に○をした方にお伺いします。

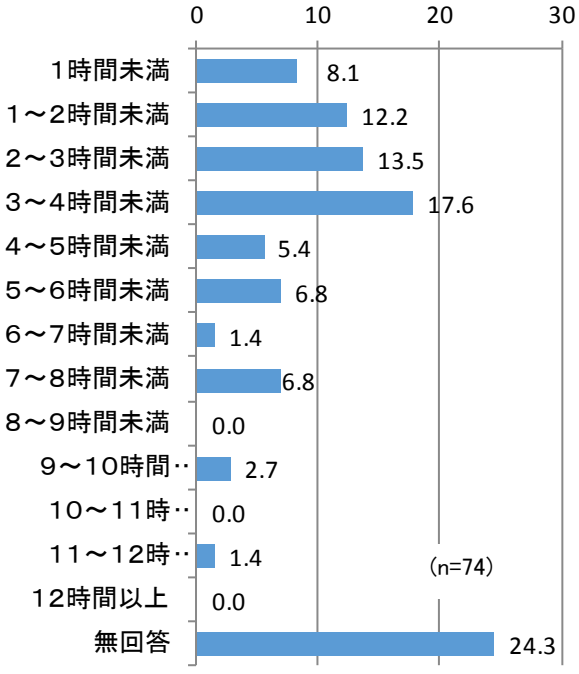
問 19-4. 今後利用したいと思いますか。利用したい場合は、利用したい回数、時間をお答えください。



【1 か月あたり希望利用回数】



【1 回あたり希望利用時間】



8. 子ども家庭支援センター「海北」の利用状況

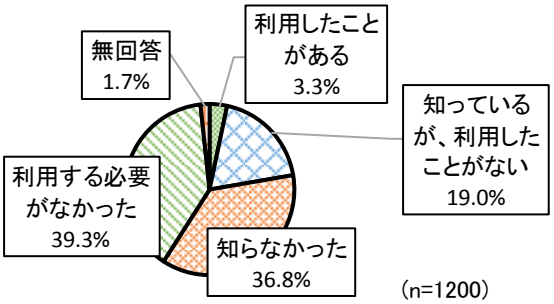
8－1． 利用状況と利用してない理由

子ども家庭支援センター「海北」を利用したことがある人は、必要のある保護者が対象とはいえ、3.3%と極めて低い数字となっています。利用者の 1 か月あたりの利用回数は平均 1.5 回となっています。

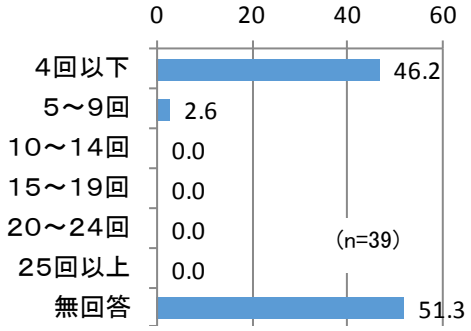
利用したことがない理由としては、「特に理由はない」が 57.0%と目立って高いほかは、「サービスの利用方法がわからない」が 20.2%と続いており、施設自体の PR 等が必要です。

すべての方にお伺いします。

問 20. 子ども家庭支援センター「海北」」を利用したことがありますか。(1 つに○)

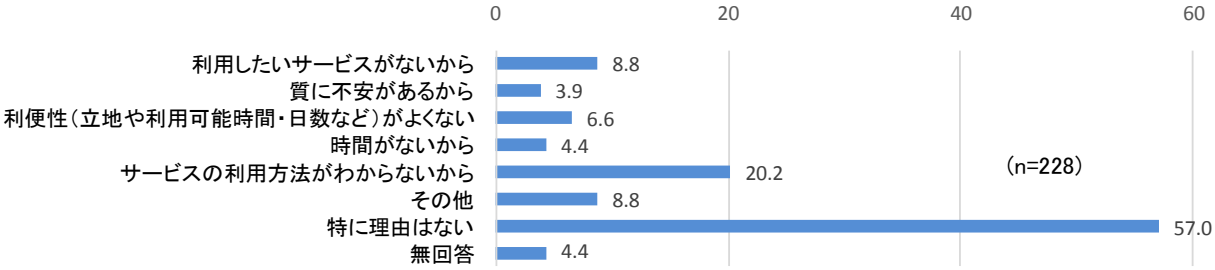


【1 か月あたり利用回数】



問 20 で「2」に○をした方にお伺いします。

問 20-1. サービスを利用したことがない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

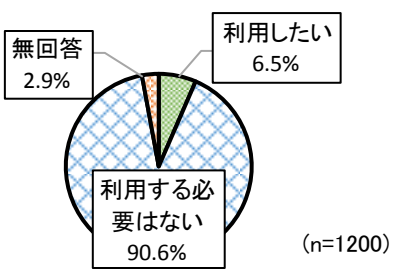


8－2． 今後の利用希望等

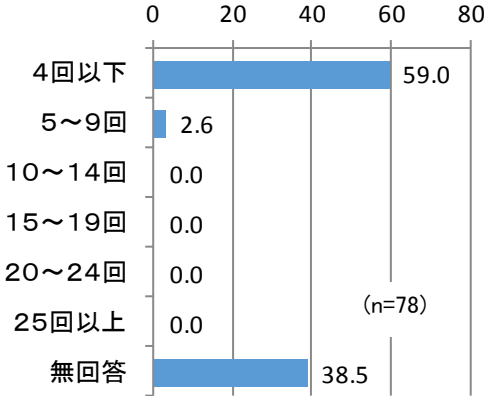
今後の利用意向については「利用したい」は 6.5%に留まっています。
1 か月あたりの希望利用回数は平均 1.8 回となっています。

すべての方にお伺いします。

問 21. 今後、利用したいと思いますか。利用したい場合は、利用したい回数、時間をお答えください。



【1 か月あたり希望利用回数】



9. 児童虐待について

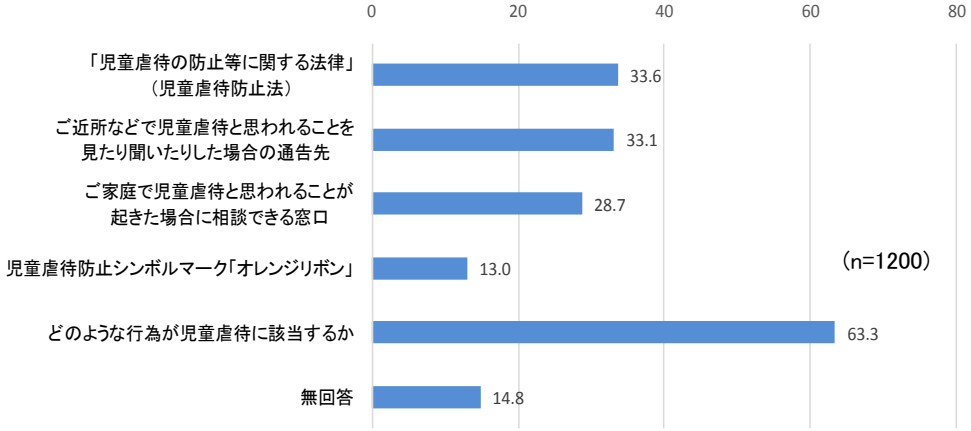
児童虐待について知っていることは、「どのような行為が児童虐待に該当するか」が63.3%と目立って高く、ついで、「児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待防止法)」が33.6%、以下「ご近所などで児童虐待と思われることを見たり聞いたりした場合の通報先」の 33.1%「ご家庭で児童虐待と思われることが起きた場合に相談できる窓口」の 28.7%と続いています。

児童虐待を見聞きした場合にどちらに通報するかについては、「児童相談所」が 42.3%でもっとも高く、ついで「市役所子育て支援課」の 28.2%となっています。以下「地元警察署」の 14.4%、「小学校」の 10.3%となっています。

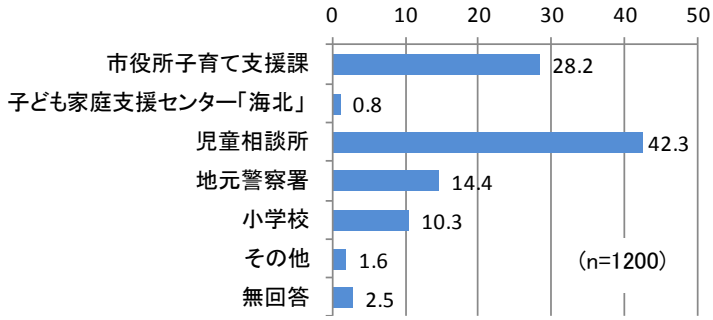
また、自分の子どもに対する行為としては、「必要以上に大声でしかったことがある」が69.1%と７割近くを占めて目立って高くなっています。以下「感情のままにたたいたことがある」の 33.5%となっています。

すべての方にお伺いします。

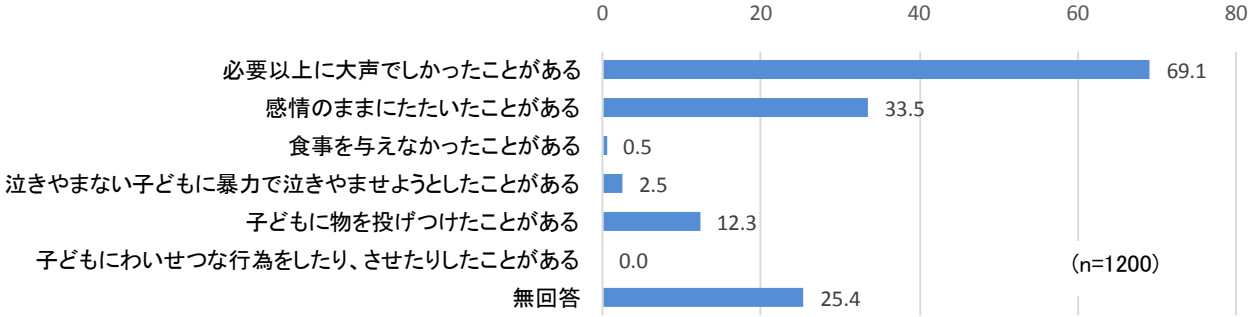
問 22. 児童虐待について知っていることをお答えください。(あてはまるものすべてに○)



問 23. 児童虐待を見聞きした場合には、どちらに通告しようと思いますか。(1つに○)



問 24. あなたは今までに、自分の子どもに対し、下記の１～７のようなことをしたことや感じたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



10. 子どもの居場所について

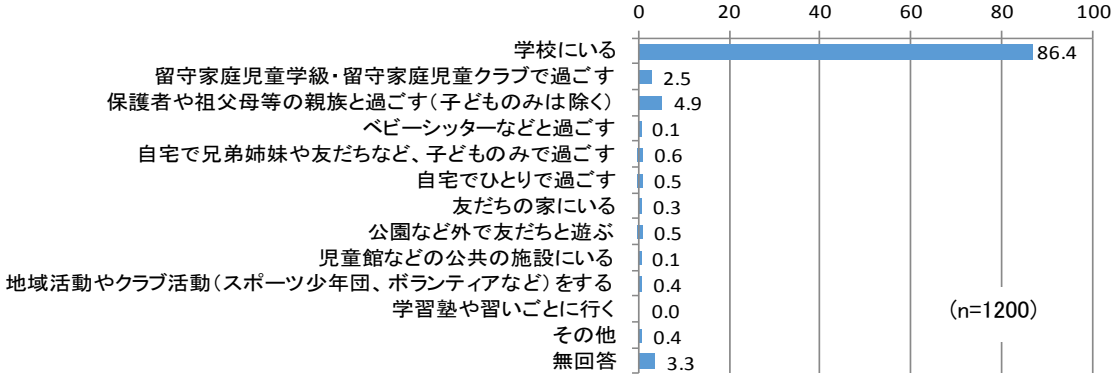
子どもの居場所について、平日の日常的な過ごし方では、「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごす（子どものみは除く）」がもっとも多く、夜 18 時以降で 82.3%、夕方 16～18 時で 39.8%となっています。「留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」で過ごしているのは夕方 16～18 時で、9.3%と１割となっています。

土曜日はほとんどが「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごす（子どものみは除く）」と答えており、夜 18 時以降 83.7%、夕方 16～18 時 67.0%、午後 12～16 時 55.3%、午前中 9～12 時で 55.4%と一日を通して５割以上となっています。

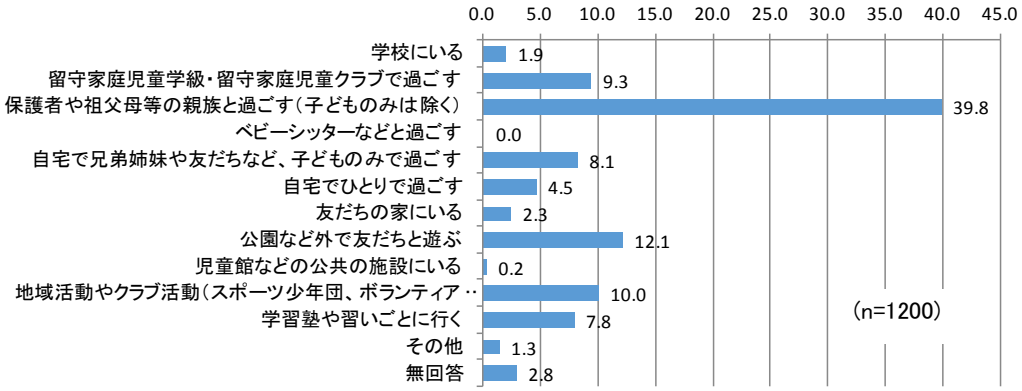
「留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブ」を利用している割合は、午前中 2.7%、午後 3.2%、夕方 2.6%と、数%程度が土曜日も放課後児童クラブで過ごしていることを示しています。

問 25. あて名のお子さんの平日の放課後や土曜日の日常的な過ごし方で一番多いものについて、時間帯ごとに番号をお答えください。

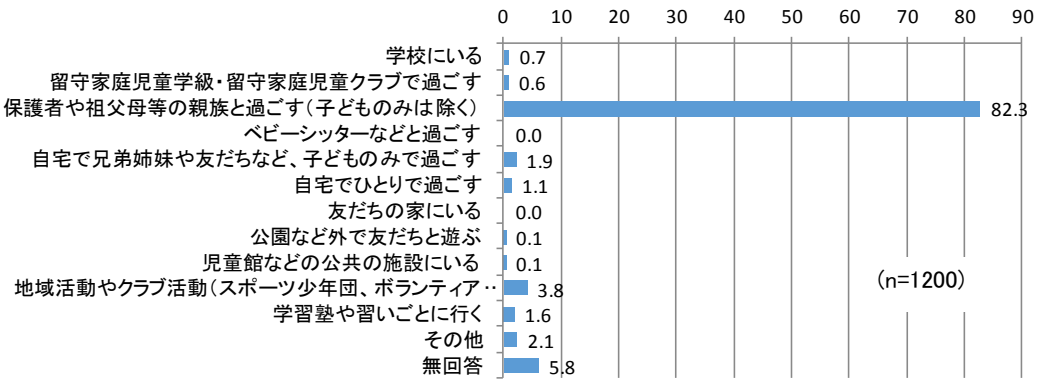
【①平日午後（12～16 時）】



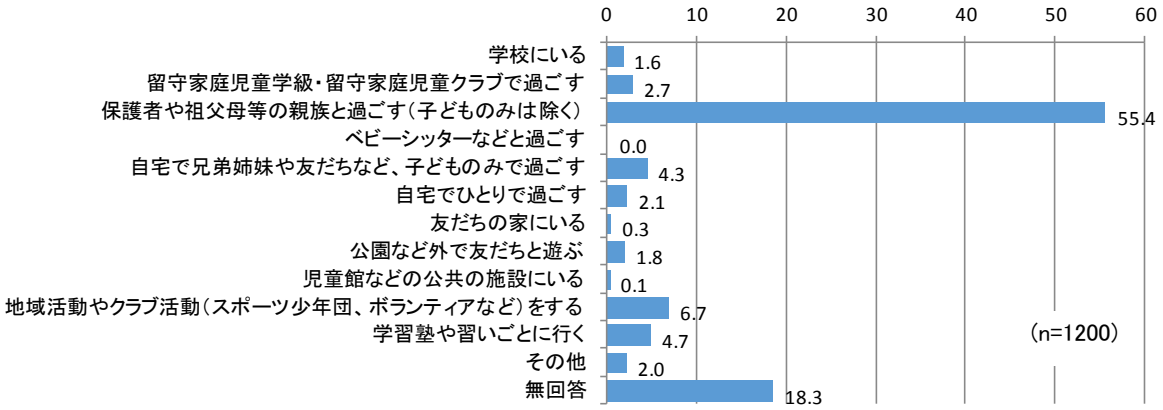
【①平日夕方（16～18 時）】



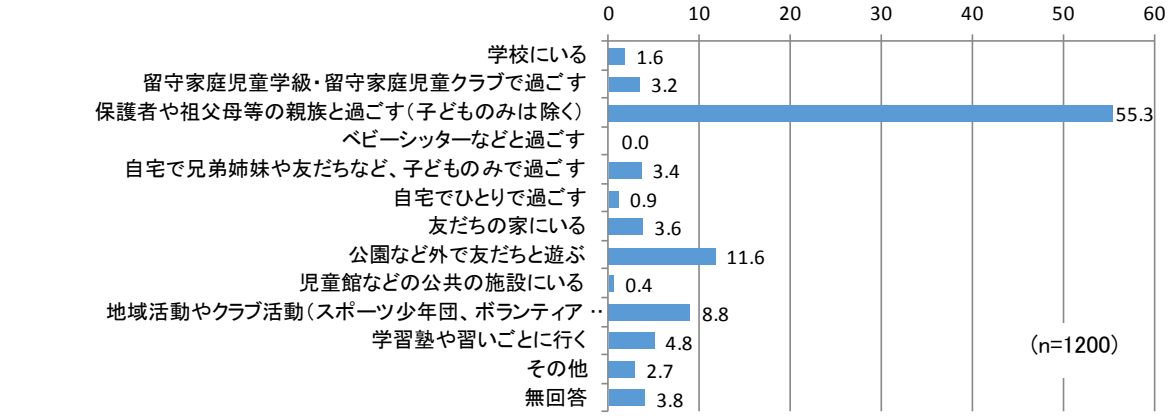
【①平日夜（18 時以降）】



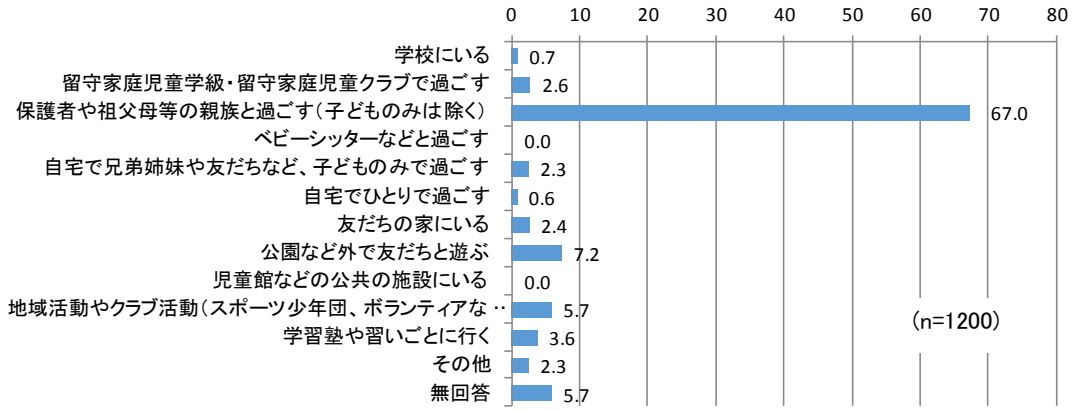
【②土曜日午前（9～12 時）】



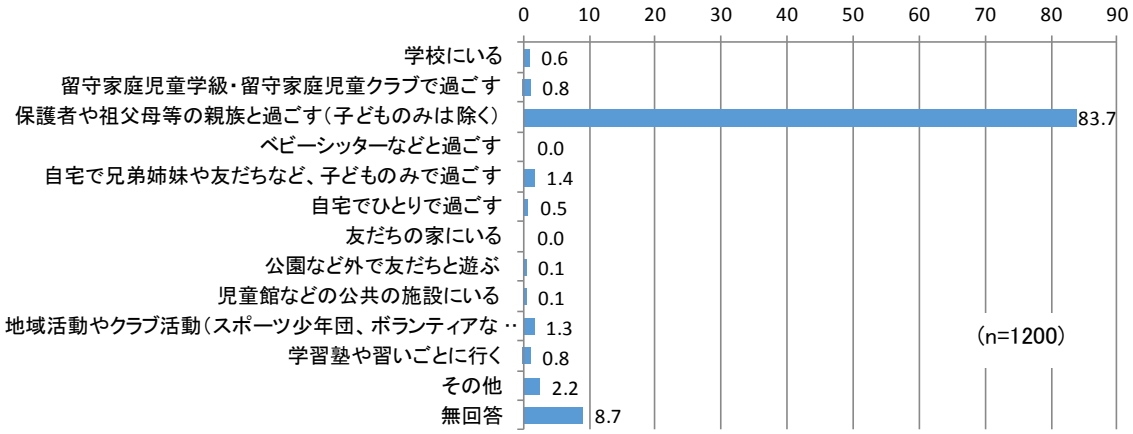
【②土曜日午後（12～16 時）】



【②土曜日夕方（16～18 時）】



【②土曜日夜（18 時以降）】

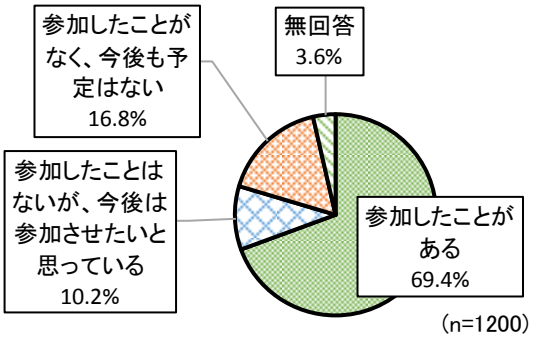


11. 子どもの地域活動への参加状況について

あて名のお子さんの地域活動やグループ活動などの参加について、「参加したことがある」は 69.4%で、7割近くが参加経験を持っています。「参加したことはないが、今後は参加させたいと思っている」は 10.2%となっています。

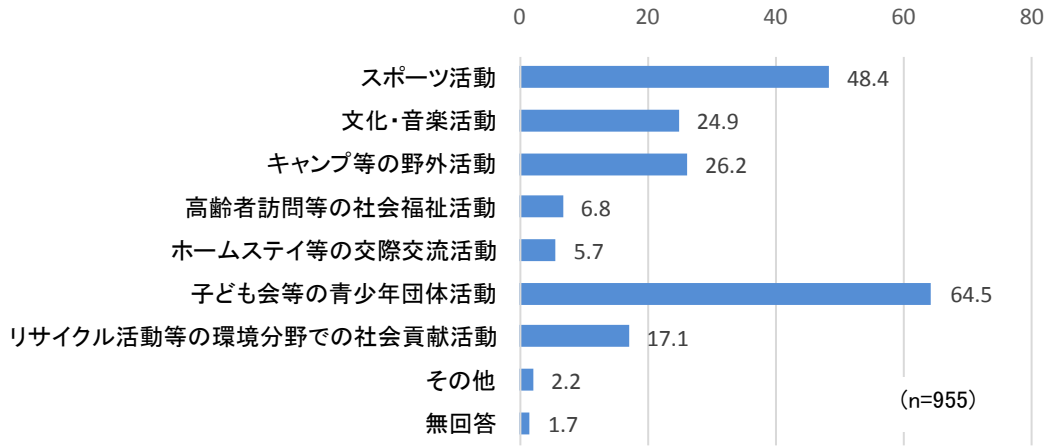
参加したことがある、もしくは今後参加させたい活動については、「子ども会等の青少年団体活動」が 64.5%でもっとも高く、ついで「スポーツ活動」の 48.4%、「キャンプ等の野外活動」26.2%、「文化・音楽活動」24.9%と続いています。「高齢者訪問等の社会福祉活動」（6.8%）、「ホームステイ等の交際交流活動」（5.7%）等はいずれも 10%以下の低率となっており、ボランティア等の活動経験よりも、体を動かして遊ぶ経験がより望まれていることを示しています。

問 26. あて名のお子さんは地域活動やグループ活動などに参加されたことがありますか。（1つに○）



問 26 で「1」「2」のいずれかに○をした方にお伺いします。

問 26－1. あて名のお子さんが参加したことがある、もしくは今後参加させたい地域活動やグループ活動の種類は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



12. 子育て支援サービスの認知状況、利用状況

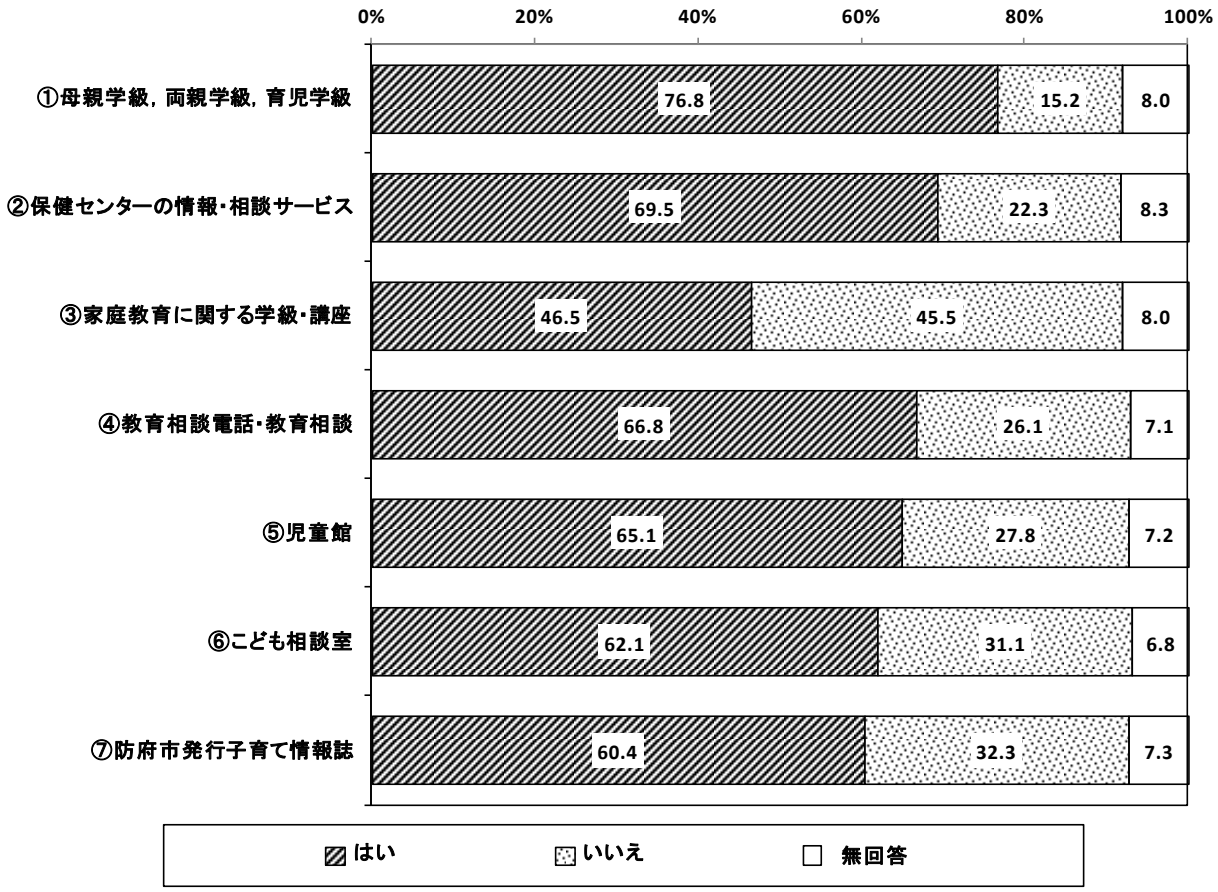
【認知度】
各種の子育て支援事業の認知状況としては、「③家庭教育に関する学級・講座」の認知度が５割を切っている以外は、いずれも６割以上の認知率であり、中でも、「①母親学級、両親学級、育児学級」は 76.8%の認知率となっています。

【利用経験】
利用経験では、認知率の高い上位の中では、「①母親学級、両親学級、育児学級」が 39.5%でもっとも高く、以下「②保健センターの情報・相談サービス」の 29.5%、「⑦防府市発行子育て情報誌」の 24.1%、「⑤児童館」の 24.0%が２割台の利用率となっています。
一方、「④教育相談電話・教育相談」、「⑥こども相談室」といった教育や相談に関するサービスに対する利用率は数%に留まっており、啓発等の取組が必要となっています。

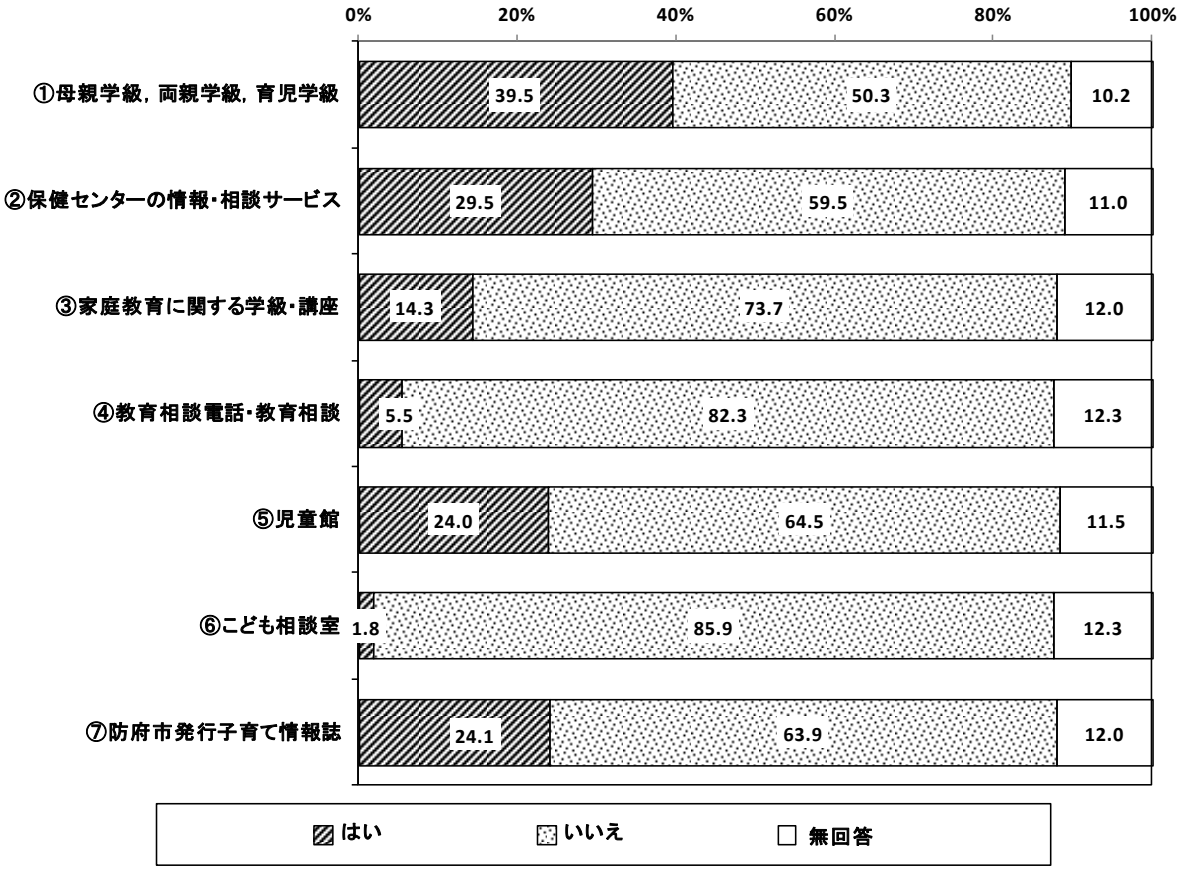
【利用意向】
今後の利用意向としては、「⑧防府市発行子育て情報誌が 30.0%でもっとも高く、ついで、「⑤児童館」の 21.8%と続いています。
それ以外は、いずれも２割未満の利用意向率となっています。

問 27. 下記のサービスを知っていたり、これまでに利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いますか。（サービスごとに、A～Cのそれぞれについて、1つに○）

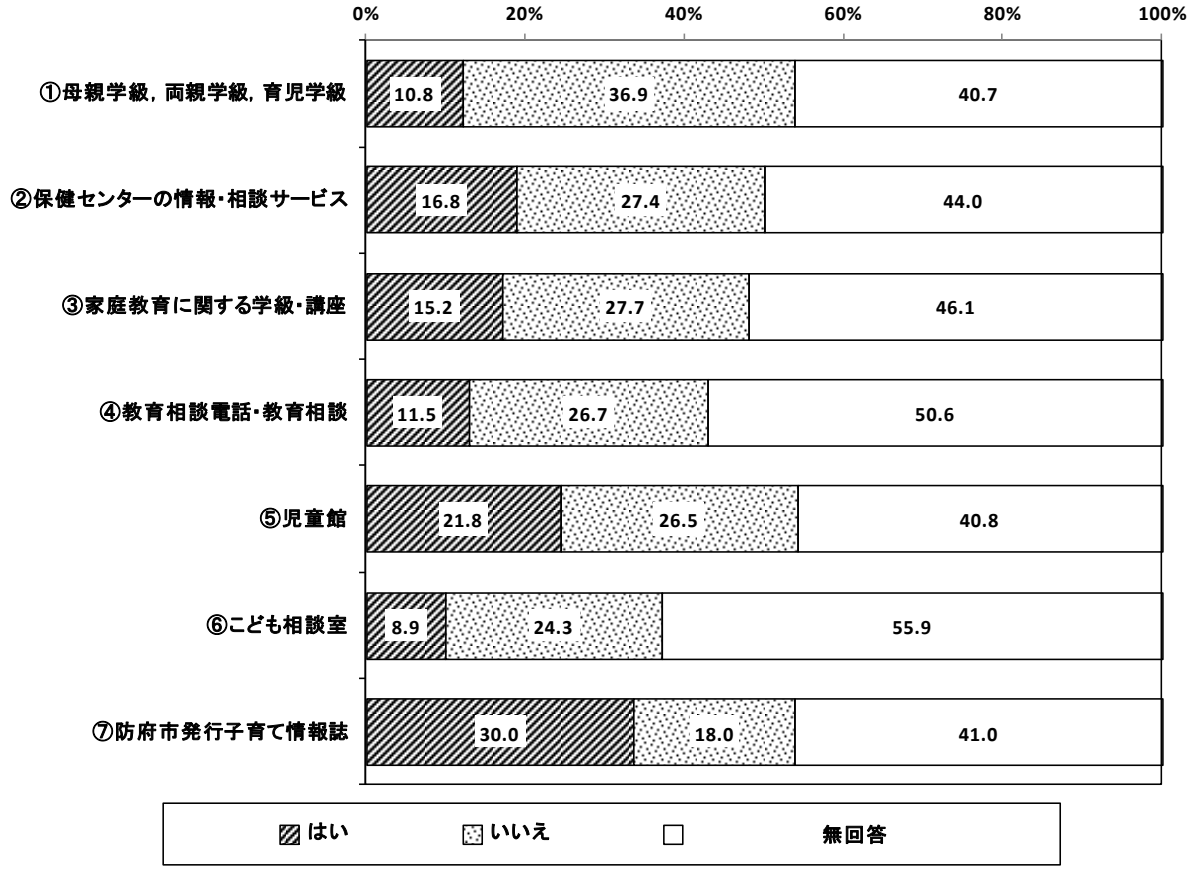
【知っている】 (n=1200)



【利用したことがある】 (n=1200)



【今後利用したい】 (n=1200)



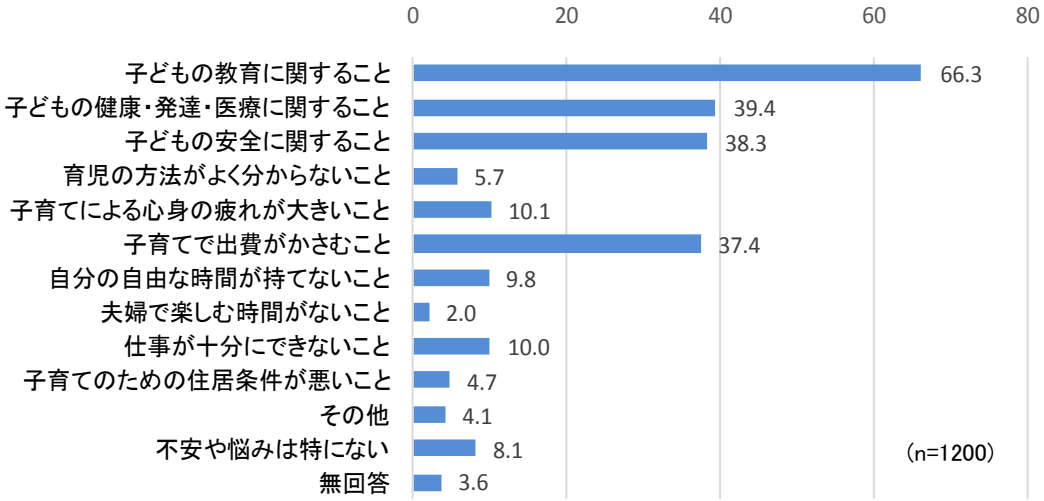
13. 子育て全般について

１３−１．子育てについての悩み

子育てを行ううえでの悩みについては、「子どもの教育に関すること」が 66.3%でもっとも高く、ついで「子どもの健康・発達・医療に関すること」の 39.4%、「子どもの安全に関すること」の 38.3%「子育てで出費がさけむこと」の 37.4%と続き、これらが主要項目となっています。

すべての方にお伺いします。

問 28. 子育てをする上で、どのような悩みがありますか。(あてはまるものすべてに○)

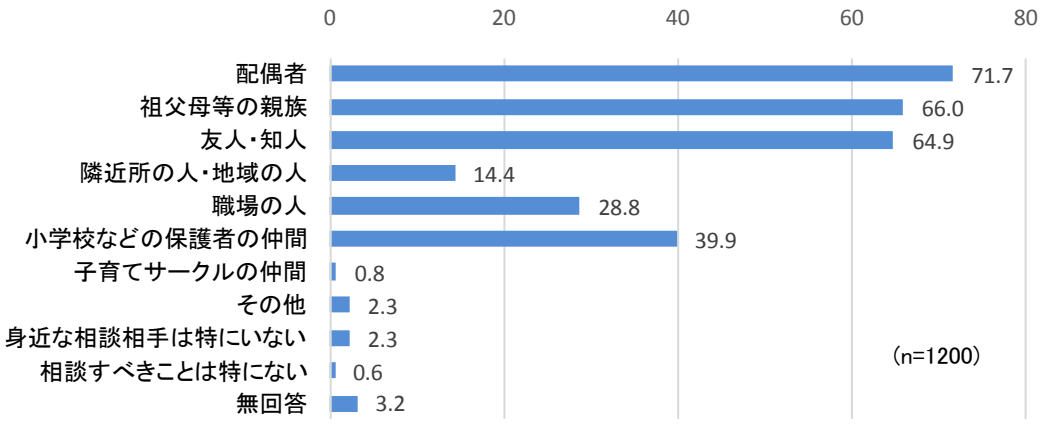


１３−２．悩みや不安の身近な相談先

子育ての悩みや不安についての身近な相談先としては、「配偶者」(71.7%)、「祖父母等の親族」(66.0%)、「友人・知人」(64.9%)が約６割～7 割を占めて、目立って高くなっています。

すべての方にお伺いします。

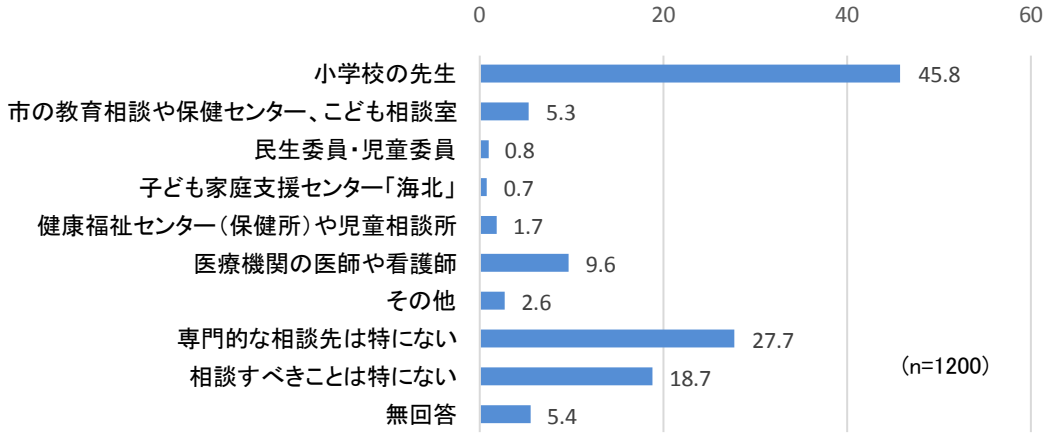
問 29. 子育てについての悩みや不安を気軽に相談できる相手はいますか。(あてはまるものすべてに○)



１３−３．悩みや不安の専門的な相談先

子育ての悩みや不安についての専門的な相談先では、「専門的な相談先は特にない」が 27.7%と３割近くを占めている中では、「小学校の先生」が 45.8%と目立って高くなっています。「市の教育相談や保健センター、こども相談室」、「健康福祉センター(保健所)や児童相談所」等公的機関の相談窓口等はいずれも数%と低調であり、啓発等の取組の充実が必要です。

問 30. 子育てについての悩みや不安を相談できる専門的な相談先はありますか。(あてはまるものすべてに○)



１３−４．情報の入手先

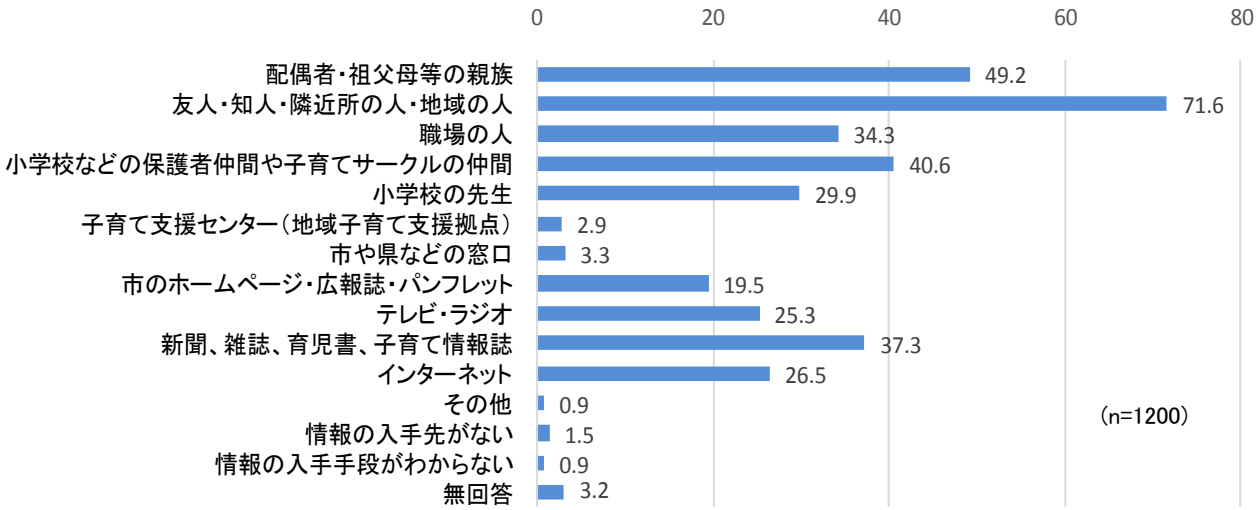
子育てに関する情報の入手先としては、「友人・知人・隣近所の人・地域の人」が 71.6%と目立って高く、ついで「配偶者・祖父母等の親族」の 49.2%となっており、この２つが大きな情報入手先となっています。

そのほか、「小学校などの保護者仲間や子育てサークルの仲間」(40.6%)、「新聞、雑誌、育児書、子育て情報誌」(37.3%)、「職場の人」(34.3%)など挙げられています。

「市や県などの窓口」や「子育て支援センター」は数%と低調です。

すべての方にお伺いします。

問 31. 子育て情報に関する情報をどこ(誰)から入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

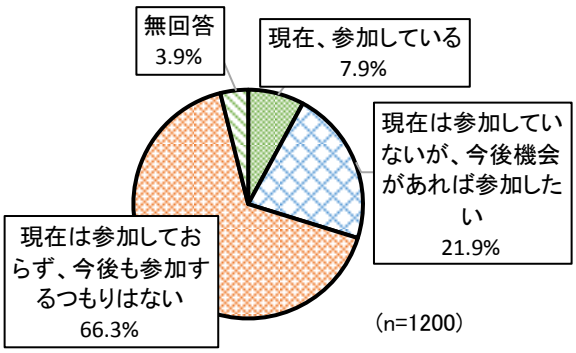


１３−５．子育てに関するサークルなどの自主的な活動について

子育てに関する自主的な活動への参加状況をみると、「現在、参加している」は 7.9%、「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が 21.9%となっており、今後の希望を含めても活動への経験は 29.8%と３割弱となっています。
活動していない理由しては、「時間がない・時間があわない」が 55.8%と半数を超えて目立って高く、子育てに追われている状況がうかがえます。

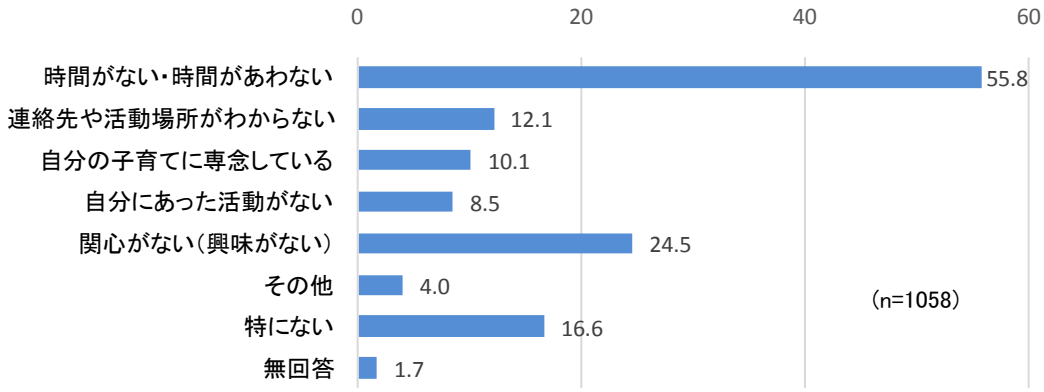
すべての方にお伺いします。

問 32. あなたは、子育てに関するサークルなど自主的な活動に参加していますか。（1つだけ○）



問 32 で「２」「３」のいずれかに○をした方にお伺いします。

問 32－１. 現在、子育てに関する自主的な活動（サークル等）に参加してない理由をお答えください。（あてはまるものすべてに○）。

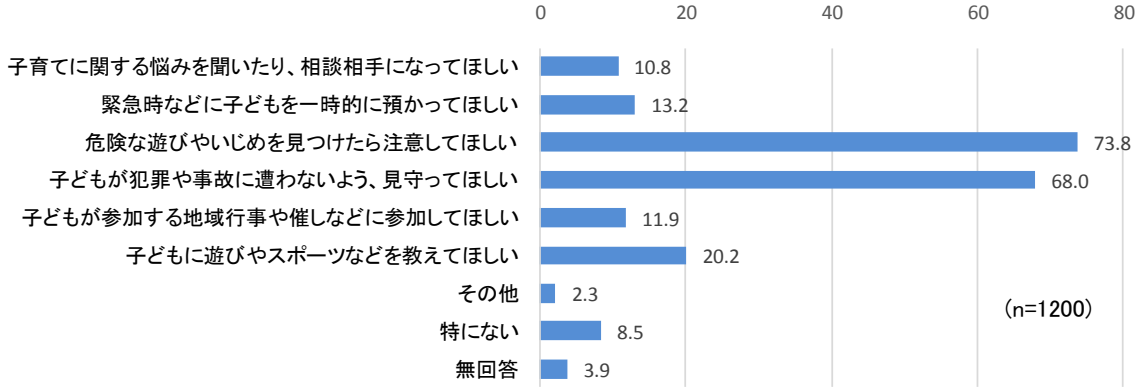


１３−６．地域に望む子育て支援について

地域に望む子育て支援については、「危険な遊びやいじめを見つけたら注意してほしい」が73.8%でもっとも高く、「子供が犯罪や事故に遭わないよう、見守ってほしい」が 68.0%、となっており、この２項目が目立って高くなっています。

すべての方にお伺いします。

問 33. 子育て支援として、身近な地域の人に望むことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

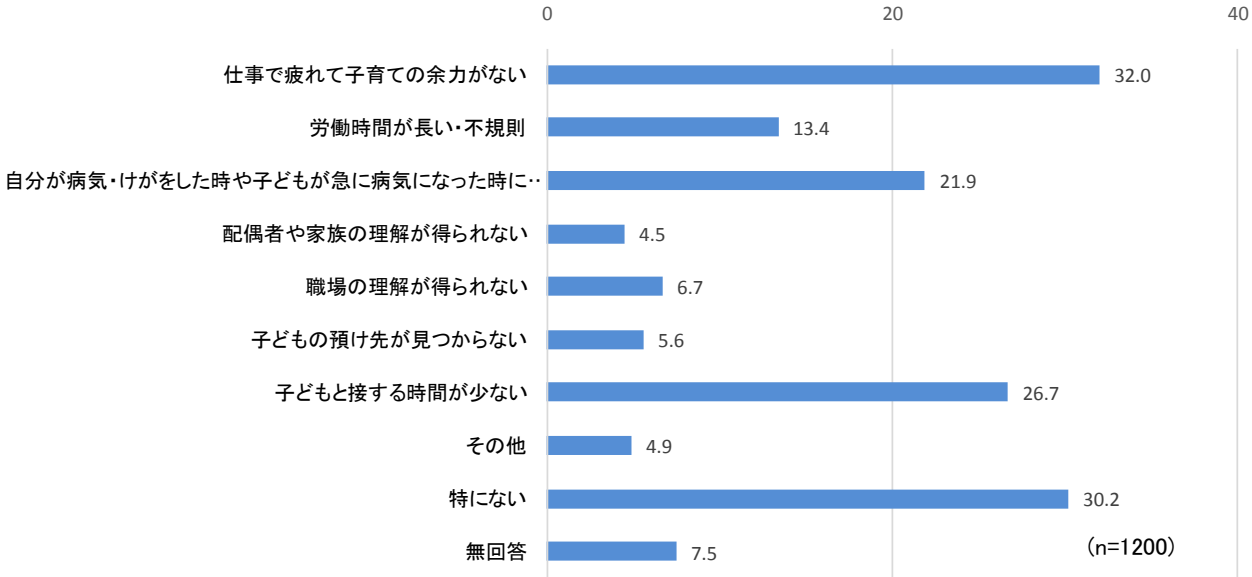


１３−７．仕事と子育ての両立について

仕事と子育てを両立する上での問題は、「仕事で疲れて子育ての余力がない」の 32.0%がもっとも高く、ついで「子どもと接する時間が少ない」の 26.7%、保護者の病気等でも「かわりに面倒をみる人がいない」の 21.9%となっており、ワークライフバランスや地域等での見守り等の重要性が指摘されます。

すべての方にお伺いします。

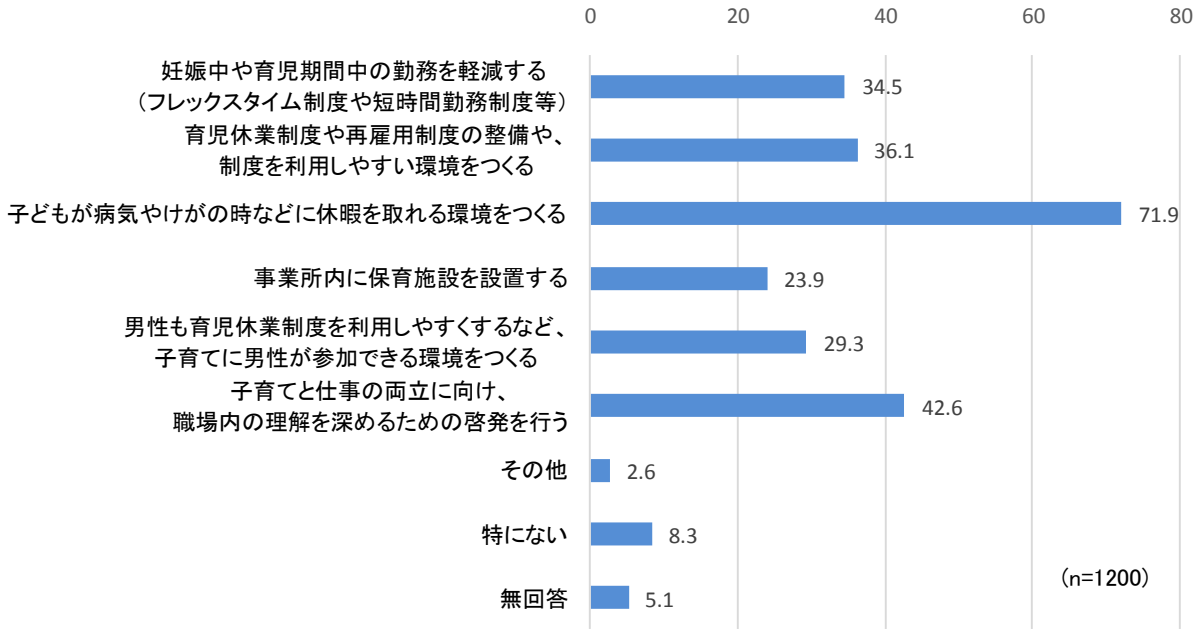
問 34. 仕事と子育てを両立させるうえで、大変だと感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



１３−８．子育てと仕事の両立での企業等の支援

仕事と子育てを両立するために必要な企業等の支援としては、「子どもが病気やけがの時などに休暇を取れる環境をつくる」が 71.9%と目立って高くなっています。
ついで「子育てと仕事の両立に向け、職場内の理解を深めるための啓発を行う」の 45.8%以下、「育児休業制度や再雇用制度の整備や、制度を利用しやすい環境をつくる」の 36.1%、「妊娠中や育児期間中の勤務を軽減する」の 34.5%となっています。

問 35. 子育てと仕事の両立支援のために、企業等はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

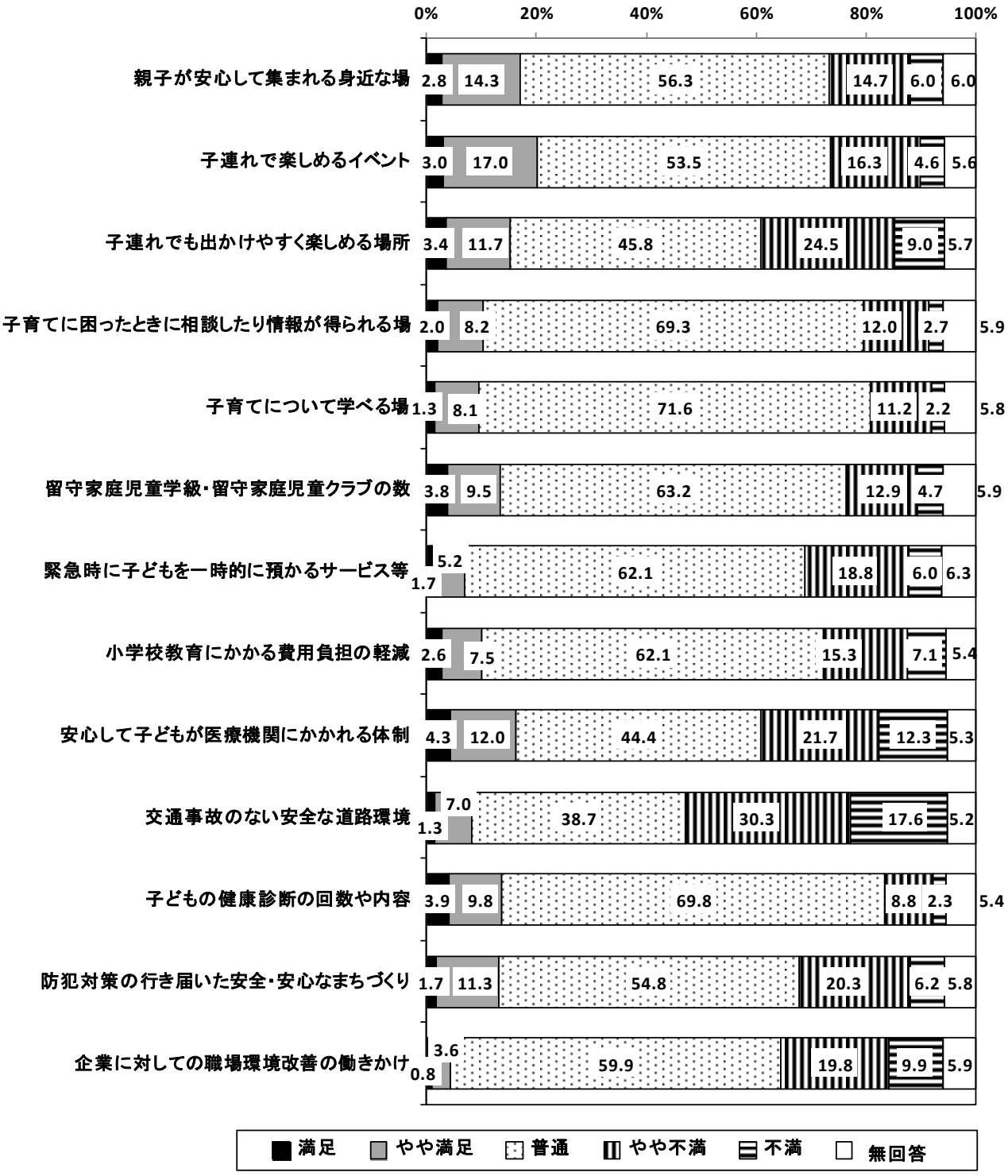


14. 本市の子育て支援策についての満足度と重要度

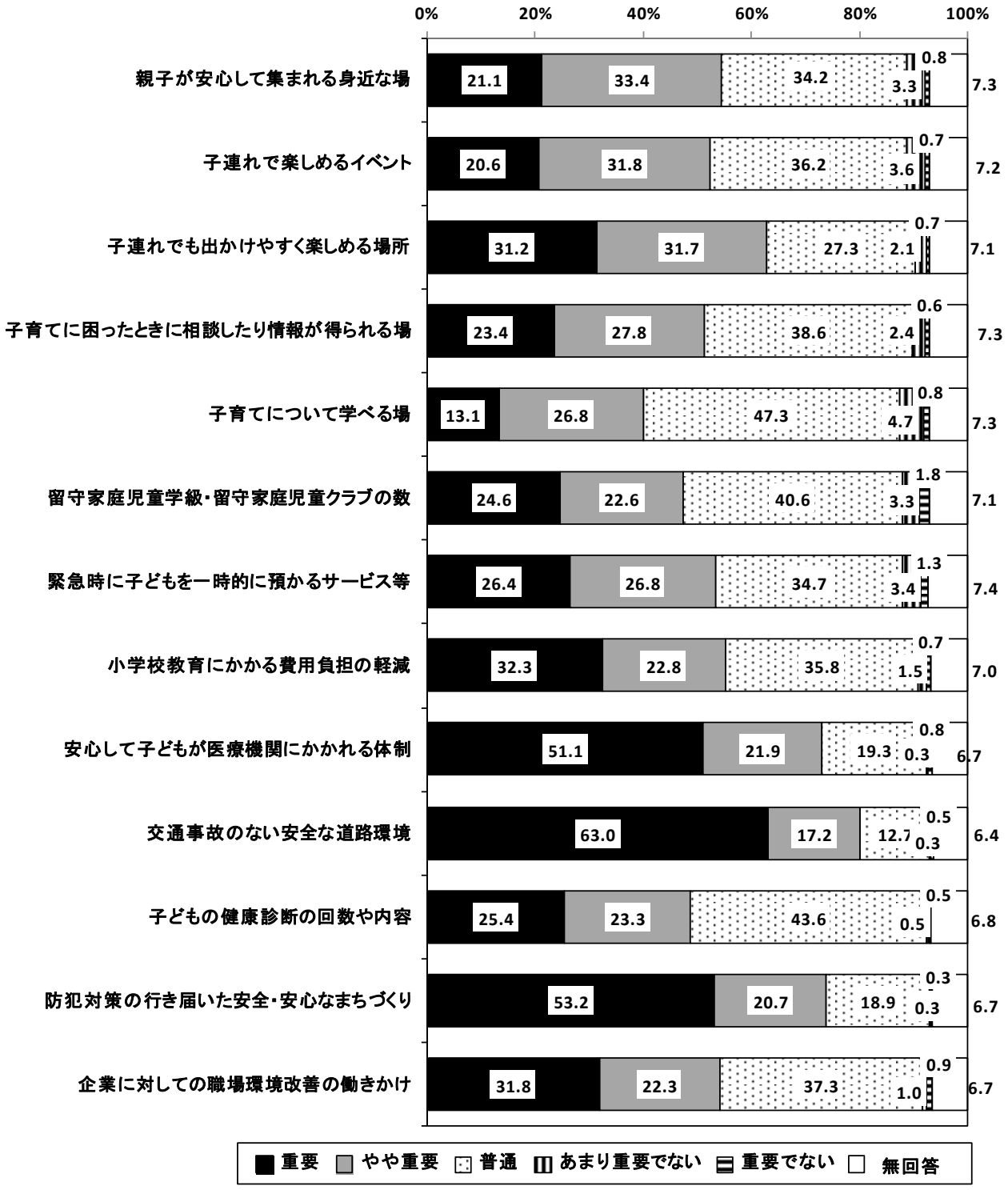
【満足度】
いずれの項目も「普通」の占める割合が大きいものの、その中では、「子連れで楽しめるイベント」が「満足」「やや満足」を含め 20.0%と２割を超えていますが、それ以外はいずれも、１割台以下です。

【需要度】
「重要」「やや重要」を含めた「重要度」では、いずれの項目も４割以上の「重要度」となっていますが、その中では、「交通事故のない安全な道路環境」の 80.2%、「防犯対策の行き届いた安全・安心なまちづくり」の 73.9%、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制」の 73.0%の３項目が７割を超えており、安全・安心な子育て環境づくりが重要視されています。

問 36. 本市の子育て支援策についての「満足度」と「重要度」についてお知らせください。
【満足度】 (n=1200)



【重要度】 (n=1200)


0%
20%
40%
60%
80%
100%
親子が安心して集まれる身近な場 21.1 33.4 34.2 3.3 0.8 7.3
子連れで楽しめるイベント 20.6 31.8 36.2 3.6 0.7 7.2
子連れでも出かけやすく楽しめる場所 31.2 31.7 27.3 2.1 0.7 7.1
子育てに困ったときに相談したり情報が得られる場 23.4 27.8 38.6 2.4 0.6 7.3
子育てについて学べる場 13.1 26.8 47.3 4.7 0.8 7.3
留守家庭児童学級・留守家庭児童クラブの数 24.6 22.6 40.6 3.3 1.8 7.1
緊急時に子どもを一時的に預かるサービス等 26.4 26.8 34.7 3.4 1.3 7.4
小学校教育にかかる費用負担の軽減 32.3 22.8 35.8 1.5 0.7 7.0
安心して子どもが医療機関にかかれる体制 51.1 21.9 19.3 0.3 0.8 6.7
交通事故のない安全な道路環境 63.0 17.2 12.7 0.3 0.5 6.4
子どもの健康診断の回数や内容 25.4 23.3 43.6 0.5 0.5 6.8
防犯対策の行き届いた安全・安心なまちづくり 53.2 20.7 18.9 0.3 0.3 6.7
企業に対しての職場環境改善の働きかけ 31.8 22.3 37.3 1.0 0.9 6.7
重要
やや重要
普通
あまり重要でない
重要でない
無回答